

「豊田市のまちづくりと市民活動に 関する調査Ⅲ」報告書

—コロナ禍に向き合う地域社会—

科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書
(課題番号: 18H00925)



2023年(令和5年)3月

研究代表者 丹辺 宣彦
(名古屋大学大学院環境学研究科教授)

序 「豊田市のまちづくりと市民活動に関する調査Ⅲ」について

丹辺宣彦

1 調査の経緯と目的

本調査「豊田市のまちづくりと市民活動に関する調査Ⅲ—コロナ感染のもとでの暮らしと再建—」は、住民の絆づくりとまちづくりの活性化に資することをねらいとして2009年、2015年に引き続いて実施されたものである。丹辺を代表者とする科研費プロジェクト(基盤研究(B):18H00925)の一環として実施され、本来は2020年夏に実施する予定であったが、折あしくコロナ禍が発生し、延期を繰り返して2022年8月に行うことができた。2020年から感染が拡大して暫くは予防法・治療法もないウィルスで毒性が高かったため「三密」を避けて各種の社会活動は大幅に制限された。調査を実施したのも感染第七波が拡大期であったが、この時にはウィルス接種、治療法の開発も進み、毒性も弱くなっていたため、ある程度コントロールできるようになっていた。

こうした経緯で懸念されるのは、世界有数の産業都市で定住性が高く、地縁のつよさを生かして地域づくりをおこなってきた豊田の地域社会がどれだけダメージを受け、またどれだけそこから回復しているか、ということである。他方で、未婚化、少子高齢化、多文化共生、格差拡大、安全・安心などは、コロナ以前から問題となっていた長期的な課題であり、継続調査で引き続き検討していかななくてはならない。こうしたデータは地域社会にとって非常に重要な意味をもつにもかかわらず、官公庁統計のデータではカバーできず、また調査環境の悪化から現在では得にくいものとなっている。こうした点、また継続的社会調査としての課題・特長を考慮して、本調査は疫学的調査ではなく、コロナ禍が地域の社会構造とまちづくりにどれだけの影響を及ぼしたのか、また地域社会がどれだけレジリエンスを発揮したのか、しうるのかを検討することにした。

本質問紙調査の概要は以下の通りである。

- (1) 調査対象地域 豊田市旧市内
- (2) 調査対象者 2022年6月1日現在で豊田市に居住し住民基本台帳に記載されている25～74歳の男女
- (3) 調査対象サンプル数 3000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳を用い、男女2:1で系統抽出
- (5) 調査方法 郵送による配票・回収
- (6) 実施期間 2022年8月8日から9月末まで
- (7) 有効回収数 1179票 有効回収率40.4% (不達票を除く)
- (8) 調査予算: 科学研究費補助金(基盤研究(B): 18H00925)

2 本報告書の構成

本報告書はインターネット上で一般に公開することを考慮して、平易な構成・内容にすることを心がけた。章の構成は以下の通りである。第1章では、2022年質問紙調査の結果を概観できるように、質問項目順に単純集計の結果を確認し、簡単な解説を加えている。調査全体の結果を簡単に知るにはこの章を読めばよいし、他の章を読むための前提・手がかりにもなるだろう。第2章では、住民の移動・定住性、社会的ネットワークについて確認したうえで、まちづくり活動への参加とコロナへの不安感、組織的対応の意義について分析している。第3章では、暮らしを支える就労の状況と収入の変化、女性の正規就業をめぐる問題について検討する。第4章では生活するうえで感じているニーズと困りごと、消費活動について検討している。第5章については前回調査でも問題となった、家族・親族のきずなの状態、高齢化に伴う問題を取り上げて論じている。第6章ではグローバル化する地域社会の課題として、外国人住民との関係、多文化共生について検討している。終章では全体を振り返り、地縁性のつよい都市でのまちづくりの可能性、方向性について提言も交えて論じている。巻末には資料として調査に用いた質問紙を掲載してある。

全体として、本調査は豊田というユニークな産業都市の特徴と強み、課題を併せて示すものになっている。官公庁統計では把握することのできない地域の実態が示されているので、関係各方面で参照いただければ幸いである。またこの場を借りて、調査に協力いただいた多くの市民の方々に厚く御礼を申し上げたい。

2023年3月17日

名古屋大学 丹辺宣彦

目次

序 「豊田市のまちづくりと市民活動に関する調査Ⅲ」について.....	i
1 調査の経緯と目的.....	i
2 本報告書の構成.....	ii
第1章 「豊田市のまちづくりと市民活動に関する調査Ⅲ」集計結果の概要.....	1
第2章 豊田市住民の地域的紐帯とまちづくり—地域社会の変化とコロナ禍をめぐって—	24
1 移動と定住化.....	24
2 社会的ネットワークと地域的紐帯.....	26
3 まちづくり活動の経験と現在.....	29
4 コロナ感染症への不安と組織対応.....	32
小括.....	35
第3章 コロナ禍の下での仕事と性別役割—収入をめぐる変化と女性のフルタイム雇用化 —.....	36
1 豊田市における雇用の変化.....	36
2 コロナ禍における収入の変化.....	42
3 豊田市における女性の就業の規定要因.....	47
小括.....	50
第4章 コロナ禍の下での暮らし.....	51
1 コロナ禍の生活満足と不安：男女の違いに注目して.....	51
2 感染症への不安と暮らし.....	56
3 余暇・レジャー活動と健康配慮行動について.....	59
小括.....	61
第5章 親族関係と高齢社会.....	62
1 はじめに.....	62
2 方法.....	62
3 変わらない家族.....	63

4	変わる家族.....	67
5	小括（家族・親族関係）.....	70
6	高齢者の社会関係.....	71
7	小括（高齢者の社会関係）.....	76
8	まとめ.....	76
第6章	国際化・多文化共生とまちづくり— 外国人住民との付き合いの変化に注目して—	
	78
1	はじめに.....	78
2	外国人住民の概要と変化.....	78
3	外国人との付き合い.....	80
4	外国人に対する意識.....	87
5	多文化共生・国際交流活動への参加.....	89
	小括.....	91
終章	課題と展望—ポストコロナのまちづくりに向けて—.....	92
巻末資料		
執筆者一覧		

第1章 「豊田市のまちづくりと市民活動に関する調査Ⅲ」 集計結果の概要

丹辺宣彦・Song Gi Jung

本章では、2022年8月に実施した「豊田市のまちづくりと市民活動に関する調査Ⅲ」の単純集計結果を示している。序でも記したように、本調査は以下のように実施された。

- (1) 調査対象地域 豊田市旧市内
- (2) 調査対象者 2022年6月1日現在で豊田市に居住し住民基本台帳に記載されている25～74歳の男女
- (3) 調査対象サンプル数 3000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳を用い、男女2:1で系統抽出¹
- (5) 調査方法 郵送による配票・回収
- (6) 実施期間 2022年8月8日から9月末まで
- (7) 有効回収数 1179票 有効回収率40.4%（不達票を除く）
- (8) 調査予算：科学研究費補助金(基盤研究(B)：18H00925)

本調査は、2015年、2009年におこなった調査を継続し、比較しながら、豊田市のまちづくりの実態と変化、その諸原因を明らかにするためにおこなわれた。このため、質問紙のづくりも、過去の調査項目を引き継ぎながら多くの新しい項目を加えている。具体的な設問・選択肢については次節で示されているが、構成は以下のようになっている。最初の部分では性別(Q1)、年齢(Q2)に続いて、居住歴(Q3)、地域・仕事への愛着(Q4)、自由な時間があればしたい活動(Q5)、仕事に取り組む際に心がけていること(Q6)、仕事に習熟するのに必要な時間(Q7)、についてたずねている。続いて各種まちづくり活動への参加状況(Q8)、その際心がけていること(Q9)、団体活動への参加状況(Q10)が配置され、その後生活の満足度(Q11)、生活上の困りごと(Q12)の回答を求めている。さらに社会的ネットワークに関する質問項目が、親しい友人の数(Q13)、近所づきあい(Q14)、居住地域にいる職場の知人数(Q15)、困った時に相談できる立場の人(Q16)、といったかたちで設定されている。次に、外国人の地域参加への評価(Q17)、外国人友人の数・つきあい(Q18)、外国出張経験(Q19)といった多文化共生関連の項目を挟み、健康・食生活(Q20)、余暇・レジャー(Q21)についてたずねる項目が置かれている。質問紙の最後の部分には、個人の属性を問うフェース・シート項目が置かれている(Q22～Q30)。原票については巻末資料を参照されたい。

¹ 本調査では、男女比2:1でサンプリングをおこなった。対象年齢の男女比は128,810:112,634で1.14361…と工業都市の特徴を反映して元々男性が多い。

問1 あなたの性別(戸籍上の)はどちらですか。

1. 男性 63.0%(N=741)	2. 女性 37.0%(N=435)
--------------------	--------------------

・ 性比を 2:1 でサンプリングしたため、男性票の数が多くなっている。以下の項目では比率の数値を実際の人口の性比に合わせて調整して示してある。度数(N)は原票のままの数値である。

問2 あなたの年齢はつぎのどれに当たりますか。

1. 25～29 歳 3.8%(45)	2. 30～34 歳 5.2%(58)	3. 35～39 歳 8.0%(95)	4. 40～44 歳 8.5%(99)	5. 45～49 歳 13.5%(159)
6. 50～54 歳 13.0%(154)	7. 55～59 歳 11.0%(132)	8. 60～64 歳 10.1%(121)	9. 65～69 歳 10.1%(118)	10. 70～74 歳 16.7%(196)

・ 若い世代のサンプル数が少なくなっているが、これは実際の人口が少なくなっていること、また回答率が相対的に低いことの両方が原因である。

問3 豊田市と現在のお住まいには何年ほどお住まいですか。【数字をご記入ください】

豊田市に約 (37.9) 年 → うち現在の住まいに約 (24.4) 年
--



現在のお住まいに引っ越されて来た方にうかがいます(N=1019)。

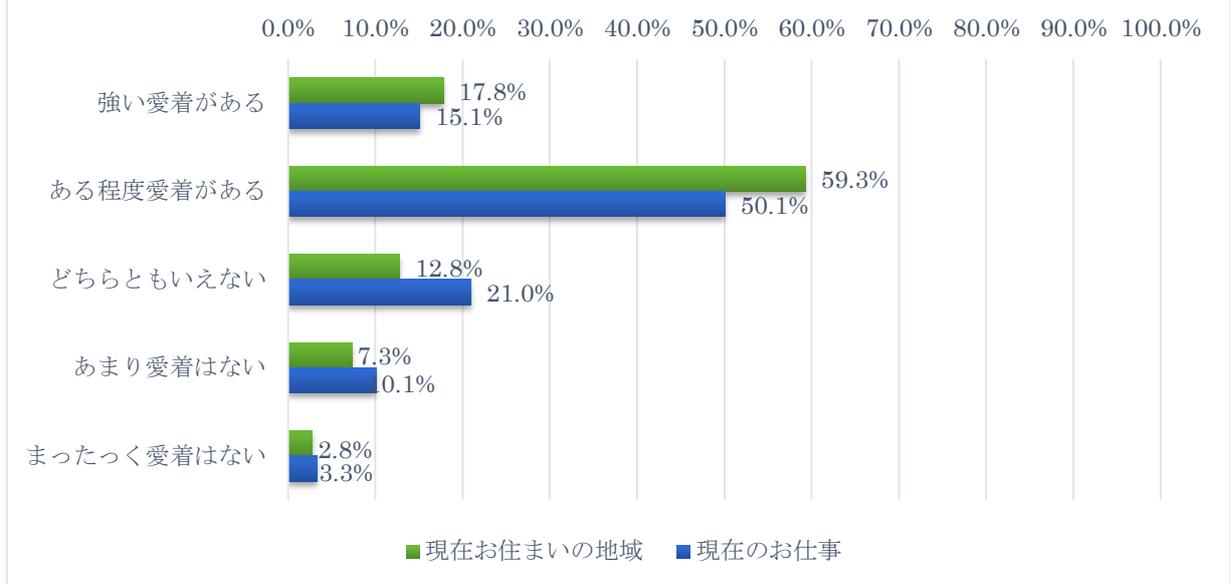
【付問】直前にお住まいの場所はどちらでしたか。また、その引越しのきっかけは何でしたか。

1. おなじ町内 8.0%(82)	2. 豊田市内 61.9%(630)	3. 愛知県内 (市町村名:) 20.8%(212)
4. 県外 (県名:) 8.7%(88)	5. 国外 (国名:) 0.6%(7)	
1. 仕事のため 10.6%(111)	2. 結婚のため 23.5%(216)	3. 住み替えのため 51.4%(497)
4. 家族の都合で 12.2%(116)	5. その他 () 2.3%(21)	

・ 市内居住年数、現住地居住年数とも非常に長くなっていて、定住性の高い地域であることが分かる。出身地は他市・県外の人も多いが、現住地には市内から越してくるケースが約 6 割を占める。

問4 あなたは、次にあげるようなことにどのくらい愛着を感じていますか。a)とb)のそれぞれについて、もっとも近い番号を選んでください。

	強い愛着がある	ある程度愛着がある	どちらともいえない	あまり愛着はない	まったく愛着はない	あてはまらない
a) 現在お住まいの地域	1 17.8%(215)	2 59.3%(691)	3 12.8%(149)	4 7.3%(89)	5 2.8%(33)	
b) 現在のお仕事	1 15.1%(135)	2 50.1%(448)	3 21.0%(188)	4 10.1%(90)	5 3.3%(31)	9



・定住化と雇用の安定を背景に、地域への愛着、仕事への愛着はともに高くなっている。

問5 自由に使える時間が今より増えたら、あなたは何をしたいと思いますか。次の a) ~ e) についてお答えください。【1~4の数字のうち一つを○で囲んでください】

	とても したいと思う	ある程度 したいと思う	あまりしたいとは思 わない	したいとは思 わない
a) 趣味や娯楽	1 56.0%(662)	2 39.4%(456)	3 3.9%(45)	4 0.7%(7)
b) 仕事や能力開発	1 13.4%(34)	2 44.9%(370)	3 29.4%(345)	4 12.4%(146)
c) 家族・友人と過ごす	1 40.6%(471)	2 52.3%(610)	3 6.2%(74)	4 0.9%(11)
d) ボランティア活動や NPO 活動	1 4.3%(49)	2 34.2%(388)	3 43.3%(505)	4 18.2%(219)

e) 地域交流や自治活動	1 2.8%(34)	2 31.9%(370)	3 44.9%(522)	4 20.4%(236)
--------------	---------------	-----------------	-----------------	-----------------

・趣味・娯楽や家族・友人と過ごすことなど、プライベートな時間を過ごす欲求はやはり強いようである。他方で市民活動・地域活動への志向性をもつ人も1/3以上いる。

問6 職場で仕事に取り組む際に心がけていること(いたこと)は何ですか。近いものの番号に○を付けてください【職場でお仕事をされたことのない方は次の問7へお進みください】。

A)	A)に近い	← ややA)	どちらとも 言えない	→ ややB)	B)に近い	B)
1) チームワークや信頼関係	1 33.1(348)	2 41.5%(452)	3 14.3%(163)	4 7.6%(89)	5 3.5%(41)	個人が自由に能力を發揮すること
2) 職場内の人間関係を深める	1 24.6%(258)	2 40.3%(437)	3 24.1%(269)	4 8.6%(100)	5 2.4%(26)	職場の外のネットワークをつくる
3) 創意や工夫、変化をおそれないこと	1 22.5%(255)	2 36.2%(399)	3 31.2%(331)	4 8.2%(87)	5 1.8%(19)	慣習や前例の尊重
4) 権威の尊重・リーダーシップの發揮	1 5.4%(63)	2 20.1%(228)	3 36.2%(389)	4 27.9%(292)	5 10.3%(115)	オープンな話し合いや民主的な運営
5) 目的の効率的な達成	1 16.9%(191)	2 34.1%(381)	3 25.8%(278)	4 16.1%(165)	5 7.1%(72)	純粋なやりがいや満足
6) 男女の区別なく活躍すること	1 20.7%(223)	2 29.1%(318)	3 26.8%(294)	4 14.9%(161)	5 8.6%(92)	男女がそれぞれ得意分野を生かす
7) 専門性を深く追求したい	1 16.4%(181)	2 26.9%(298)	3 31.4%(344)	4 17.4%(184)	5 8.0%(83)	こなせる業務の幅を広げたい

・職場の人間関係・チームワークを尊重する志向性がつよいが、創意・工夫を重視する価値も支持されている。男女平等への志向性もつよくなっている。

【お仕事のある方に】

問7 今のお仕事は新人が習熟するのに普通でおよそどれくらい時間がかかりますか？

→ 約(36.6)か月 (N=852)

・平均で3年余りとなっているが、人・職種による違いも大きい(S, D=50.2)ので注意が必要である。

問8 あなたは、どのような種類のまちづくり活動に参加したことがありますか【a)~j)について数字に○をしてください】。また、参加したことがある場合は、①この1年間の活動の有無、②今後の参加、についてお答えください。【あてはまる場合は空欄に○を記入してください】

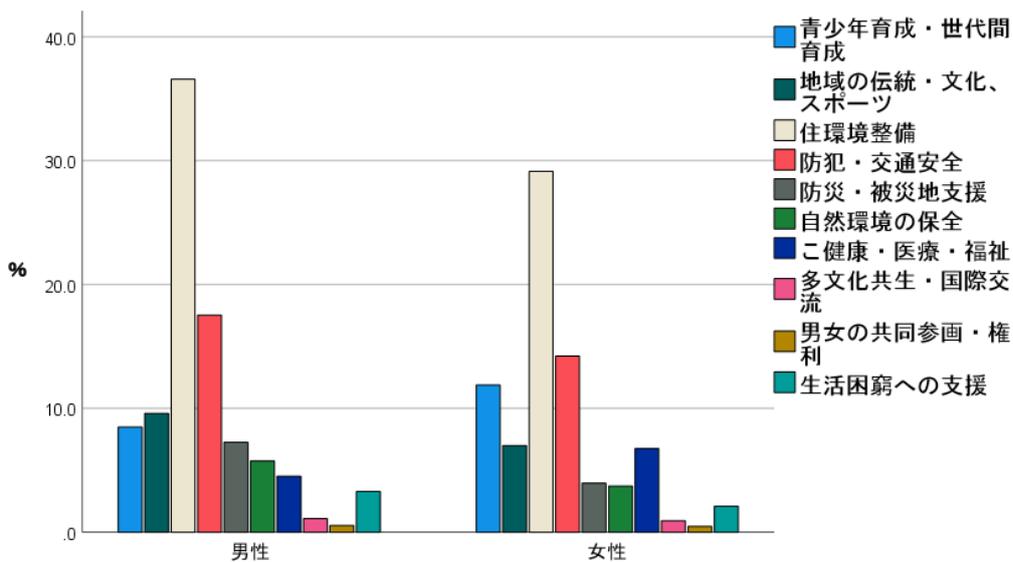
	まちづくり活動への 参加経験あり	この1年間に参加 あり	今後(も)参加した い【経験者のうち】
a) 青少年育成・世代 間交流	43.7% (N=481)	10.1% (N=113)	19.6% (N=98)
b) 地域の伝統・文化 やスポーツの振興	28.7% (N=330)	8.4% (N=100)	47.7% (N=160)
c) 住環境の整備・向 上活動	60.7% (N=709)	33.1% (N=394)	44.2% (N=315)
d) 防犯活動・交通安 全活動	38.8% (N=448)	16.0% (N=189)	41.2% (N=187)
e) 防災活動・被災地 支援	18.3% (N=219)	5.7% (N=70)	47.2% (N=104)
f) 自然環境の保全活 動	13.7% (N=165)	4.8% (N=58)	58.9% (N=97)
g) 健康・医療・福祉 を増進する活動	13.7% (N=156)	5.6% (N=62)	51.6% (N=79)
h) 多文化共生・国際 交流	7.4% (N=84)	1.0% (N=12)	62.8% (N=50)
i) 男女の共同参画や 権利にかかわる活動	3.5% (N=40)	0.5% (N=6)	77.5% (N=30)
j) 生活に困窮してい る人への支援	7.4% (N=89)	2.7% (N=34)	76.7% (N=65)
k) その他	1.5% (N=18)	-	-

【いままで参加経験がない方に】

→ 【付問1】 事情が許せば今後参加してみたい活動はどれですか。【〇はいくつでも】

1. 青少年の育成・世代間の交流 15.0%(42)	2. 地域の伝統・文化やスポーツの振興 11.3%(32)
3. 地域の住環境の整備・向上 10.6%(32)	4. 防犯活動・交通安全活動 9.1%(26)
5. 防災活動・被災地支援 9.6%(27)	6. 環境の改善・保全 15.4%(40)
7. 健康・医療・福祉の増進 10.0%(26)	8. 多文化共生・国際交流 2.5%(6)
9. 男女の共同参画・権利関連 13.2%(34)	10. 生活に困窮している人への支援 2.5%(6)
11. その他 () -	12. とくになし 46.6%(138)

・全体として、地域のニーズに地縁をきっかけに参加し応える「地縁型活動」への参加が活発である。女性では、青少年育成、健康・医療・福祉などケアに関連する活動が相対的に多くなっている。



問9 地域やコミュニティで活動する際に心がけていることは何ですか。近い番号に○を付けてください【活動した経験のない方は問11へお進みください】。

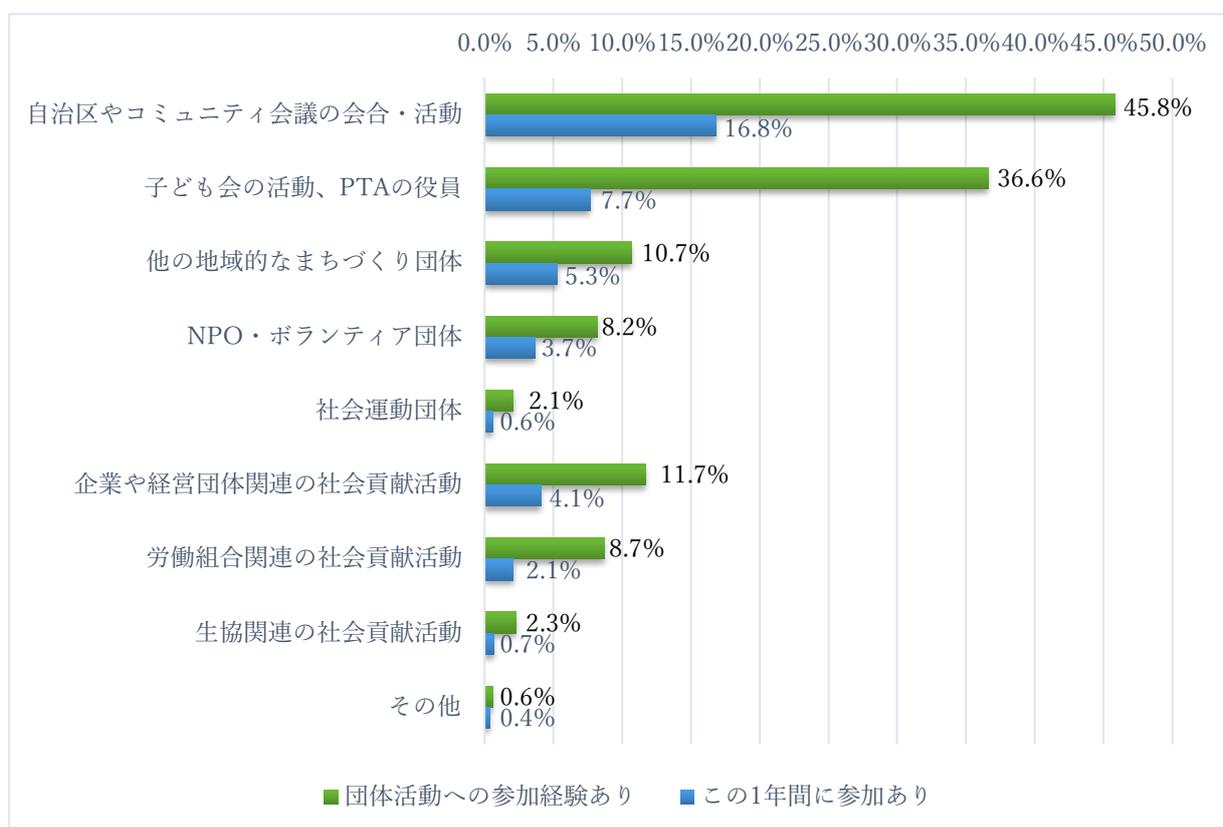
A)	A)に近い	← ややA)	どちらとも 言えない	→ ややB)	B)に近い	B)
1) チームワークや信頼関係	1 32.9%(252)	2 39.5%(303)	3 21.3%(163)	4 4.4%(34)	5 1.9%(15)	個人が自由に能力を發揮すること
2) 近隣の人間関係を深める	1 29.8%(233)	2 44.1%(344)	3 21.5%(161)	4 3.1%(25)	5 1.5%(11)	地域外のネットワークをつくる
3) 創意や工夫、変化をおそれないこと	1 8.0%(62)	2 23.7%(178)	3 48.0%(364)	4 16.0%(128)	5 4.3%(33)	慣習や前例の尊重
4) 権威の尊重・リーダーシップの發揮	1 2.2%(18)	2 8.2%(65)	3 41.1%(313)	4 33.4%(253)	5 15.1%(114)	オープンな話し合いや民主的な運営
5) 目的の効率的な達成	1 7.7%(59)	2 21.7%(168)	3 45.4%(347)	4 18.5%(143)	5 6.7%(50)	純粋なやりがいや満足
6) 男女の区別なく活躍すること	1 12.8%(100)	2 22.0%(169)	3 41.9%(322)	4 14.9%(114)	5 8.4%(61)	男女がそれぞれ得意分野を生かす

・地域の活動に関しては、仕事の場合より民主的な運営や慣習を尊重することが重視されるようである。

問10 次の a) ~ i) について、メンバーとして活動に参加したことのある団体はありますか【数字に○をつけてください】。

	団体活動への参加 経験あり	この1年間に参加あり	活動を通じて新しい友人が できた【経験者のうち】
a) 自治区やコミュニティ会議の会合・活動	45.8% (N=516)	16.8% (N=211)	28.9% (N=149)
b) 子ども会の活動、PTAの役員	36.6% (N=377)	7.7% (N=84)	38.0% (N=139)
c) 他の地域的なまちづくり団体	10.7% (N=123)	5.3% (N=65)	50.4% (N=60)

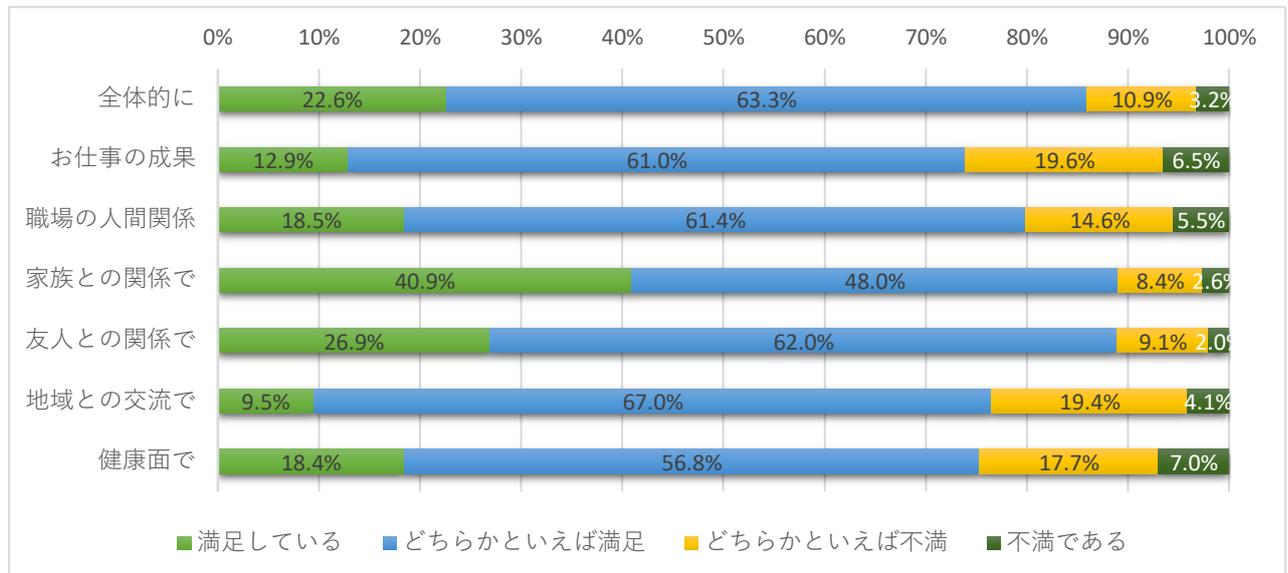
d)NPO・ボランティア 団体	8.2% (N=90)	3.7% (N=43)	45.7% (N=41)
e)社会運動団体	2.1% (N=23)	0.6% (N=8)	60.9% (N=13)
f)企業や経営団体関連 の社会貢献活動	11.7% (N=131)	4.1% (N=48)	37.0% (N=47)
j)労働組合関連の社会 貢献活動	8.7% (N=105)	2.1% (N=27)	29.2% (N=29)
h)生協関連の社会貢献 活動	2.3% (N=23)	0.7% (N=7)	53.8% (N=12)
i)その他	0.6% (N=6)	0.4% (N=4)	62.5% (N=4)



・自治区をはじめとする地縁的団体への活動がもっとも活発であり、企業・労組の社会貢献活動など、「職縁」による活動も参加が1割前後に達する。

問 11 あなたは現在の生活について、どの程度満足していますか。【数字に○を付けてください】

	満足している	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満である
a) 全体的に	22.6%(264)	63.3%(713)	10.9%(94)	3.2%(28)
b) お仕事の成果	12.9%(110)	61.0%(532)	19.6%(180)	6.5%(60)
c) 職場の人間関係	18.5%(154)	61.4%(534)	14.6%(131)	5.5%(50)
d) 家族との関係	40.9%(459)	48.0%(535)	8.4%(94)	2.6%(28)
e) 友人との関係	26.9%(294)	62.0%(722)	9.1%(110)	2.0%(23)
f) 地域との交流	9.5%(102)	67.0%(744)	19.4%(224)	4.1%(46)
g) 健康面で	18.4%(205)	56.8%(640)	17.7%(210)	7.0%(82)

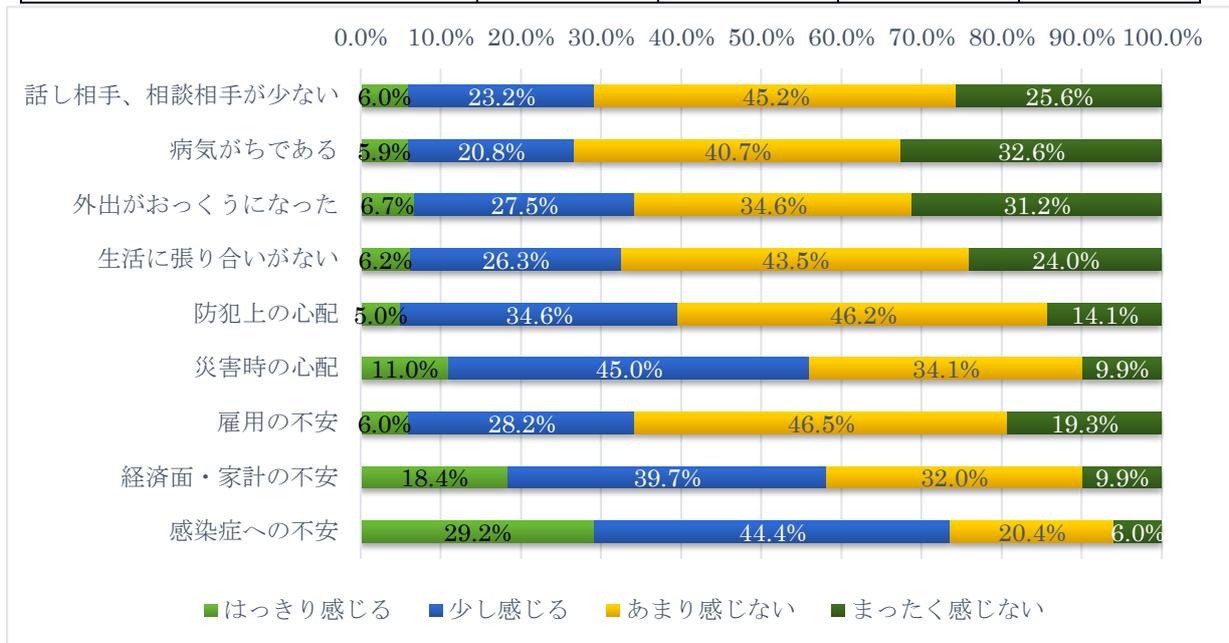


・全体的に生活満足度は高めであり、とくに家族との関係で満足度が高い。

問 12 現在生活するうえで具体的にお困りのことがありますか。【数字に○を付けてください】

	はっきり感じる	少し感じる	あまり感じない	まったく感じない
a) 話し相手、相談相手が少ない	6.0%(68)	23.2%(267)	45.2%(522)	25.6%(287)
b) 病気がちである	5.9%(70)	20.8%(239)	40.7%(466)	32.6%(367)
c) 外出がおっくうになった	6.7%(76)	27.5%(344)	34.6%(403)	31.2%(366)
d) 生活に張り合いがない	6.2%(71)	26.3%(303)	43.5%(494)	24.0%(275)

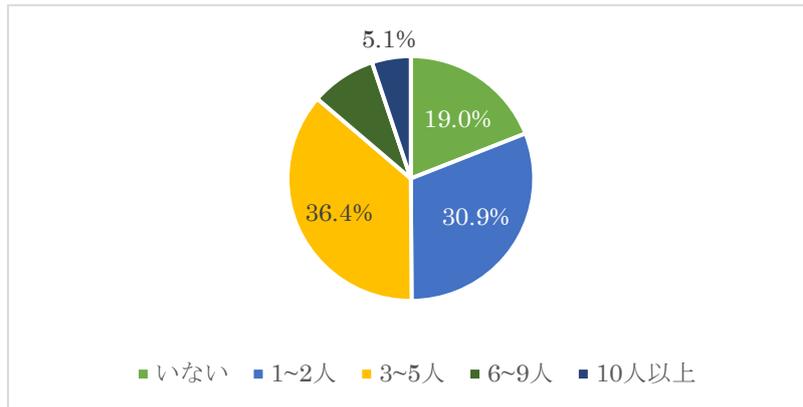
e) 防犯上の心配	5.0%(57)	34.6%(390)	46.2%(531)	14.1%(164)
f) 災害時の心配	11.0%(118)	45.0%(510)	34.1%(399)	9.9%(117)
g) 雇用の不安【退職した方は除く】	6.0%(52)	28.2%(239)	46.5%(402)	19.3%(174)
h) 経済面・家計の不安	18.4%(209)	39.7%(454)	32.0%(367)	9.9%(116)
i) 感染症への不安	29.2%(330)	44.4%(508)	20.4%(237)	6.0%(72)



・コロナ感染の第7波の拡大期に調査がおこなわれたこともあり、「感染症への不安」と「経済面・家計の不安」が大きくなっている。「災害時の不安」もやや高めになっている。

問13 あなたは、ふだんいっしょにお茶や食事を楽しむ友人が何人くらいいますか。

1. いない	2. 1～2人	3. 3～5人
19.0%(231)	30.9%(364)	36.4%(403)
4. 6～9人	5. 10人以上	
8.6%(93)	5.1%(59)	

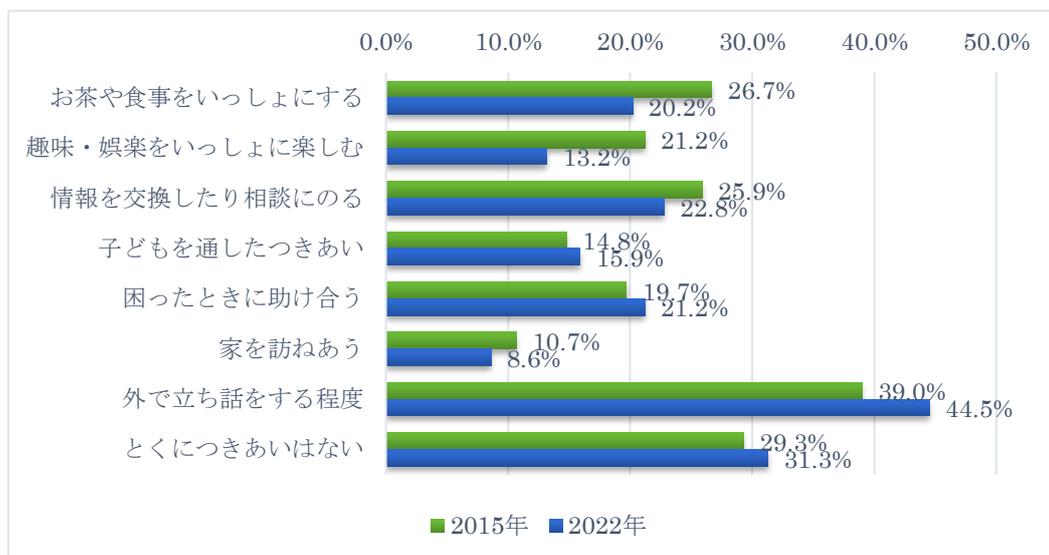


・親しい友人の存在・人数を示す項目で多くの人が持つ結果となっているが、約2割の人が「いない」と答えており社会的孤立が若干懸念される。

問 14 あなたは、ご近所の親しい方とはどのようなお付き合いをされていますか。

【〇はいくつでも】

1. お茶や食事をいっしょにする 20.2%(215)	2. 趣味・娯楽をいっしょに楽しむ 13.2%(151)
3. 情報を交換したり相談にのる 22.8%(250)	4. 子どもを通したつきあい 15.9%(172)
5. 困ったときに助け合う 21.2%(238)	6. 家を訪ねあう 8.6%(90)
7. 外で立ち話をする程度 44.5%(520)	8. とくにつきあいはない 31.3%(374)



・「お茶や食事をいっしょにする(26.7%→20.2%)」「趣味・娯楽をいっしょに楽しむ(21.2%→13.2%)」「家を訪ねあう(10.7%→8.6%)」など、室内で対面的接触を多くともなう活動では2015年調査と比べて減少が目立つ。対して、「困ったときに助け合う(14.8%→15.9%)」「子どもを通したつきあい(14.8%→15.9%)」「外で立ち話をする程度(39.0%→44.5%)」では、変わらないかやや増加している。

問 15 お住まいの地域に、職場や仕事関係で知り合った知人の方はいらっしゃいますか。

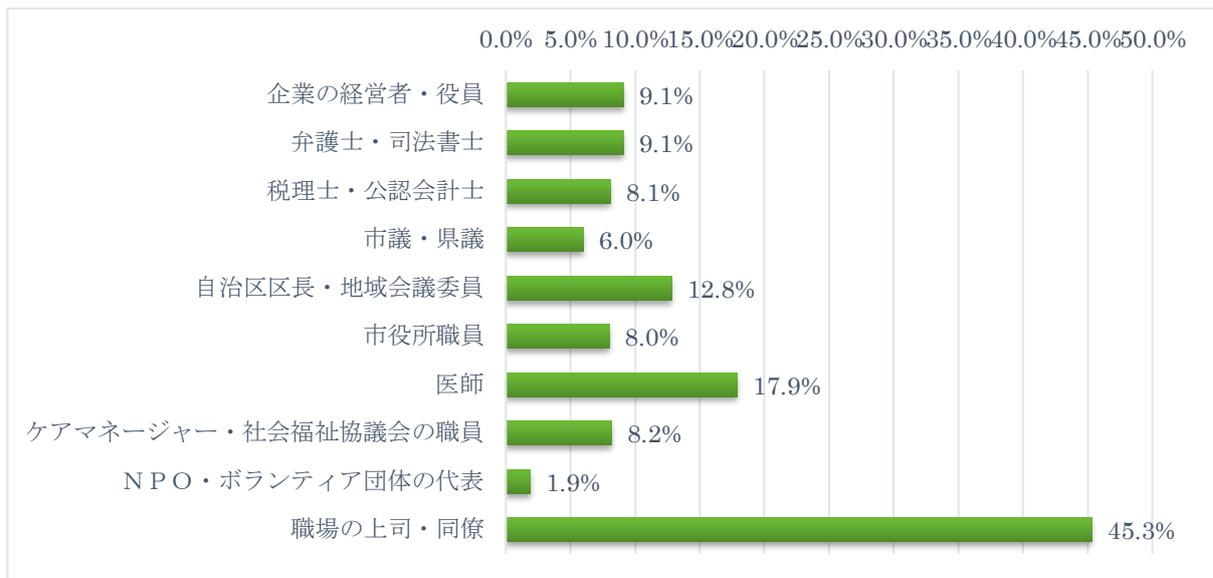
1. いない	2. 1～2人いる	3. 3～5人いる	4. 6～9人いる
42.1%(464)	25.1%(280)	18.0%(205)	3.3%(36)
5. 10人以上	6. 分からない		
11.6%(131)	(51)		



・豊田では職場と住居が比較的近いいため、職場の知人が居住地にいるケースが多いが、2015年調査時に比べるとその人数は減少傾向にある。

問 16 困ったことが起きたときに、相談できる下のような立場の人はいますか【〇はいくつでも】

1. 企業の経営者・役員	2. 弁護士・司法書士	3. 税理士・公認会計士
9.1%(116)	9.1%(111)	8.1%(100)
4. 市議・県議	5. 自治区区長・地域会議委員	6. 市役所職員
6.0%(75)	12.8%(155)	8.0%(92)
7. 医師	8. ケアマネージャー・社会福祉協議会の職員	
17.9%(214)	8.2%(93)	
9. NPO・ボランティア団体の代表	10. 職場の上司・同僚	
1.9%(21)	45.3%(541)	



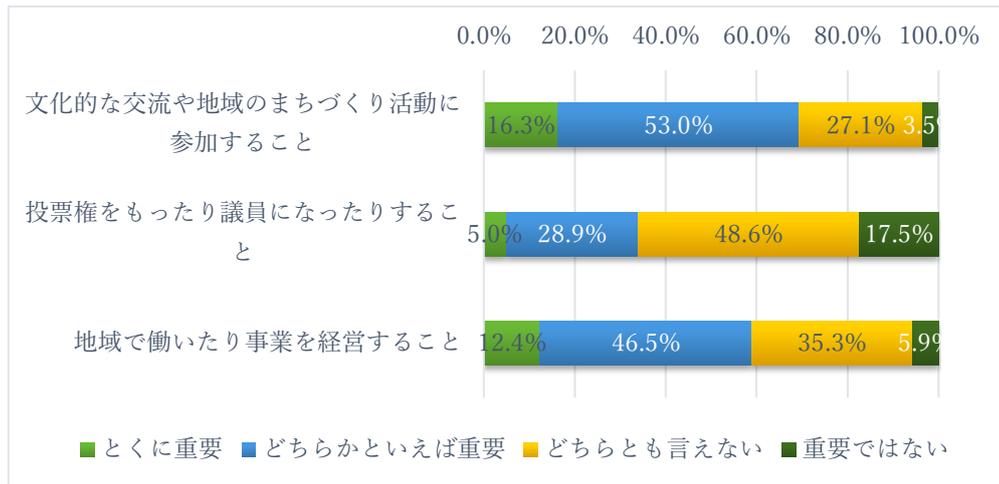
・困ったことが起きたときの相談相手の立場をたずねた項目であるが、やはり「職場の上司・同僚」がもっとも多い結果となった。

問 17 さまざまな国から豊田市に来ての人が地域社会の活動に参加することについて、どれほど重要と思われますか。a) ~ c) についてお答えください。【数字の一つに○】

	とくに重要	どちらかといえば重要	どちらとも言えない	重要ではない
a) 文化的な交流や地域のまちづくり活動に参加すること	16.3%(191)	53.0%(602)	27.1%(317)	3.5%(43)
b) 投票権をもったり議員になったりすること	5.0%(60)	28.9%(329)	48.6%(547)	17.5%(212)
c) 地域で働いたり事業を営すること	12.4%(146)	46.5%(527)	35.3%(407)	5.9%(72)

↳あなたご自身が日本国籍でない場合は国籍を教えてください→ () 国籍

韓国(4)、中国(3)、ブラジル(3)、ベトナム(3)、インドネシア(1)、オーストラリア(1)、ネパール(1)



・外国人の地域参加について最も重要と考えられているのは文化交流や地域での交流であり、続いて経済的活動、政治活動の順となった。

問 18 外国人(日本人以外)の友人・親しい方はいらっしゃいますか。【一つに〇】

	いない	1人	2~3人	数人以上いる
a) 職場関係に	84.2%(960)	5.7%(66)	6.1%(73)	4.0%(48)
b) 住んでいる地域に	91.9%(1069)	4.0%(45)	2.2%(25)	1.9%(22)
c) 親族関係で	94.6%(1094)	3.1%(36)	1.0%(11)	1.3%(15)
d) インターネット上で	94.3%(1083)	1.0%(11)	1.8%(21)	2.9%(34)

「いる」方にうかがいます

↓

付問1 一番親しい人の国籍は 中国(54)、ブラジル(32)、アメリカ(27)、フィリピン(21)、

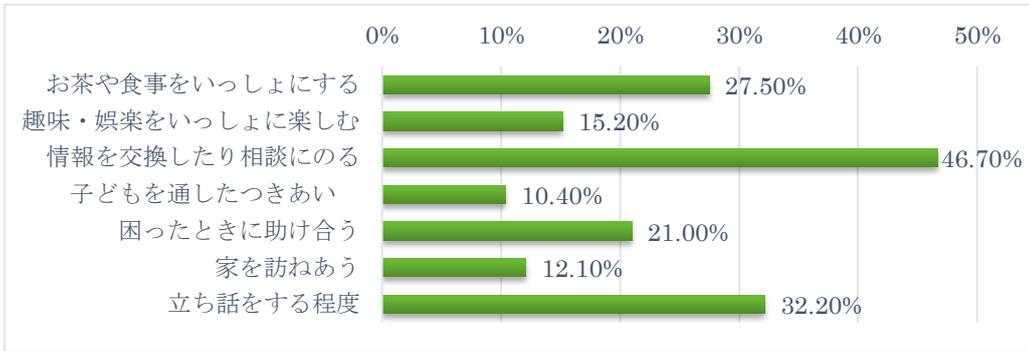
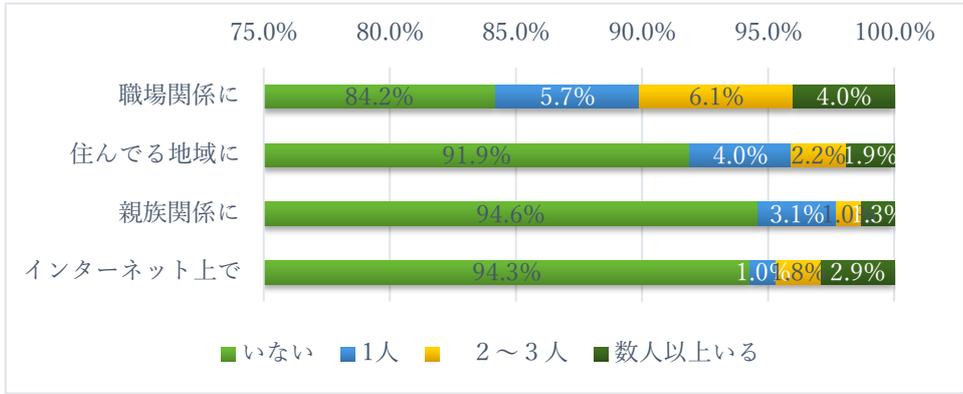
↓

韓国(15)、ベトナム(15)、台湾(10)...

付問2 その方とはどのようなお付き合いをされていますか【〇はいくつでも】

1. お茶や食事をいっしょにする 27.5%(68)	2. 趣味・娯楽をいっしょに楽しむ 15.2%(38)
3. 情報を交換したり相談にのる 46.7%(122)	4. 子どもを通したつきあい 10.4%(24)

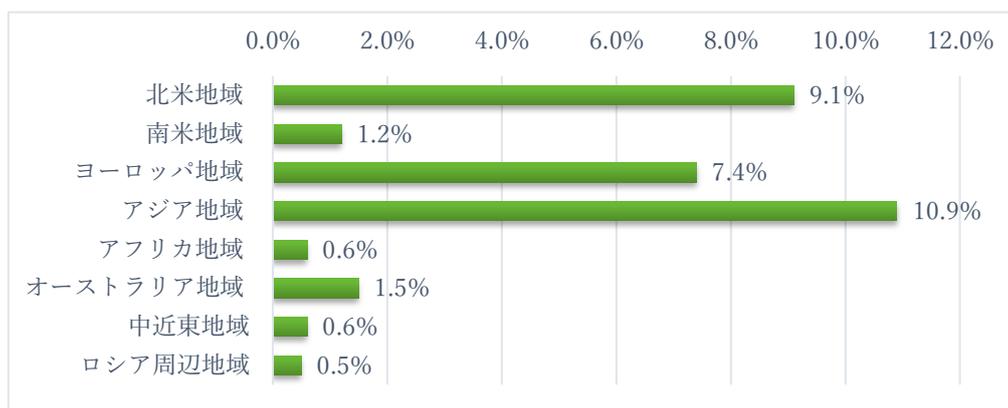
5. 困ったときに助け合う	6. 家を訪ねあう
21.0%(55)	12.1%(29)
7. 立ち話をする程度	
32.2%(83)	



・外国人の友人・親しい人について社会的文脈別にたずねたところ、職場でもつ人が一番多く、居住地域がそれに続く結果となった。親しい外国人とのつきあいについては、「情報を交換したり相談にのる」がもっとも多く、「お茶や食事をいっしょにする」「困ったときに助け合う」がこれに続いている。

問 19 お仕事で一週間以上外国の地域に出張されたことがありますか【〇はいくつでも】。

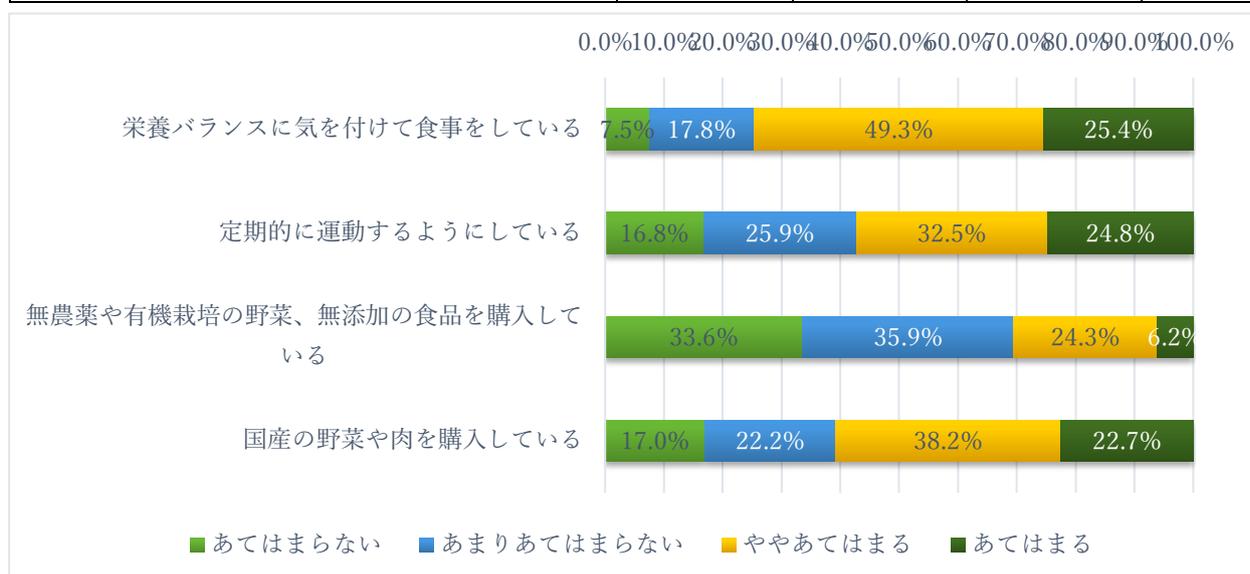
1. 北米地域 9.1%(123)	2. 南米地域 1.2%(16)
3. ヨーロッパ地域 7.4%(98)	4. アジア地域 10.9%(147)
5. アフリカ地域 0.6%(8)	6. オーストラリア地域 1.5%(21)
7. 中近東地域 0.6%(8)	8. ロシア周辺地域 0.5%(7)
9. とくにない 81.5%(929)	



・自動車産業のためと考えられるが出張先はアジア、北米、ヨーロッパ地域の三地域がとくに多い。

問 20 健康維持や食生活にどれくらい配慮しておられますか。【一つに○】

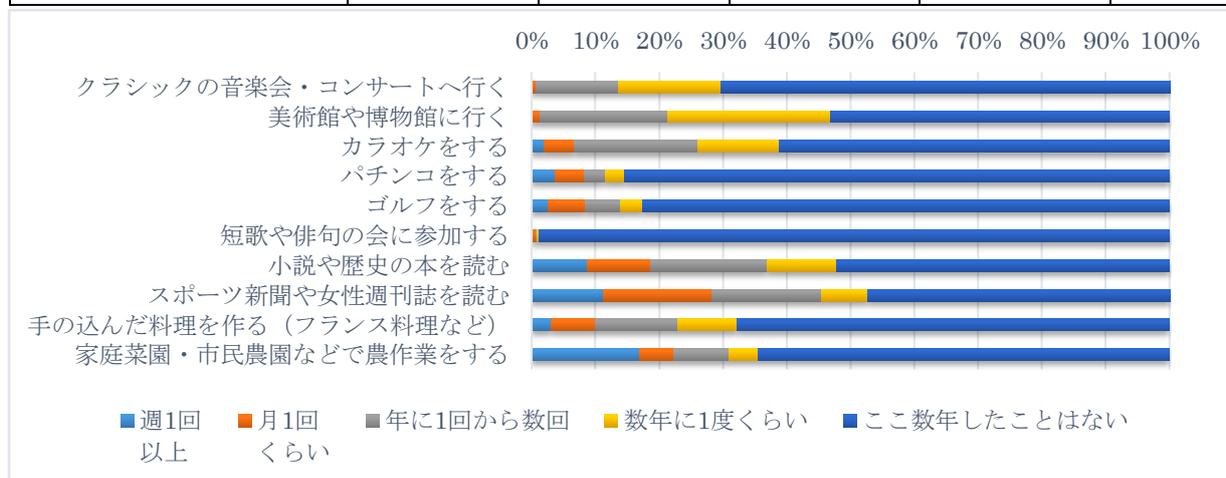
	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
a) 栄養バランスに気を付けて食事をしている	7.5%(95)	17.8%(219)	49.3%(577)	25.4%(283)
b) 定期的に運動するようにしている	16.8%(199)	25.9%(298)	32.5%(380)	24.8%(295)
c) 無農薬や有機栽培の野菜、無添加の食品を購入している	33.6%(404)	35.9%(431)	24.3%(268)	6.2%(68)
d) 国産の野菜や肉を購入している	17.0%(217)	22.2%(270)	38.2%(436)	22.7%(250)



・健康維持や食生活に配慮している人が多くなっているが、コストがかかる活動ではやや比率が低くなる傾向がみられる。

問 21 余暇やレジャーをどれくらい楽しんでおられますか。コロナ禍以前の最近の 5、6 年についてお答えください。【一つに〇】

	週1回以上	月1回くらい	年に1回から数回	数年に1度くらい	ここ数年したことはない
a) クラシックの音楽会・コンサートへ行く	0.1%(1)	0.6%(6)	12.9%(132)	16.1%(174)	70.4%(823)
b) 美術館や博物館に行く	0.0%(0)	1.3%(15)	20.1%(223)	25.5%(286)	53.1%(615)
c) カラオケをする	1.9%(21)	4.8%(57)	19.3%(221)	12.9%(147)	61.0%(694)
d) パチンコをする	3.7%(47)	4.5%(57)	3.3%(41)	3.1%(39)	85.4%(953)
e) ゴルフをする	2.6%(33)	5.8%(74)	5.5%(71)	3.5%(44)	82.6%(911)
f) 短歌や俳句の会に参加する	0.2%(2)	0.5%(5)	0.1%(1)	0.3%(3)	98.9%(1116)
g) 小説や歴史の本を読む	8.8%(100)	9.8%(108)	18.4%(203)	10.8%(121)	52.2%(603)
h) スポーツ新聞や女性週刊誌を読む	11.3%(134)	16.9%(190)	17.2%(183)	7.3%(78)	47.4%(553)
i) 手の込んだ料理を作る (フランス料理など)	3.1%(35)	6.9%(71)	12.9%(135)	9.3%(99)	67.7%(794)
j) 家庭菜園・市民農園などで農作業をする	17.0%(92)	5.3%(63)	8.6%(93)	4.6%(52)	64.4%(738)



・ハイカルチャー項目では頻度が低く、中間文化から大衆文化になるほど経験の頻度は高くなっている。

最後に、あなたご自身のことについておうかがいします。

問 22 いっしょに暮らしているご家族の人数は何人ですか。

あなたを含めて (3.20) 人

↓
ご家族と同居されている方にうかがいます。

【付問】あなたの家族構成は次のうちのどれですか。(非該当 N=100)

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. 核家族 (父親・母親と子どもだけ) | 76.3%(806) |
| 2. 三世帯同居家族 (親子と祖父母) | 17.9%(186) |
| 3. その他 (どのような構成ですか?) | 5.8%(62) |

問 23 あなたは現在結婚されていますか。

- | | |
|--------------------------------|------------|
| 1. 未婚 | 12.2%(148) |
| 2. 既婚・配偶者あり (現在、夫または妻がいる) | 78.0%(916) |
| 3. 離別・死別 (夫または妻と離別・死別して、現在は独身) | 9.8%(104) |

→ **【結婚したことのある方 (2または3を選んだ方)】**にうかがいます。

【付問】あなた方ご夫婦はどのようなきっかけで知り合いましたか。もっとも近い番号に○をつけてください (再婚の方は、最近の結婚についてお答えください)。

- | | | | |
|---------------|------------|-----------------|------------|
| 1. 家族・親族の紹介 | 7.2%(69) | 2. 職場の上司の紹介 | 3.2%(33) |
| 3. 友人の紹介 | 22.7%(223) | 5. その他の知り合いの紹介 | 0.3%(3) |
| 5. 学校が一緒 | 19.3%(189) | 6. 職場やアルバイト先が一緒 | 26.5%(254) |
| 7. 団体やサークルが一緒 | 4.5%(44) | 8. 旅先や町中で | 6.9%(69) |
| 9. 近所に住んでいた | 2.1%(20) | 10. その他 | 7.3%(71) |

問 24 現在お子さんはいらっしゃいますか。(同居していない場合も含めて)

1. いる → (2.13) 人 80.3%(928)	2. いない 19.7%(234)
----------------------------------	----------------------



【お子さんがいらっしゃる方にうかがいます。】

【付問】上のお子さんから順に(3人まで)、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。年齢は数字をご記入ください。(省略)

問 25 豊田市内にご親戚(親・子を含む)の家は何軒ほどありますか。

1. 1～2軒 34.1%(394)	2. 3～5軒 28.1%(325)	3. 6～9軒 8.5%(95)
4. 10軒以上 5.5%(65)	5. なし 23.8%(278)	

問 26 世間一般の生活水準を仮に下ののように5つに分けると、あなたはどこに入ると思われますか。

【番号に○を】

1. 上の 1/5 3.0%(35)	2. 2番目の 1/5 15.3%(171)	3. 中位の 1/5 57.8%(644)	4. 4番目の 1/5 19.0%(212)	5. 下の 1/5 4.9%(56)
----- ----- ----- ----- -----				

(問 27 と問 28 については男女それぞれに分けて集計している。)

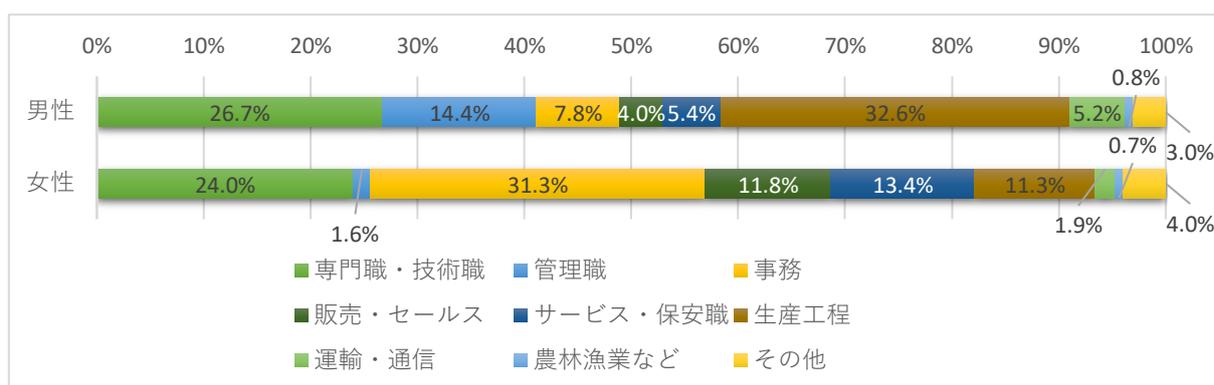
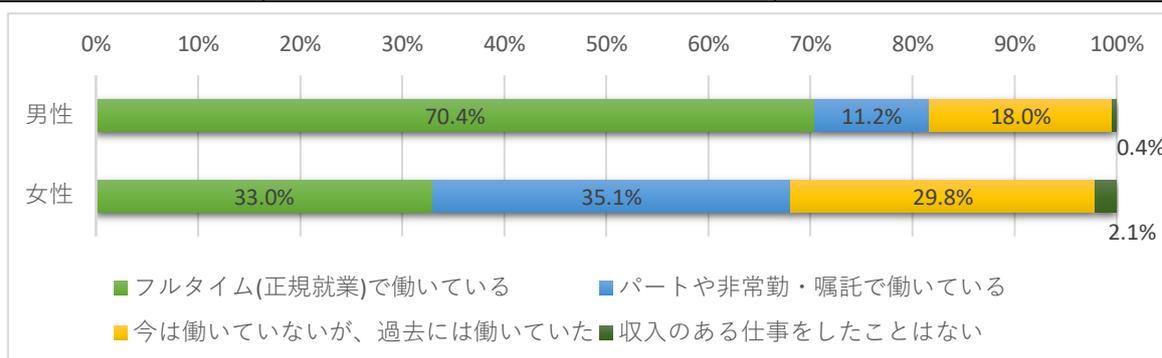
問 27 つぎの a)～c) について、あてはまるものに○をつけてください。配偶者のいない方は「あなた」の欄だけお答えください。【それぞれの欄の数字に一つ○をつけてください】

	男性	女性
a) 中学校を卒業されたときはどこにお住まいでしたか。	1. 現在の住所 13.3%(97) 2. 豊田市内 35.4%(258) 3. 愛知県内 16.2%(118) 4. 県外 33.9%(247) 5. 国外 1.2%(9)	1. 現在の住所 10.4%(45) 2. 豊田市内 35.7%(154) 3. 愛知県内 27.4%(118) 4. 県外 24.8%(107) 5. 国外 1.6%(7)
b) 最後に卒業された学校はつぎのどれにあたりますか。	1. 中学校 6.1%(44) 2. 高校・専修学校・専門学校 49.5%(360) 3. 短期大学・高等専門学校 6.2%(45) 4. 大学 31.2%(227) 5. 大学院 7.0%(51)	1. 中学校 6.9%(26) 2. 高校・専修学校・専門学校 47.0%(202) 3. 短期大学・高等専門学校 23.5%(101) 4. 大学 22.6%(97) 5. 大学院 0.9%(4)
c) 学校を卒業後に、 <u>最初</u> についてのお仕事はなんでしたか。	1. フルタイム（正規就業） 89.5%(650) 2. 派遣社員・契約社員・パート・アルバイトなど 6.1%(44) 3. 自営業・家族従業者 3.3%(24) 4. 仕事に就かなかった 1.1%(8)	1. フルタイム（正規就業） 84.4%(362) 2. 派遣社員・契約社員・パート・アルバイトなど 11.0%(47) 3. 自営業・家族従業者 3.3%(14) 4. 仕事に就かなかった 1.4%(6)
d) ご両親はどちらに住んでいますか（別々の場合は近い方をお答えください）。	1. 同居している 18.7%(136) 2. 豊田市内 21.3%(155) 3. 愛知県内 10.3%(75) 4. 県外（海外含む） 21.7%(158) 5. 両親ともいない 28.1%(205)	1. 同居している 14.8%(64) 2. 豊田市内 26.2%(113) 3. 愛知県内 17.4%(75) 4. 県外（海外含む） 15.3%(66) 5. 両親ともいない 26.2%(113)

問 28 現在、または以前にどのようなお仕事をなさっていますか。配偶者のいない方は「あなた」の欄だけお答えください【それぞれの欄の数字に一つ○をつけてください】

	男性	女性
a) 現在、収入をともなう仕事をしていますか。 以下は右で 1~3 を選ばれた方にうかがいます ↓	1. フルタイム(正規就業)で働いている 70.4%(511) ↳約(24.8)年勤めた 2. パートや非常勤・嘱託で働いている 11.2%(81) 3. 今は働いていないが、過去には働いていた 18.0%(131) 4. 収入のある仕事をしたことはない 0.4%(3)	1. フルタイム(正規就業)で働いている 33.0%(142) ↳約(14.6)年勤めた 2. パートや非常勤・嘱託で働いている 35.1%(151) 3. 今は働いていないが、過去には働いていた 29.8%(128) 4. 収入のある仕事をしたことはない 2.1%(9)
b) そのお仕事の種類は、どれに当たりますか。 (現在お仕事をしておられない方は、これまでに一番長く勤めた仕事について○をつけてください。)	1. 専門職・技術職 26.7%(194) 2. 管理職 14.4%(105) 3. 事務 7.8%(57) 4. 販売・セールス 4.0%(29) 5. サービス・保安職 5.4%(39) 6. 生産工程 32.6%(237) 7. 運輸・通信 5.2%(38) 8. 農林漁業など 0.8%(86) 9. その他 3.0%(22)	1. 専門職・技術職 24.0%(102) 2. 管理職 1.6%(7) 3. 事務 31.3%(133) 4. 販売・セールス 11.8%(50) 5. サービス・保安職 13.4%(57) 6. 生産工程 11.3%(48) 7. 運輸・通信 1.9%(8) 8. 農林漁業など 0.7%(3) 9. その他 4.0%(17)
c) 雇用関係 ↓	1. 雇用されている(いた) 91.7%(661) 2. 人を雇っている(いた) 3.5%(25) 3. 自営・家族経営 4.9%(35)	1. 雇用されている(いた) 93.7%(389) 2. 人を雇っている(いた) 1.0%(4) 3. 自営・家族経営 5.3%(22)
d) お勤め先の規模 ↓	1. 1~29名 16.2%(117) 2. 30~299名 16.9%(122) 3. 300~999名 11.4%(82) 4. 1000名以上 50.6%(365) 5. 官公庁・公立学校 5.0%(36)	1. 1~29名 29.7%(123) 2. 30~299名 27.3%(113) 3. 300~999名 10.4%(43) 4. 1000名以上 24.6%(102) 5. 官公庁・公立学校 8.0%(833)

e) トヨタ自動車関連の会社ですか ↓	1. トヨタ自動車 26.7%(272) 2. トヨタ関連のメーカー・販売会社など 27.3%(196) 3. その他 46.0%(330)	1. トヨタ自動車 7.9%(32) 2. トヨタ関連のメーカー・販売会社など 12.8%(52) 3. その他 79.3%(322)
f) お勤め先の場所 ↓	1. 豊田市内 71.5%(518) 2. 名古屋市内 7.0%(51) 3. それ以外 21.4%(155)	1. 豊田市内 75.4%(310) 2. 名古屋市内 5.8%(24) 3. それ以外 18.7%(77)
g) 通勤時間	1. 約 (29.9) 分 97.1%(692) 2. 自宅・テレワーク 2.9%(21)	1. 約 (22.7) 分 96.0%(382) 2. 自宅・テレワーク 4.0%(16)
h) コロナ問題発生前に比べて現在の収入は変わりましたか	1. 減った 26.9%(163) 2. 増えた 2.5%(15) 3. 変わらない 70.7%(429) 平均(5.22)% 減少	1. 減った 16.6%(50) 2. 増えた 4.0%(12) 3. 変わらない 79.5%(240) 平均(1.96)% 減少



問 29 現在のお住まいは、どのような種類のものですか。

1. 一戸建て（持ち家） 77.0%(907)	2. 一戸建て（賃貸） 1.3%(15)	3. 民間集合住宅（持ち家） 7.0%(81)
4. 民間集合住宅（賃貸） 10.4%(112)	5. 公営住宅 2.5%(28)	6. 社宅・寮など 1.8%(23)

問 30 現在は、どの地区にお住まいですか。

1. 拳母地区 34.1%(383)	2. 上郷地区 12.4%(140)	3. 猿投地区 18.9%(214)
4. 高岡地区 15.2%(168)	5. 高橋地区 15.4%(173)	6. 松平地区 4.0%(45)

第2章 豊田市住民の地域的紐帯とまちづくり

—地域社会の変化とコロナ禍をめぐって—

丹辺宣彦

長く繁栄した産業都市であるため、豊田市では住民の定住化が進み、かつて働くために来住した人たちの地域的紐帯も強くなっており、それが地縁的なまちづくり活動への参加を活性化していた(丹辺・岡村・山口 2014)。しかし近年は未婚化・少子化が進み、階層格差が拡大し始めるなかで、地域とのつながりが弱まる傾向も現れていた(丹辺・中村・山口 2020)。コロナ禍の拡大は対面的接触をリスクにさらし地域のつながりにもまちづくり活動参加にも負の影響をもたらしたと考えられるので、これらの点について今回の調査データを基に検討していきたい。

1 移動と定住化

まずは出身地について確認してみよう。本調査には、「中学校を卒業したときのお住まい」についてたずねた項目があるので、これを基に確認してみよう(表 2-1)。

表 2-1 性別・就労先別にみた出身地(退職者含む：%)

	現住地	豊田市内	愛知県内	県外	国外	合計度数
男性	13.4	35.0	16.1	34.3	1.3	715
自動車産業就業	11.4	27.4	13.4	46.5	1.3	387
その他	15.9	43.9	19.2	19.8	1.2	328
女性	10.3	35.7	27.8	24.4	1.7	406
自動車産業就業	8.3	33.3	22.6	32.1	3.6	84
その他	10.9	36.3	29.2	22.4	1.2	322
全体 ²	12.0	35.4	21.5	29.7	1.4	1121

$$\chi^2=57.10(p<.001)/\chi^2=6.33(p=.176)$$

この結果をみると全体では豊田市内出身が半数近くを占める。自動車産業³で就労する・した男性では県外出身者が半数近くと相対的に多いが、女性ではその差は少なく、県内出身者(=中距離の移動)が相対的に多い。

² 全体の比率の値については性比を実人口比に合わせて調整してある。

³ ここではトヨタ自動車および関連企業に就労している・していたケースを「自動車産業」に分類した。

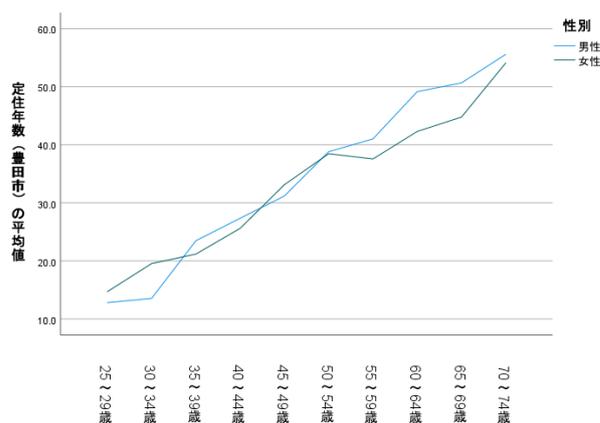


図2-1 年齢と居住年数

市外出身者が多い地域にとっては、定住化の度合いが地域へのコミットメントを左右する要因として重要になる。定住化居住年数について確認すると、豊田市での居住年数の平均値は37.9年(N=1174)、現住地での平均値は24.4年(N=1160)となっていて、定住性が高いことが分かる。雇用が相対的に安定していること、転勤が少ないことが主な要因であろう。地区別にみると、中心部の挙母地区のみ市内居住が35.9年で、現住地居住が21.1年と相対的に短くなっている。

男女別に年齢と市内での居住年数との関係を見たのが、図2-1である。男女ともに、年齢とともに豊田での定住年数が高くなっていて、70歳以上では50年を越している。定住層に対して、新規来住層が相対的に少ないことを示している。男性の若いカテゴリーで平均値が低く平坦であるのは、この年代で他地域からの新来住層、おそらく自動車関連産業で働きに来る人が多いことを示している。



図2-2 年齢別にみた地域への愛着の平均値

大都市圏では男性は自宅と離れた職場に通勤して日中の大半を過ごすため、地域とのかわりは薄くなりがちである。しかし豊田市では市内に職場があるケースが多いため、男性でも地域との関係が維持されやすくなる(丹辺・岡村・山口 2014)。本調査のデータを基に地域への愛着(1~5点)を年齢別にみると(図 2-2)、男性では若い時期に低かった愛着—平均値が低いのは市に来て間もない外来人口が多いためであろう—が年齢とともに増す傾向があることが分かる。これにたいして女性では若い時期の値が相対的に高いが増加の度合いが少なくなっている。

2 社会的ネットワークと地域的紐帯

続いて本節では社会的ネットワークの形成について確認してみよう。もっとも近い社会的つながりは家族であるが、家族の存在は地域とのつながりを左右するという点でも重要な意味をもつ。同居家族の規模については3.2人と前回2015年調査時点の3.3人と大きくは変わらなかった。

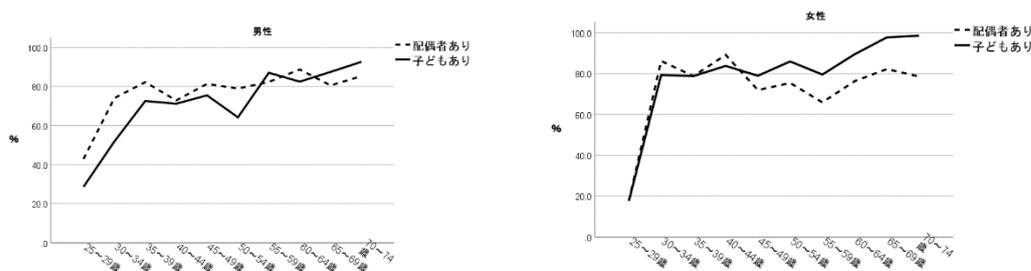


図2-3 配偶者を持つ人・子どもをもつ人の比率(%)

男女別・年齢別に配偶者のある人、子どもがいる人の比率をみたのが図 2-3 である。離死別のため、女性では若い世代の方が有配偶率が若干高くなるのに対して、男性では30代前半以下の年齢層で未婚率が高くなっており、30代後半以降はほぼ平坦になっている点で異なる。子どものいる割合も、女性が最も若い世代以外は80%以上に上るのに対して、男性では若い世代の低下が大きく、30代後半から50代前半までの年齢ゾーンでは7割前後になって未婚化の影響がかなり上の世代にまで及んでいる。女性側からみると未婚化・少子化があまりみられないのに対して、男性についてはある程度進んでいるのが豊田の特徴であろう。またこの点では、若い男性で地域とのつながりを促進する要因が弱いことになる。家族・親族との紐帯については第5章で改めてくわしく検討することにした。

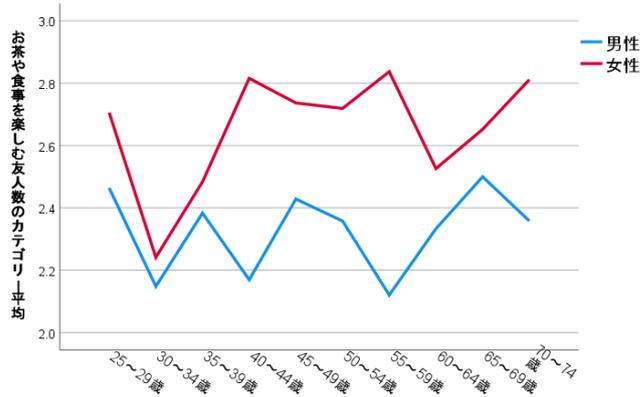


図 2-4 親しい友人の数

次に友人ネットワークについて検討してみよう。本調査には、「ふだんいっしょにお茶や食事を楽しむ友人が何人くらいいますか」という質問項目があり、5段階で人数を回答することを求めているので、そのカテゴリ平均値で親しい友人の数を測ることができる。性別・年齢別にこれをみたものが図 2-4 であるが、とくにキャリア期を通じて男性は女性より親しい友人の数がやや少ない。これは、仕事が忙しく、交友に時間とエネルギーを割くことが難しいためであろう。他方で、男女ともに退職期になっても孤立する傾向はみられず、男性ではむしろ若干回復する傾向がみられるが 2015 年調査よりその傾向は弱くなっている。

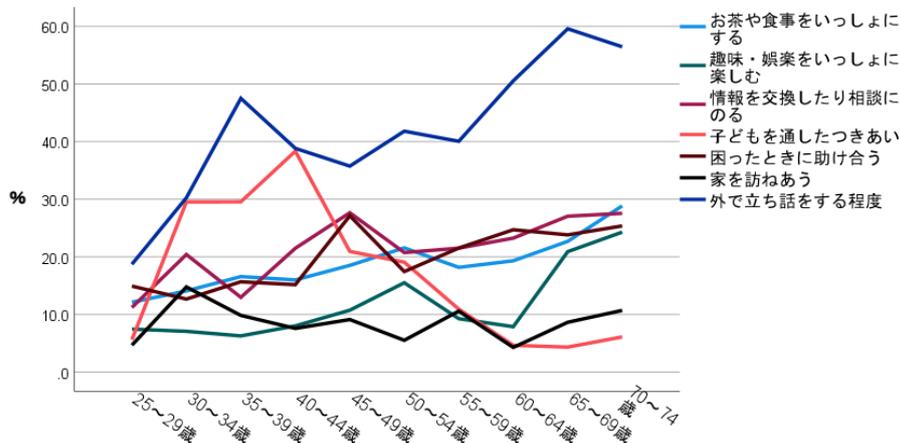


図 2-5 年齢別にみた親しい人との近所づきあい(全体:% 性比調整済)

近所づきあいについてはどうであろうか(図 2-5)。前章でも確認したように、2015 年調査と比べると今回調査では「お茶や食事をいっしょにする(26.7%→20.2%)」「趣味・娯楽をいっしょに楽しむ(21.2%→13.2%)」「家を訪ねあう(10.7%→8.6%)」など、室内で対面的接触を

多くともなう活動で減少が目立つ。また 2015 年調査では中高年層で活発な項目が多かったが、今回はこの層がやや消極的になっているのが目立つ。「外で立ち話をする程度」が高年齢層で高くなっているのも、コロナ禍で室内での対面的接触をとまなう付き合いを避けたためだろう。しかし積極的なつきあい 6 項目（「立ち話」以外の項目）を足した平均得点でみると、2015 年が 1.19 だったのに対して 2022 年では 1.26 であり、全体では近所づきあいは維持されているようだ。若い世代ではコロナ感染のダメージが比較的少ないためか「子どもを通じたつきあい」が活発におこなわれている。

マイノリティである外国人住民とのネットワークについてはどうであろうか⁴。本調査では、社会的文脈を「職場」「地域」「親族関係」「インターネット上」に分け、それぞれについて外国人の友人ないし親族がいるかどうかをたずねている。図 2-6 は、「いる」と答えた人の比率を年齢別にみたものである。

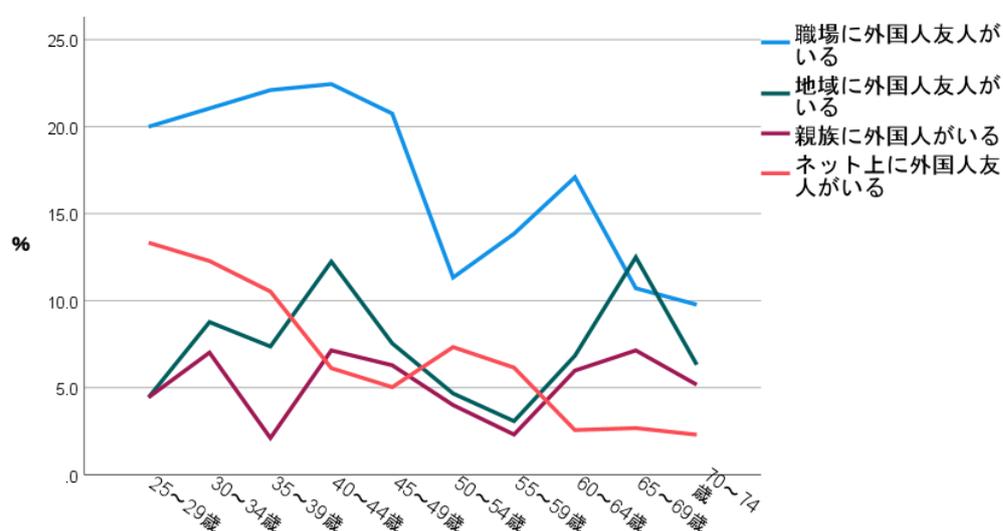


図2-6 社会的文脈別にみた外国人の友人・親しい人がいる比率 (% 性比調整済)

これをみると職場に外国人の友人がいる人の割合が全体として多く、2015 年調査に比べて 5 ポイント前後高くなっていて、この間にグローバル化がいつそう進んだことが分かる。とくに若い世代で多くなっていることが目立つ。居住地域に外国人友人がいる人は、40 歳代前半と 60 歳代後半で高い双峰分布となっている。前者は子どもを通じた付き合いや学校・PTA 活動の効果と考えられる。退職後の年代は 2015 年調査では 10%未満であったので、世代交代により多文化共生が上の年代にも広がってきたために生じた変化かもしれない。

⁴ 詳細については第 6 章を参照されたい。

3 まちづくり活動の経験と現在

ここまでの検討を受けて、本節ではまちづくり活動への参加状況について検討する。まず各種の団体活動への参加(最近1年)からみてみよう。団体への参加は、個人のまちづくり参加を活性化し方向づける役割もはたすので重要な意義をもつ。前章で確認したように、団体所属は性別による違いが大きいので、男女それぞれについて年齢別に参加比率をみたのが図2-7である。

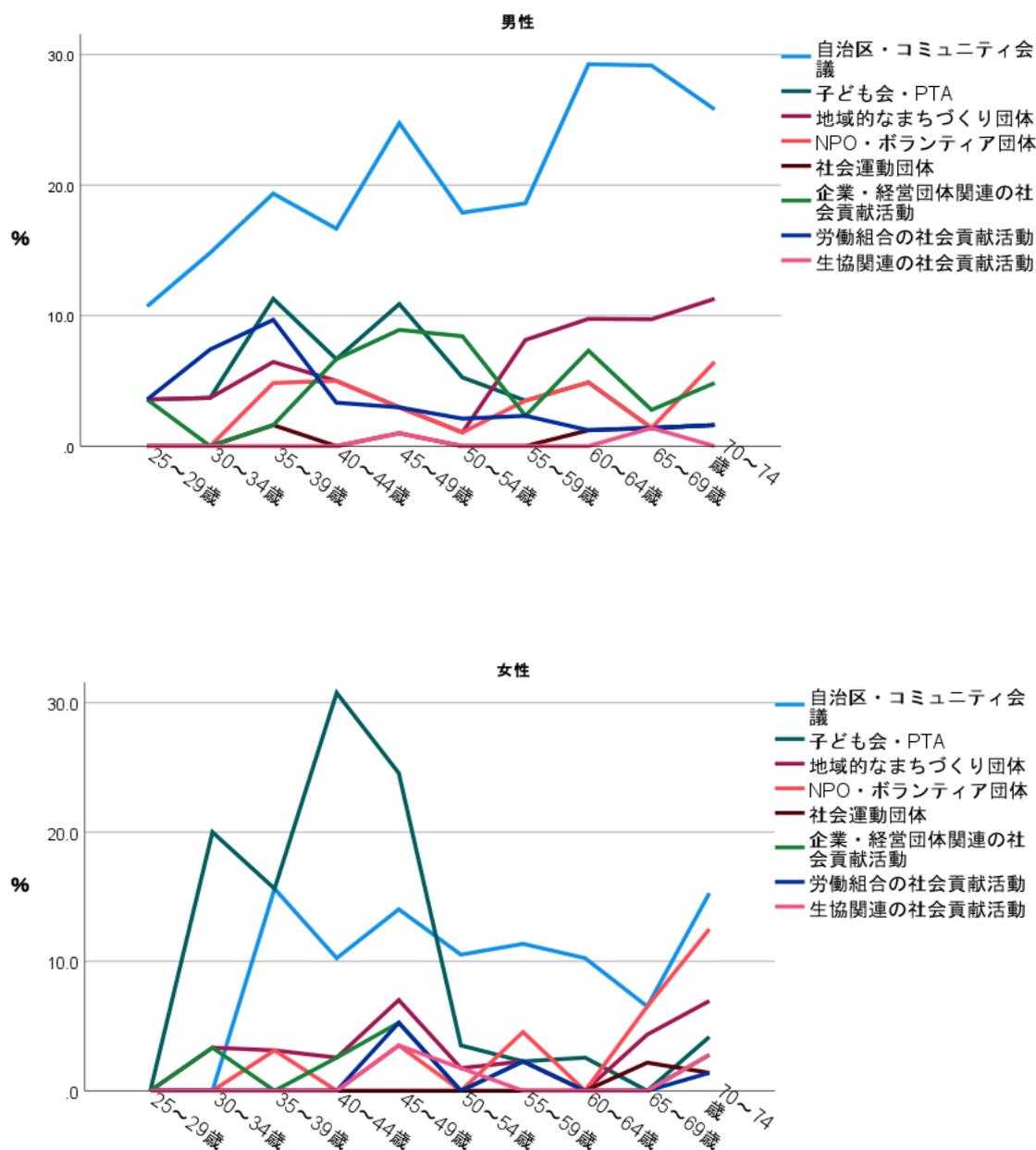
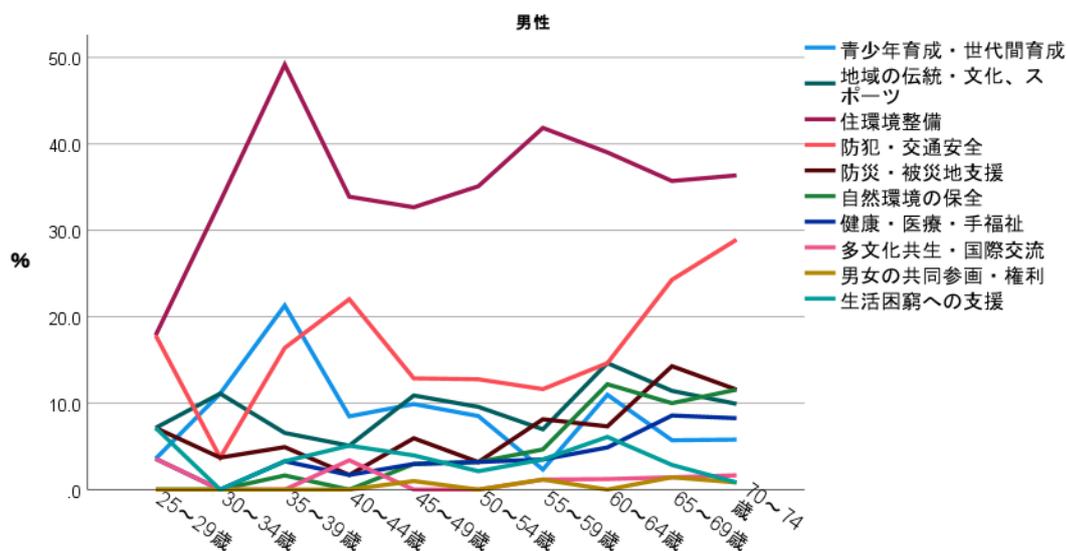


図 2-7 年齢別にみた団体活動への参加率(最近1年：%)

これによると、男性は「自治区・コミュニティ会議」への参加が相対的に多くまた年齢とともに高まるが、女性では若年層の2グループは全く参加せず、30歳後半から40歳代をピークにキャリア期を通じて下がっていく。また女性では「子供会・PTA役員」への参加がひじょうに活発だが子供が学齢期を終えると急速に低下し、対して男性では参加率が相対的に低い、子育て期以降も関わる傾向がある。女性の団体参加は自治会関係と子ども会・PTA関係以外では不活発だが、退職期以降やや活発になる。これは子育て期以降に本格的な仕事をもつ女性が多くなり⁵、家事負担との両立が負担になっているためではないだろうか。

職縁関係の団体についてはどうだろうか。男性では「労働組合の社会貢献」はキャリアの前半期に高いが次第に低下する。これに対して「企業・経営団体関連の社会貢献活動」はキャリア後半期に高まり、退職後も一定の参加がみられる。男性中心の世界である自動車産業で働く人が多いためか女性の関与は少ないのが特徴である。

続いて、まちづくり活動への参加について検討してみよう。男女別の違いについては前章で確認してみたが、さらに年齢別にみると現状がいつそう分かりやすくなる(図2-8)。



⁵ この点をめぐる動向については次章を参照されたい。

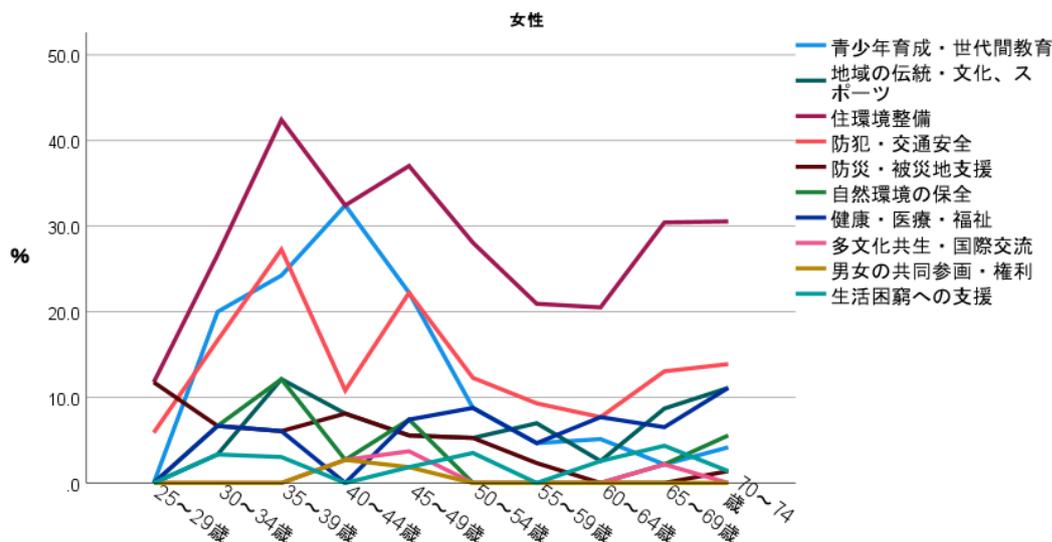


図 2-8 まちづくり参加(最近 1 年以内)の比率(%)

男性は地縁的活動、とくに住環境整備が圧倒的に多いのが特徴で、防犯・交通安全がそれに続いている。2015 年調査では高かった中高年層の活動が相対的に低くなり、代わって若い層の参加が高いのは、コロナ禍の影響と考えられる。女性も住環境整備、青少年育成・世代間交流、防犯・交通安全への参加が相対的に多く若い世代の参加が活発で、比較的多くの活動に分散する傾向がある。地縁的活動での中高年層の低下はここでも男性より大きく、仕事と家事の負担が抑制的に作用しているようだ。

全体として、対面状況が多い地縁的活動では、中高年層の活動が停滞しているが、若年・現役層の参加が活発になり埋め合わせている。この状況が続けば、将来の担い手として期待できそうである。

表 2-2 まちづくり活動参加の時点間比較(％：性比調整済)

	青少年・世代間	文化・伝統・スポーツ	住環境整備	防犯・交通安全	報載・被災地支援	自然環境保全	健康・医療・福祉	多文化・国際交流	男女共同参画	生活困窮支援
2022	9.7	8.6	33.9	16.3	6.0	5.0	5.3	1.0	0.5	2.9
2015	12.4	12.1	34.5	21.8	6.0	5.7	6.2	1.9	0.9	-

2015 年と比べると、「住環境整備」「防災・被災地支援」「自然環境保全」「健康・医療・福祉」はあまり減少していない。地縁型活動のうち、後回しにできない活動ないし対面接触が少ない活動が若い世代を担い手として選択的に維持されたのではないか。これに対して、「多文化共生・国際交流」「男女共同参画」のように、相対的に不活発だった典型的テーマ

型活動がさらに半減しているのが目につく。

4 コロナ感染症への不安と組織対応

本調査はコロナ感染症が大きな社会問題となって3年目、感染拡大第七波の最中で実施された。このことがまちづくり参加へ及ぼした影響はどの程度あったのだろうか。感染拡大当初は未知の感染症で重症化のリスクも大きかったため、対面的活動は抑制されたと考えられるが、その後弱毒化するなかでワクチン接種が進み治療法が改善され、不安感は軽減されたと考えられる。それでもまちづくり参加については第3節でみたように、2015年調査と比べて中高年、とくに女性の中高年層の消極性が目立つ結果となっていた。このことは主観的・心理的な不安感の結果だったのだろうか、それとも他の要因によるのだろうか。

本調査では、「現在生活するうえで具体的にお困りのことがありますか」として「感染症への不安」についても4段階（「1.はっきり感じる」「2.少し感じる」「3.あまり感じない」「4.まったく感じない」）で訪ねた項目があるので、その平均値を用いて安心感—不安感を男女別・年齢別でみてみよう（図2-9）。1点から4点の値をとり点が低いほど不安感が高くなる平均点の分布をみると、男性も女性も中央の2.5点より低く、不安感が高めである。なかでも男性より女性で不安感が高く、また年齢が上がると不安感が増す傾向にある—とくに女性では最も若い20代の不安も高い⁶。

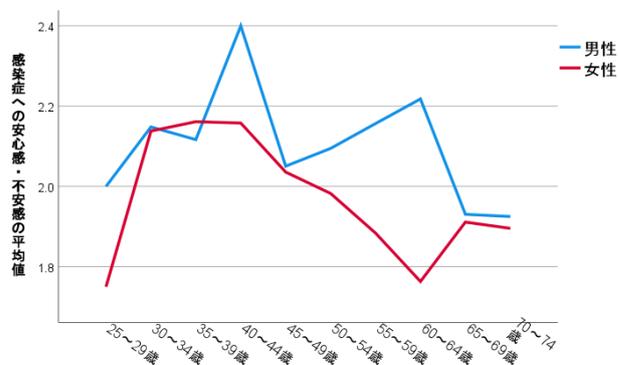


図2-9 感染症への安心感—不安感

「感染症への不安」が高いと、社会活動、とくに対面的接触をともなう地縁型活動の参加は抑制されると考えるのが自然であり、これまでの結果とも整合している。しかし、ことはそれほど単純ではないだろう。不安をもつゆえにそれを解消しようという動機がはたらい

⁶ ちなみに、「感染症への不安」は、健康への満足度とマイナスの相関($r=-0.198^{**}$)があり、年齢が増すにつれ高くなる傾向にある($r=0.077^{**}$)。

て活動に参加することも考えられるだろう。また因果関係を逆転させて、対面的接触をともなう活動に参加したために不安が高まると考えることもできる、

実際にクロス集計にかけてみると、感染への不安と活動への参加はさほど関連がつよくないようである。いくつかの活動では不安が参加を抑制するのではなく、むしろ反対に作用していた。感染症への安心—不安は、たとえばコミュニティ保全型の「防犯・交通安全」「防災・被災地支援」では5%の有意水準でマイナスの相関となっていた。これだけみれば不安や危機意識がむしろ活動参加を促したと解釈できる結果であるが、不安の強さによる参加率のちがいをみた図2-10からもわかるように関連性はあまり強くない。コロナ感染が問題化して2年半が経ち、活動を抑制する負の効果はかなり解消されているようだ。地縁型活動の多くが対面的とはいえ室外でおこなう活動であることも奏功しているのだろう。

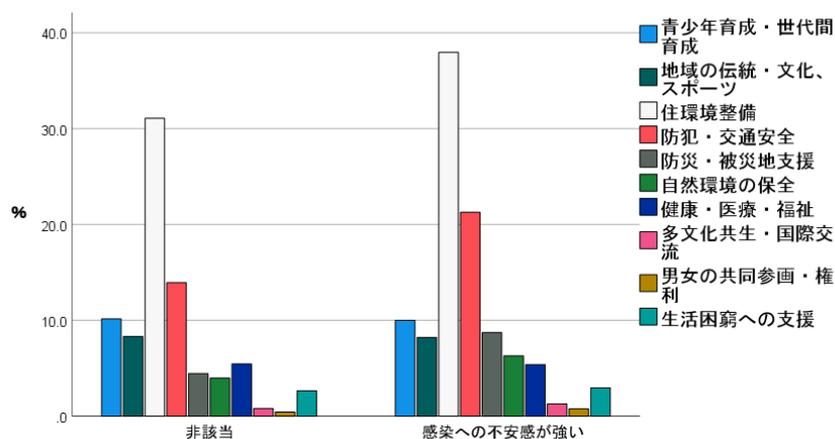


図2-10 感染症への不安によるまちづくり活動参加率の違い

それではコロナ禍状況で参加を大きく左右したのは何であろうか。図2-11は、最近1年間に自治区・コミュニティ会議の活動に参加したか否かにより、各種まちづくり活動への参加にどれだけ違いがあるかをみたものである。一見して分かるように、不安感の有無に比べて、参加を左右する度合いがひじょうに強いことが分かるだろう。図2-12は同様にNPO・ボランティア活動の最近1年間の有無によるまちづくり参加率の違いをみたものであるが、それぞれの右側にあるテーマ型活動の違いがとりわけ多くなっていることがみてとれる。

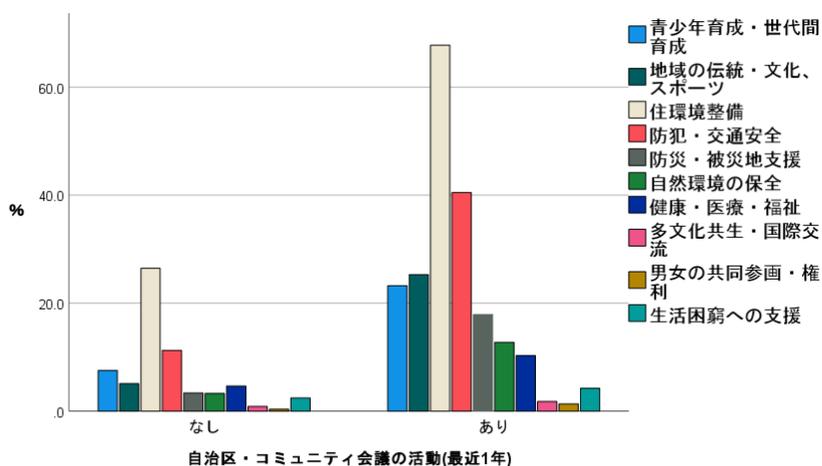


図2-11 自治区関連の活動の有無(最近1年)によるまちづくり活動参加率の違い

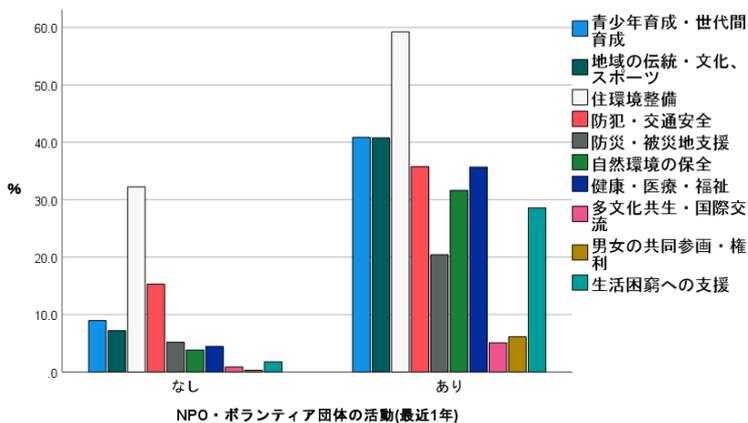


図2-12 NPO・ボランティア団体への活動参加の有無(最近1年)によるまちづくり活動参加率の違い

このような結果をみると、住民のまちづくり参加を左右したのはコロナ感染への不安感ではなく、コロナ禍を受けてまちづくりに関わる団体が、その活動を継続したか、あるいは休止していたかである。これに関連して、行政がコロナ禍のもとでの活動指針・マニュアルを整備していたかどうかということも重要な前提条件になる⁷。主観的な不安感は感染初期には活動参加を抑止する要因になったかもしれないが、調査時点では少なくとも抑止要因にはなっていない。調査時点で参加を左右していた重要な要因は、コロナ禍を受けて各種団体が活動を継続したか、休止したか、あるいは休止後再開していたか、という組織的・制度的要因にあったと考えられる。

⁷ 豊田市では、早くも2020年10月には「新型コロナウイルス感染症の拡大予防と地域活動の両立を図るため」として「コロナ禍における地域活動の手引き」が作成され、その後も改訂されている(<https://toyota-kuchokai.org/senyou15.html>)。

小括

このようにみえてくると、2年以上にわたりコロナ禍のもとにあった豊田市住民の地域的紐帯とまちづくり活動については、次のように言えるだろう。感染当初については組織的自粛と未知のウィルスへの感染不安のため、対面的活動は休止状態に追い込まれた。室内での対面的接触をとまなう近所づきあいの量もいったんは急減し、とくに年配の住民、女性でダメージが大きかったと考えられる。しかしその後ウィルスの毒性が弱まり、予防対策や治療法が普及すると、活動指針・マニュアルが整備され少しずつ組織活動が再開されるようになった。その結果より若い世代がその欠落を埋め合わせるかたちで地縁型・テーマ型活動に参加するようになり、いくつかの活動ジャンルを除いて活動水準は元に戻りつつある。これにともない中高年層の参加が多かった地縁型活動にも期せずして担い手の世代交代が生じ年齢間のバランスがとれるようになってきた。

今後もある程度感染への不安は残るであろうが、それは活動再開の大きな障害にならないだろう。むしろ、感染状況に対応した活動指針・マニュアルを基に、まちづくりを担う団体がリスクを見極めて活動をどこまで再開するかが大きなポイントになるだろう。女性に関しては子育て期の活動水準は戻っているが、雇用市場にとどまる、あるいは戻る人が増えているためそれ以降の時期の活動水準が落ち込んでいることが課題になるだろう。男性中心の地縁的秩序から退出する傾向は2015年調査でもみられたが、正規で就労する人が増え仕事と家事の負担が重くなっていることも拍車をかけていると考えられる。他方で若い世代がまちづくりに参加するようになっているのは今後に期待が持てる変化である。若返りと刷新のチャンスであるが、コロナ収束後にもとに戻ってしまう可能性もある。コロナ収束後も地域づくりの担い手・リーダーとしてつなぎとめられるかが一つの課題になりそうである。

文献

丹辺宣彦・岡村徹也・山口博史編，2014，『豊田とトヨター産業グローバル化先進地域の現在』東信堂。

丹辺宣彦・中村麻里・山口博史編，2020，『変貌する豊田ーグローバル化と社会の変化に直面するクルマのまち』東信堂

第3章 コロナ禍の下での仕事と性別役割 —収入をめぐる変化と女性のフルタイム雇用化—

鈴木健一郎

本章では、まず2015年調査と比較しながら、豊田市における雇用の状況がこの7年間でどのように変化したのかについて、分析を行う。結論をやや先取りしてしまうが、男性の仕事の状況について大きな変化がなかった一方で、女性については大きな変化が生じ、就業割合(特にフルタイム雇用の割合)が大きく上昇した。そのため、男性については大きな変化がないことを確認したうえで、女性がどのような雇用に就いているのかを検討している。

また、新型コロナウイルスが仕事に対して、どのような影響をもたらしたのかについて、分析を行う。具体的には、「コロナ問題発生前に比べて現在の収入は変わりましたか」という質問項目を利用し、どのような属性、雇用上の地位の人が、影響を被ったのかを検討する。

最後に、どのような属性の女性が就業するようになったのかについて分析する。婚姻状態や学歴、配偶者の勤め先、子どもの有無・年齢といった属性が、2015年調査と比べて、就業へどのような影響を持つようになったのかを検討する。

1 豊田市における雇用の変化

本節では、2015年調査と比較し、豊田市における雇用の状況がどのように変化しているのか、分析を行う。なお、生産年齢人口に焦点を当てるため、25歳から64歳の男女を対象とする。表3-1は、豊田市における就業状況を男女別に示したものである。男性は大きく就業状況が変化していないのに対し、女性は専業主婦だと思われる無職の割合が大きく下がり、フルタイムの割合が高くなっている⁸。

就業状況や就業形態について、女性で大きな変化があることが確認できた。それでは、女性の年代ごとに就業形態はどのように変化しているのだろうか。図3-1の点線は世代ごとフルタイム雇用の割合、実線は就業者の割合を示したものである。点線と実線の差がパートタイム雇用の割合になる。まず、2022年調査では若年者のフルタイム雇用の割合が増えたこと、40歳代から50歳前半にかけて就業率は9割程度に達したことが確認できる。加えて、出産・育児期とされる30歳代であっても、就業率は75%を超えている。ただし、2022年調査でも、30歳代には就業率が低下し、底は浅いがM字曲線は確認できる。

⁸ 以降、度数が少ないセルが生じた場合、カイ二乗検定のほかにフィッシャーの正確確率検定も行ったが、カイ二乗検定と結果が大きく食い違うものはなかった。

表 3-1 豊田市における就業状況の変化（男女別）

男性						
	フルタイム		パート		無職	
2015	574	87.8%	40	6.1%	40	6.1%
2022	472	88.7%	33	6.2%	27	5.1%

女性						
	フルタイム		パート		無職	
2015	74	23.7%	121	38.8%	117	37.5%
2022	129	41.5%	123	39.6%	59	19.0%

$\chi^2 = 0.60(p=0.742)$ / $\chi^2 = 34.03(p=0.000)$

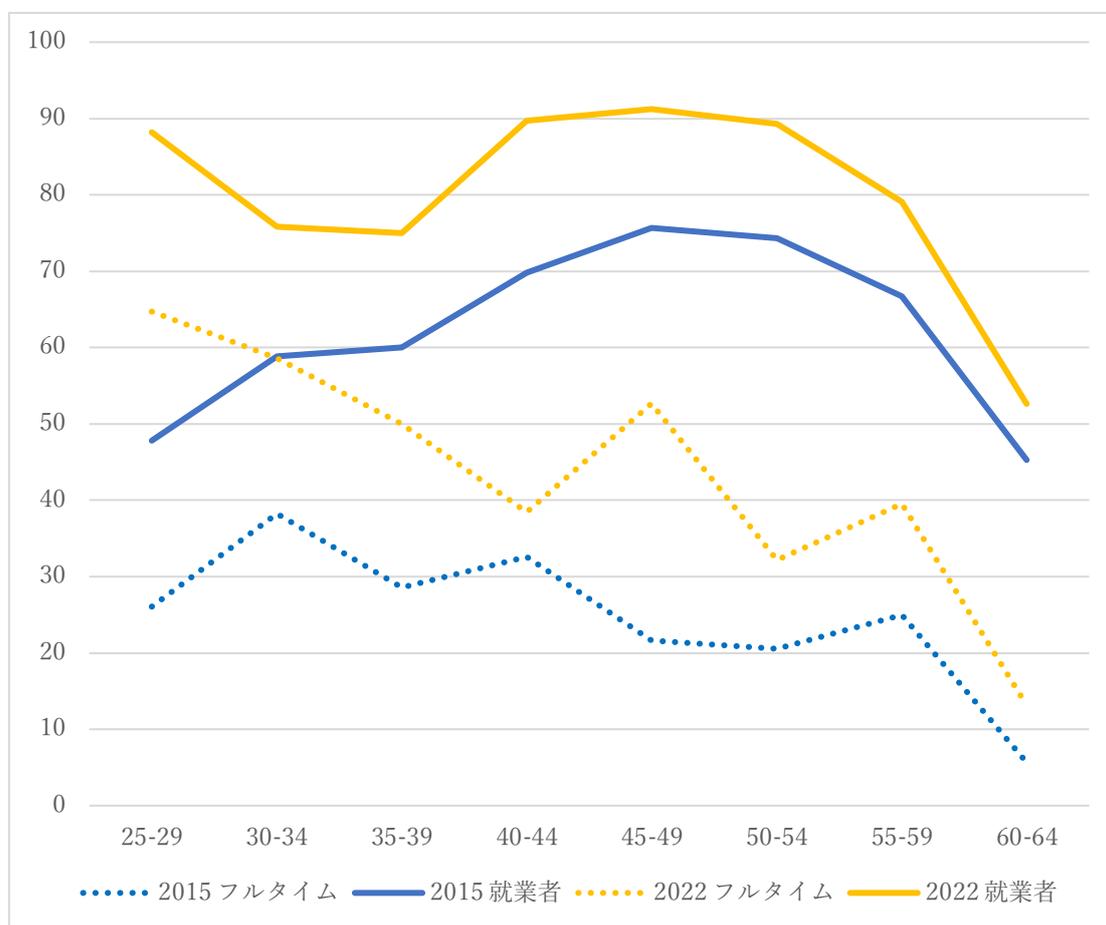
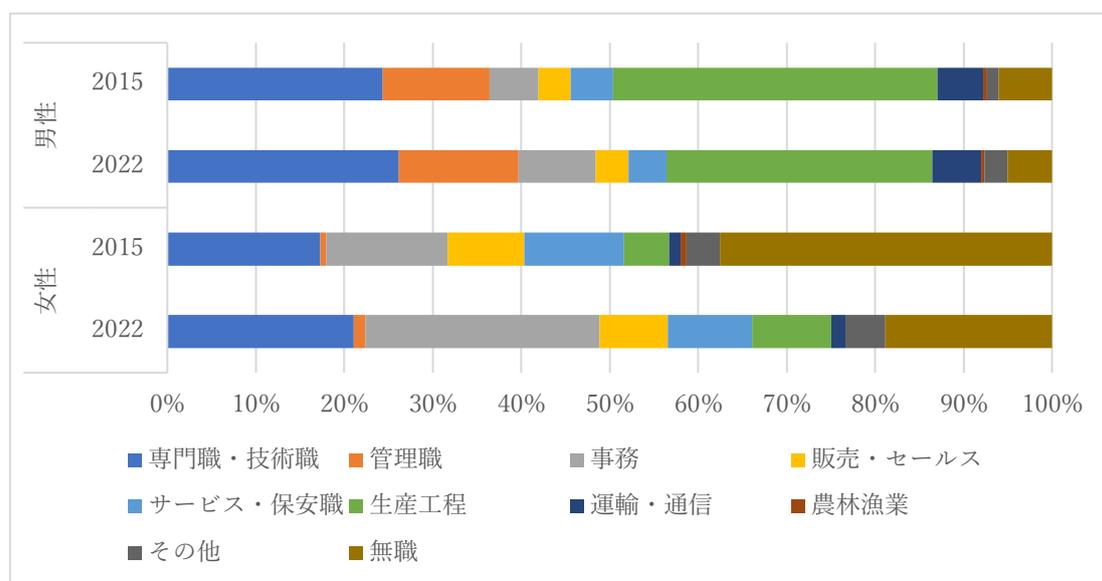


図 3-1 豊田市における世代ごとの女性の就業形態の変化

次に、職業構造にどのような変化が生じているかを確認する⁹。図 3-2 は、2015 年と 2022

⁹ 製造工などが該当する職業について、2015 年調査の調査票では「技能・労務（工場・建設作業など）」、2022 年調査では「生産工程（工場・建設作業など）」とされているが、ここでは特に両者を区別せずに互換的なものとする。

年の職業構造を男女別に示したものである。無職であったような女性をどのような職業が受け入れているか確認するために、一番右の層に働いていない無職をカテゴリとして加えている。まず男性については、大きな変化はなく、生産工程が約5%減った程度であり(36.7%→30.1%)、全体としても有意水準を満たしていない(p= 0.193)。女性については、無職の割合が約20%低下したほか、事務の大幅な増加が目につく(14.0%→26.5%)。

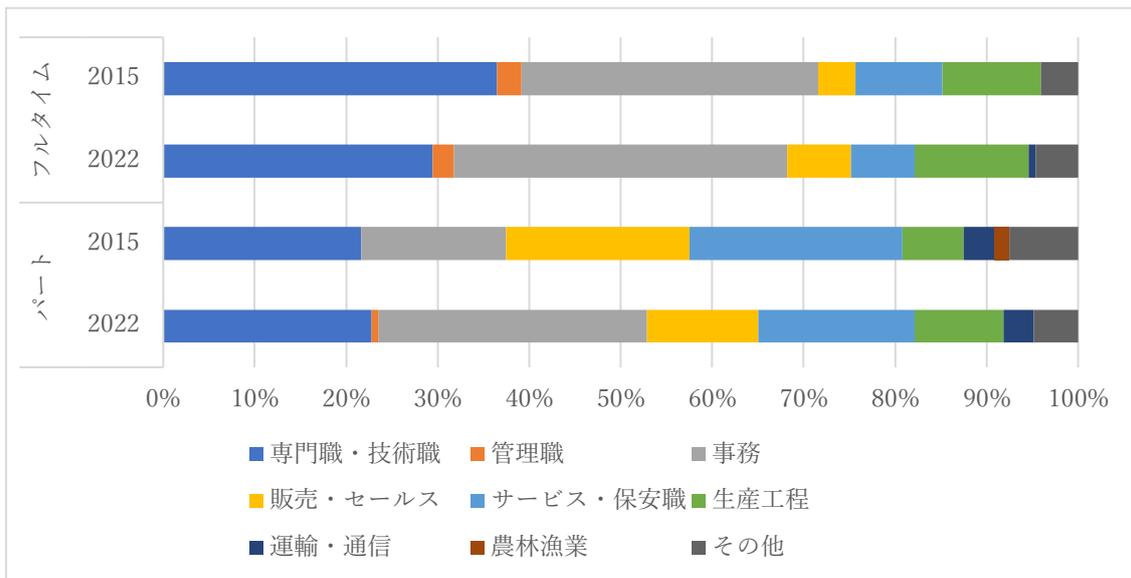


$\chi^2 = 12.37$ (p= 0.193) / $\chi^2 = 39.78$ (p= 0.000)

図 3-2 豊田市における就業構造の変化 (男女別)

職業構造についても、女性には大きな変化があることが確認できた。この職業構造の変化は、就業形態とどのように関連しているのだろうか(すなわち、特定の職業でのみ、パートタイム雇用やフルタイム雇用が増えているのだろうか。それとも、いずれの職業も同程度にパートタイム雇用とフルタイム雇用を増やしているのだろうか)。そこで、図 3-3 で女性の就業形態別に職業構造の変化を見た。まず、フルタイム雇用の部分を確認すると、事務を含め、大きな変化はない。専門職・技術職がやや減ったが(36.5%→29.5%)、教員や看護師といったキャリアの継続を望むような女性が就いていた典型的な職業以外にも、キャリア継続の道が開けてきたことと関連すると思われる。事務の増加はわずかで(32.4%→36.4%)、総じて、フルタイム雇用は、大きな職業構造に変化がないまま、全体的なパイが大きくなっていることがわかる。

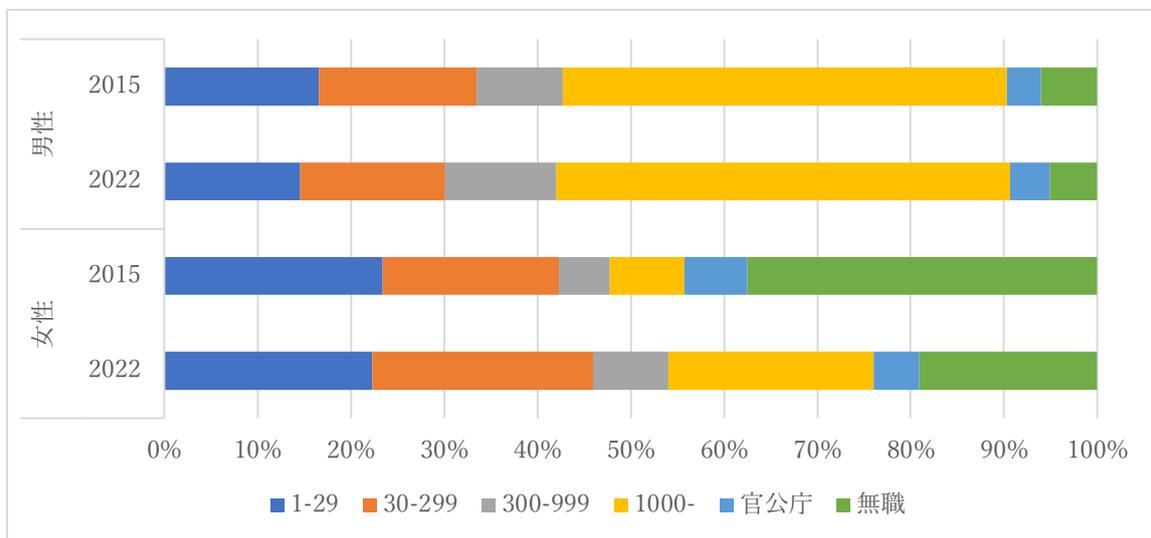
次にパートタイム雇用の部分を見る。事務が大きく増え(15.8%→29.3%)、販売・セールス(20.0%→12.2%)やサービス・保安職(23.3%→17.1%)が割合を減らしている。先ほど見た事務全体の増加は、パート雇用の事務職の増大が大部分を占めるとと思われる。ただし、どちらも全体としては有意水準を満たしてはいない(p=0.909/ p=0.120)。



$\chi^2=2.73$ (p=0.909) / $\chi^2= 12.77$ (p=0.120)

図 3-3 豊田市における女性の就業構造の変化 (就業形態別)

次に企業規模との関連を検討する。男女別に勤務先の企業規模の割合を図 3-4 に示した。男性はこれも大きな変化がないのに対し、女性は従業員数 1000 人以上の大企業が 2 倍以上増やし (8.0%→22.0%)、無職の減少分を大企業が受け入れられているように見える。

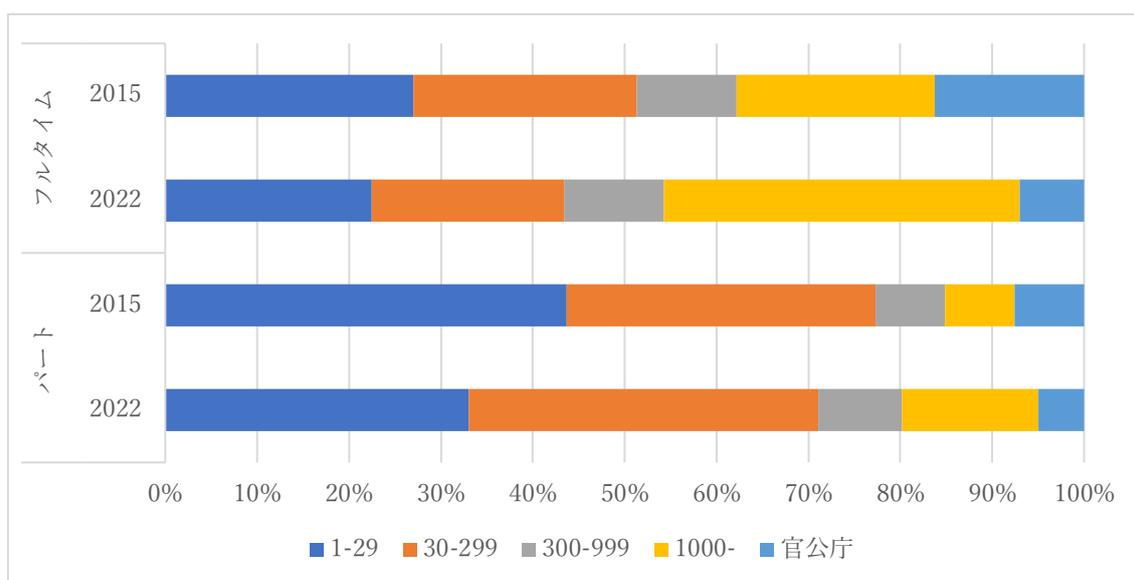


$\chi^2= 4.19$ (p=0.522) / $\chi^2= 43.10$ (p=0.000)

図 3-4 豊田市における勤務先の企業規模の変化 (男女別)

この点についても、同様に大きな変化があった女性に焦点を当てて、勤め先の企業規模と就業形態の関連について確認する。図 3-5 に、女性の就業形態ごとの企業規模を示した。ま

ず、フルタイムを見ると、従業員数 1000 人以上の大企業の割合が大きくなっている (21.6%→38.8%)。また、特筆すべき点として、官公庁の割合が低くなっている (16.2%→7.0%)。これらから、北欧のように専門職・ケアワーカーを中心として女性を公的に雇用するのではなく、大企業の企業福祉の恩恵を得た女性がキャリアを継続している、というような図式が想定される。ただし、パートタイム雇用でも同様に大企業の割合が高くなっていることが確認できる (7.6%→14.9%)。

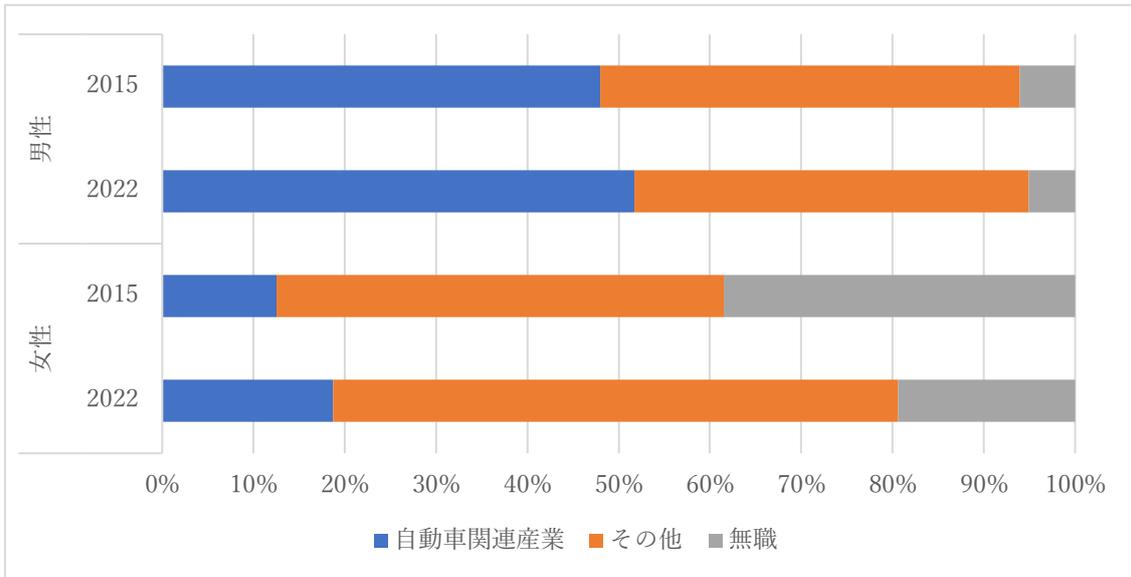


$\chi^2=8.78$ (p=0.067) / $\chi^2=5.77$ (p=0.217)

図 3-5 豊田市における女性の勤務先の企業規模の変化 (就業形態別)

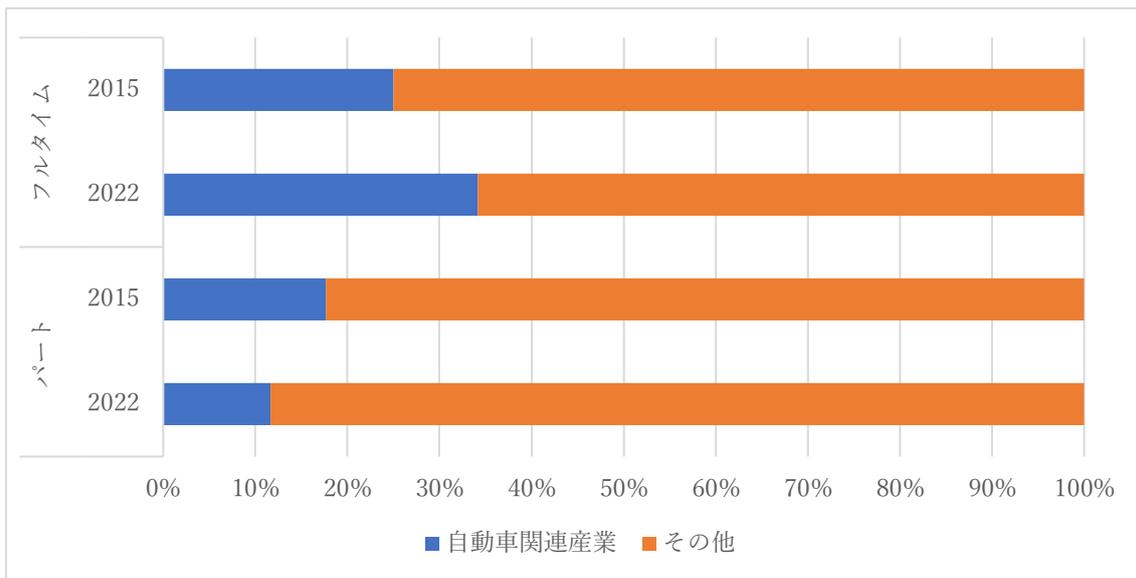
最後に勤務先の産業との関連について確認する。図 3-6 は、勤務先産業の割合を男女別に示したものである。男性は自動車産業に勤めている割合が若干高くなっているが、大きな変化はなく、有意水準を満たしていない(p=0.403)。女性の無職の吸収分を確認すると、その他が最も大きく (49.0%→62.0%)、自動車関連産業は 12.5%から 18.7%と約 1.5 倍大きくなっている。

この点についても、女性に焦点を当て、勤務先産業と就業形態との関連について確認する。図 3-7 では、女性の就業形態ごとの勤務先産業の割合を示した。フルタイムでは、むしろその他の割合は低くなっており、自動車関連産業が増加している (25.9%→34.1%)。自動車関連産業でも女性を継続的に雇用するようになったことが示唆される。一方、パートタイム雇用では、その他の割合が高まっている。



$\chi^2 = 1.82 (p = 0.403) / \chi^2 = 27.65 (p = 0.000)$

図 3-6 豊田市における勤務先産業の変化（男女別）



$\chi^2 = 1.79 (p = 0.181) / \chi^2 = 1.70 (p = 0.192)$

図 3-7 豊田市における女性の勤務先産業の変化（就業形態別）

以上を簡単にまとめると次のようになる。まず、男性については、生産工程職の若干の減少が認められるものの、全体としては大きな変化は確認できなかった。コロナ禍を挟んでいることを踏まえれば、大きな変化がなかったこと自体が重要な発見と言えるかもしれない。

女性について。2015年調査では、女性の専業主婦傾向の低下が指摘されていたが（山口ほか 2020:36）、2022年になってさらに脱近代家族化が進んだと言える。この変化は40歳

以下で顕著である。特に、1000人以上の大企業で働くフルタイム雇用の割合が高くなっており、大企業の企業福祉を利用してキャリアを継続する女性像が描き出される。ただし、就業形態別に変化を見たものすべてで有意水準を満たすものはなかった。変化が起きた部分はあるだろうが、全体としては構造を変えずに、フルタイム雇用のパイが大きくなっていると考えられる。

本調査の特性上、住民票を移さない期間工のような人を対象に含めることができない¹⁰。豊田市に住民票があるような一定程度の定住性が認められる人については、雇用の流動化といった問題は男女ともに示されず、むしろ女性に関してはフルタイム雇用化が進んでいることが示されている。

2 コロナ禍における収入の変化

本節では、どのような属性、雇用上の地位の人が新型コロナウイルスの影響を受けたかについて、収入の増減を尋ねた項目を用いて、分析を行う。なお、定年退職に伴う収入の変化の影響を除くために、本節では、25歳から59歳までの男女を対象にすることにする。

コロナ以前と比べたときの収入の変化について、全体では95.73%と、4.27%ほど減少している。男性は95.92%、女性は98.60%と、男性のほうが減少の幅は大きい（ $p=0.000$ ）。収入の変化の分布を表3-2に示した。男女ともに、収入が変わらない100%が最も多い。ただし、変化のない人は男性で74.8%、女性で88.5%で、その割合は女性のほうが10%ほど高い。収入が増加した人は、男女ともに2.3%と僅少である一方で、減少した人は特に男性で多い。

表3-2 コロナ禍における収入の変化の分布（男女別）

	男性		女性	
-69%	13	3.0%	2	0.9%
70-79%	14	3.3%	3	1.4%
80-89%	27	6.3%	7	3.2%
90-99%	44	10.3%	8	3.7%
100%	320	74.8%	192	88.5%
101-%	10	2.3%	5	2.3%
Total	428	100.0%	217	100.0%

¹⁰ 国勢調査から雇用の流動化について簡単に検証した。旧豊田市における雇用者に占める正規の職員・従業員の割合は、2015年国勢調査では67.1%、2020年国勢調査では67.3%とほぼ変わらない。住民票を豊田市に移さない人も母集団に含めることができる国勢調査からも、雇用の流動化については同様のことが言えるだろう。

ただし、男性と女性の効果は、フルタイム雇用・パートタイム雇用の効果と交絡している可能性がある（すなわち、男性はフルタイム雇用に、女性はパートタイム雇用に就きがちであるから、フルタイム雇用・パートタイム雇用の効果が、男女の効果として示されているかもしれない）。そこで、就業形態別に男女の収入の変化を検討する。まず、収入が変わらないものが圧倒的に多いため、具体的な変化の程度を考慮せずに、「減少」、「増加」、「変わらない」の3つのカテゴリで男女の収入の変化を見る。フルタイム、パートタイムともに、女性のほうが「変わらない」の人の割合が高く、「減少」の人の割合が低い。ただし、フルタイムは有意になっていない(p=0.137)が、パートタイムは有意になっている(p=0.019)。次に、就業形態、性別ごとに収入の変化の平均値を確認する。フルタイム男性は96.32%、フルタイム女性は98.63%、パートタイム男性は87.14%、パートタイム女性は98.49%と、フルタイム、パートタイムともに男性のほうが女性よりも収入が減少する傾向にある。

パートタイム雇用の男性は、分布でも見ても平均値で見ても、収入が最も大きく減少している傾向にある。この点については、フルタイムで働いていたが、コロナ問題を機にパートタイム雇用に移った人が一定含まれることに起因するものだと考えられる。例えば、パートタイムで働く男性の中には、収入が50%以上減少した者が含まれていた。

なお、フルタイムからパートタイムに移った人の割合が少ないと考えられる女性・パートタイム雇用については、女性・フルタイム雇用と比べても、減少が大きいとは言えない。この点からも、新型コロナウイルスの収入に対する効果は、就業形態ではそれほど差がないと言える。

表 3-3 コロナ禍における収入の変化の分布と平均値（男女・就業形態別）

	フルタイム		パート		
	男性	女性	男性	女性	
減少	23.9	16.7	40.0	11.5	
増加	3.6	5.0	0.0	4.8	
変わらない	72.5	78.3	60.0	83.7	
Total	415	120	15	104	p=0.218/p=0.013
平均	96.32	98.63	87.14	98.49	p=0.026/p=0.000

男性と女性の効果については、就業形態の他にも職業の効果が交絡している可能性も考えられる（すなわち、男性のほうがブルーカラー職に、女性のほうがホワイトカラー職に就きがちであり、ブルーカラー・ホワイトカラーの効果が男女の効果として示されているかもしれない）。そこで、職業別に男女の収入の変化を検討するために、フルタイム雇用

者に限って、ホワイトカラー職とブルーカラー職に分けて¹¹分析を行った。まず、先ほどと同様に、「減少」・「増加」・「変わらない」の3つのカテゴリで男女の収入の変化を見ると、ホワイトカラー職については、男性のほうが収入に変化のない人の割合が83.7%と、若干高くなっていることがわかる。一方、ブルーカラー職については、女性のほうが収入の変わらない人の割合が高い。ただし、どちらも統計的に有意ではない。また、収入の増減の平均値についても、女性のほうがどちらも減少幅が小さいが、これも統計的に有意ではない。したがって、コロナ禍における男女の収入の増減の差は、主に男女で就いている職業の差に起因するものだと考えられる。

表 3-4 コロナ禍における収入の変化の分布と平均値（男女・職業別）

	ホワイトカラー		ブルーカラー		
	男性	女性	男性	女性	
減少	12.0	13.2	40.5	28.0	
増加	4.3	6.6	2.3	0.0	
変わらない	83.7	80.2	57.2	72.0	
Total	233	91	173	25	p=0.647/p=0.276
平均	98.52	99.65	93.18	95.22	p=0.230/p=0.447

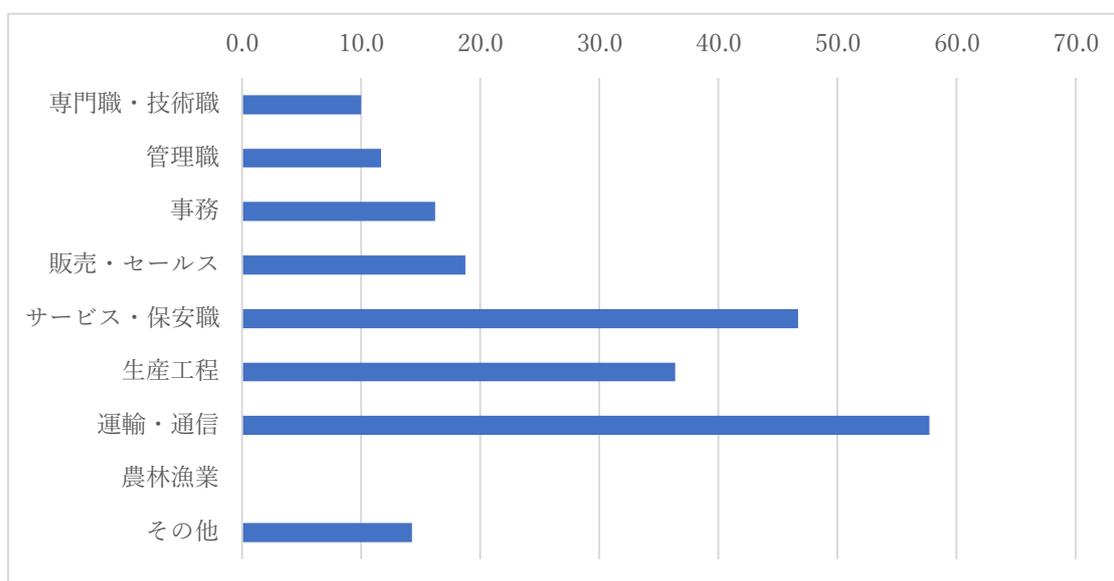
次に、より仔細に、職業や企業規模、勤務先産業などで、収入の増減がどのような効果を持っているのかを確認する。ここでは性別や就業形態の影響を除くために、十分なサンプル数が確保できる男性のフルタイム雇用者に限って分析を行う。また、具体的な変化の値は考慮せずに、減少した人の割合から検討することとする¹²。

最初に職業との関連を見る。図 3-8 は就いている職業別に収入が減少した人の割合を示したものである。職業による効果ははっきりと見て取れ、専門職・技術職、管理職、事務、販売・セールスといった広義のホワイトカラー職の人について、収入が減少した人の割合は、10%から20%程度である。一方、サービス・保安職、生産工程、運輸・通信といった広義のブルーカラー職の場合、減少した人の割合は、35%から55%程度とホワイトカラーよりもはっきり多い。また、ホワイトカラーであっても、専門職・技術職、管理職といった地位の高い職業で、減少した人の割合は10%程度だが、事務、販売・セールスでは15%以上の人々が減少を経験している。以上から、新型コロナウイルスの収入への影響は職

¹¹ 専門職・技術職、管理職、事務、販売・セールスをホワイトカラー、サービス・保安職、生産工程、運輸・通信をブルーカラーとした。

¹² 増加した人は僅少であったため、検定に関しては、収入が変わらない人と増加した人を統合して行った。

業的地位に大きく左右されると考えられる。



$$\chi^2 = 51.6422 (p = 0.000)^{13}$$

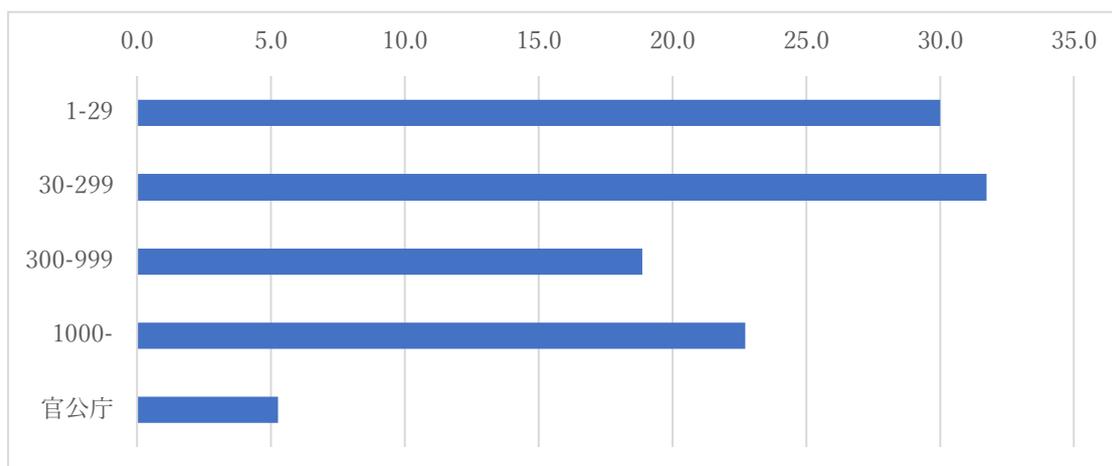
図 3-8 フルタイム雇用・男性のコロナ禍において収入が減少した人の職業ごとの割合

次に、企業規模との関連を見る。図 3-9 は勤務先の企業規模ごとに収入が減少した人の割合を示したものである。従業員数が 1 人から 29 人、30 人から 299 人の中小企業の場合、減少した人の割合は約 3 割である一方で、300 人から 999 人、1000 人以上の大企業の場合、約 2 割にとどまる（ただし、統計的に有意ではない）。なお、官公庁に勤めている場合、減少している人は 5% と最も少ない。

最後に、勤務先産業との関連を見る。図 3-10 は勤務先の産業ごとに収入が減少した人の割合を示したものである。勤め先が自動車関連産業であっても、その他であっても、有意な差はなく、20% から 25% 程度の人の収入が減少している。

以上、コロナ禍における収入の変化について、分析を行った。まず、男性よりも女性のほうが新型コロナウイルスの影響が小さいことがわかった。これは、フルタイム、パートタイムに分けて分析を行っても同様のことが言える。ただし、職業別に見た場合、ホワイトカラー、ブルーカラーともに、男女での差は統計的に有意なものではなかった。以上より、新型コロナウイルスの収入への影響の男女差は、主に男女で就く職業の差によるものだと考えられる。

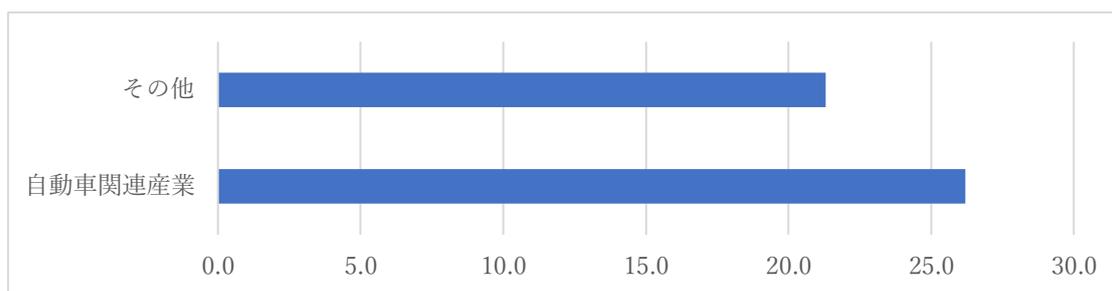
¹³ 図 3-8 の検定については、農林漁業、その他については度数が小さすぎるため（それぞれ 1 人、7 人）、また分析の主たる関心ではないため、この 2 つの職業を省いて検定を行った。



$\chi^2=7.9022$ (p=0.095)

図 3-9

フルタイム雇用・男性のコロナ禍において収入が減少した人の企業規模ごとの割合



$\chi^2=1.3320$ (p=0.248)

図 3-10

フルタイム雇用・男性のコロナ禍において収入が減少した人の産業ごとの割合

次に男性・フルタイム雇用者に限定して、さらに細かな分析を行った。結果、企業規模や勤務先産業については、有意な差を持たなかった一方で、職業については、ブルーカラー職のほうが、収入が減少している人が多かった。

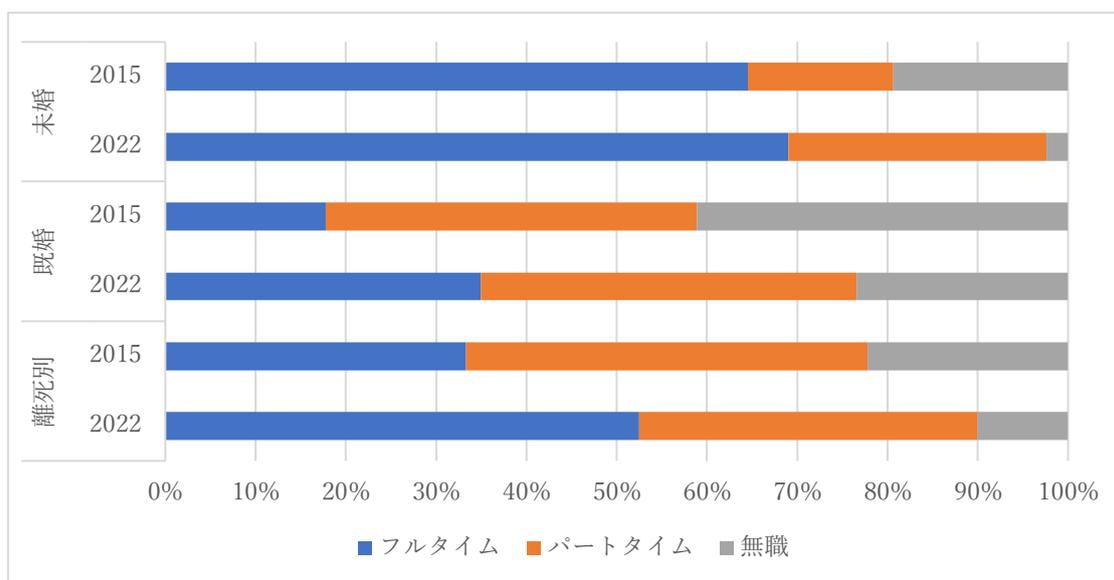
総じて、収入の変化については、職業の効果が大きいことが確認できた。特に男女の差については、その大部分は就いている職業の差であると考えられる。①フルタイム、あるいはパートタイムといった就業形態の間で大きな差がないこと、②勤務時間の調整がしやすいブルーカラー職で減少した人が多かったことの 2 点から、コロナ禍における収入の変化は残業を含む勤務時間の調整によってなされたものだと解釈できる。

ただし、新型コロナウイルスを機に、離職、あるいは転職したかについては分析できていないため、限定的な結論にならざるをえない。この点については、今後の課題としたい。

3 豊田市における女性の就業の規定要因

第1節で、豊田市における雇用の状況に関して、男性は2015年調査と大きな変化はないものの、女性は就業割合が高くなっていることを示した。それでは、就業するようになった女性はどのような属性を持っているのだろうか。本節では、就業形態と、婚姻状態、学歴、配偶者の勤め先、子どもの有無・年齢といった属性との関連を検討した。なお、第1節と同様に、25歳から64歳までの人を対象にした。

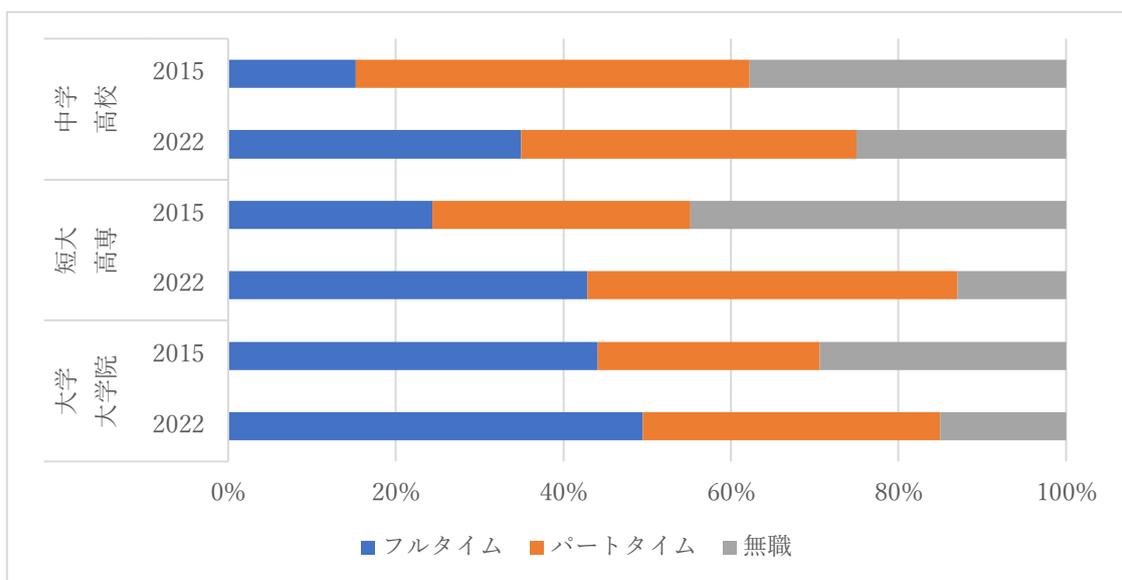
最初に、婚姻状況と就業形態の関係について確認する。図3-11は女性の婚姻状況ごとの就業形態の割合を示したものである。2015年調査と比べると、いずれの婚姻状況に関しても、就業割合が高くなっている。ただし、未婚者についてはパートタイムが大きく伸びた(16.1%→28.6%)のに対し、既婚者はフルタイム雇用が約2倍(17.8%→35.0%)増えている(既婚者のパートタイム割合はほぼ変わらない)。



$$\chi^2 = 6.60 (p=0.037) / \chi^2 = 24.95 (p=0.000) \chi^2 = 3.13 (p=0.079)$$

図3-11 豊田市における女性の就業形態（婚姻状態別）

次に、学歴と就業形態の関係について確認する。図3-12は女性の学歴ごとの就業形態の割合を示したものである。いずれの学歴でも、就業率の上昇が確認できる。特に短大・高専卒者でその傾向は顕著で55.1%から87.0%まで高くなっている。一方、大学・大学院卒者では、全体として有意水準にも達しておらず(p=0.079)、フルタイム雇用もそれほど伸びていない(44.1%→49.5%)。2015年調査時点での大学・大学院卒者のフルタイム雇用率(44.1%)が、2022年時点の中学・高校卒、短大・高専卒のいずれのフルタイム雇用率を上回っていることを踏まえれば、豊田市においては、大卒女性が先んじて労働市場に参加し、フルタイム雇用化していたことによるものだと考えられる。



$\chi^2=16.83(p=0.000) / \chi^2=19.38(p=0.000) / \chi^2=5.08(p=0.079)$

図 3-12 豊田市における女性の就業形態（学歴別）

次に、配偶者の就業状況と女性の就業形態の関係について確認する。配偶者の就業状況については、就業形態、職業、企業規模など様々な操作化の方法が考えられるが、ここでは豊田市で行われた調査であることの特性を生かして、勤め先の産業を取り上げることとする。

図 3-13 は、配偶者の勤務先産業ごとの女性の就業形態の割合を示したものである¹⁴。自動車関連産業、その他、配偶者なし、いずれのカテゴリにおいても就業率の上昇が確認できる。特に、配偶者が自動車関連産業に勤めている場合、パートが 36.8%から 51.3%に、その他勤務である場合、フルタイムが 24.2%から 46.1%に上昇している。

最後に、子どもの有無・年齢と就業形態との関連について、確認する。まず、子どもの有無で分類し、子どもがいる場合、さらに末子年齢を基準に乳幼児（6歳未満）、学齢期（6歳以上15歳未満）、15歳以上の3つのカテゴリに分類する¹⁵。

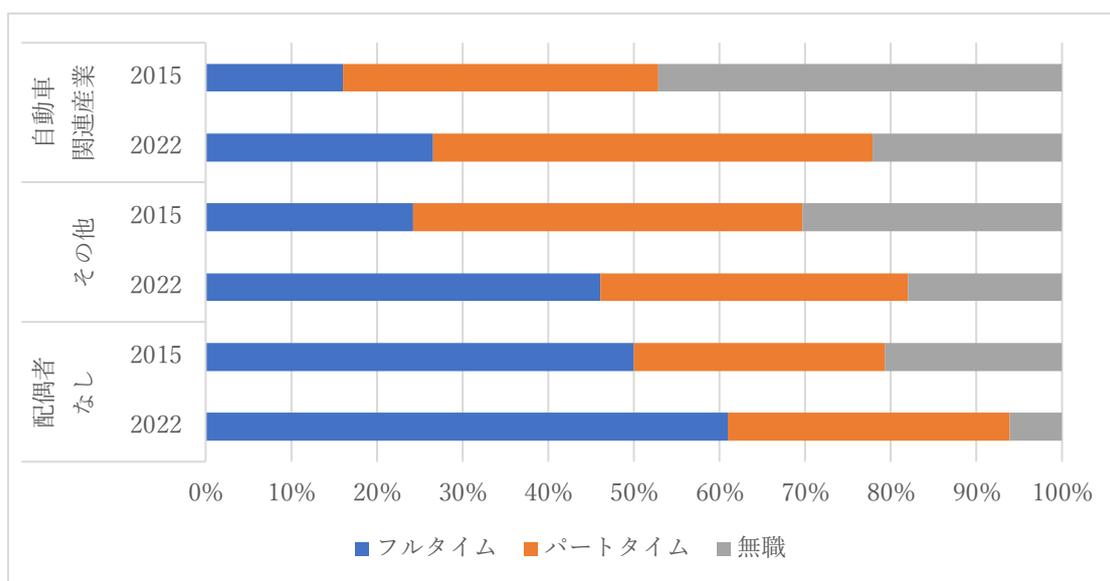
図 3-14 は、子どもの有無・年齢ごとの女性の就業形態の割合を示したものである。まず、乳幼児期の子どもを持つ女性のフルタイム雇用化が大きく進んでいることが指摘できる。

(20.8%→47.9%)。学齢期の子どもを持つ女性については、無職の割合は10%程度低下しているものの(28.6%→17.2%)、有意水準は満たしていない(p=0.216)。また、15歳以上の子どもを持つ女性も、フルタイム雇用者を2倍程度増やしている(15.8%→32.3%)。子どもなし

¹⁴ 配偶者がいない女性については、「配偶者なし」としている。また、配偶者が無職の場合を省いているが、高齢者層に集中しているため、大部分が退職者であると考えられる。

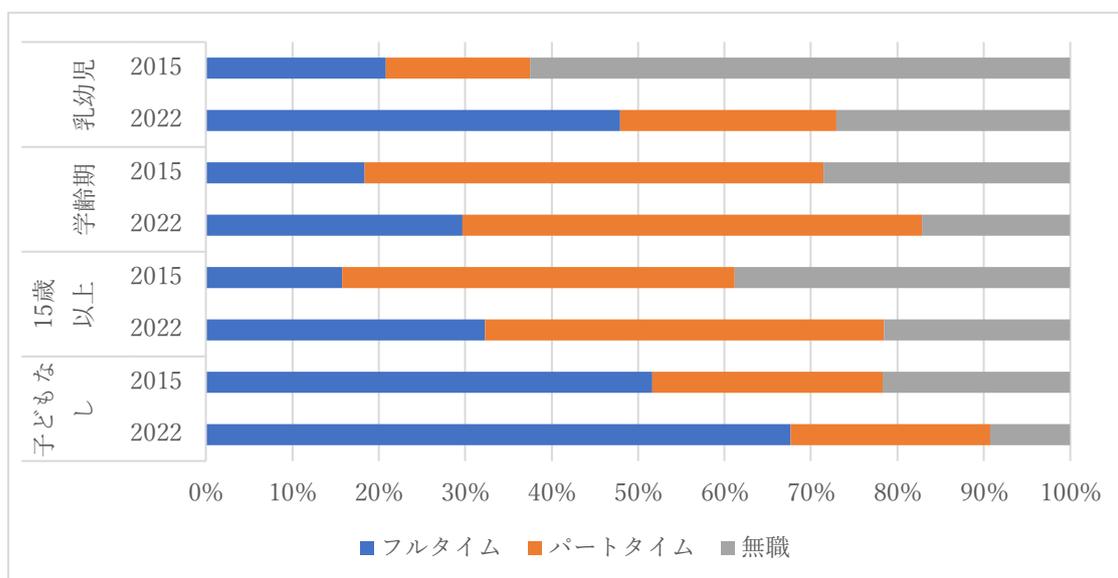
¹⁵ 本調査は年齢が上から順に3番目の子どもまでについてのみ詳細な情報を尋ねているため、ここでは4人以上の子どもがいる場合、末子年齢ではなく、上から3番目の子どもの年齢と定義されてしまっている。なお、対象のなかに4人以上の子どもがいる人の割合は2.7%と僅少であり、これを省いて分析を行っても同様の結果が得られた。

についても、フルタイムが 15%程度増加しており(51.7%→67.7%)、豊田市においては女性全体について、フルタイム雇用が促される傾向にあったと解釈できる。そのうえで、特に乳幼児期の子どもを持つ女性については、幼保無償化などの雇用継続のための制度的な基盤が整備された影響を受け、さらにフルタイム雇用の割合が高くなっていると考えられる。



$\chi^2=15.44(p=0.000) / \chi^2=10.40(p=0.006) / \chi^2=6.82(p=0.033)$

図 3-13 豊田市における女性の就業形態（配偶者の勤務先産業別）



$\chi^2=12.64(p=0.002) / \chi^2=3.06(p=0.216) / \chi^2=14.96(p=0.001) / \chi^2=4.67(p=0.097)$

図 3-14 豊田市における女性の就業形態（子どもの有無・年齢別）

以上、どのような属性の女性が、どのような就業形態で働くようになったのか、確認した。ほとんどの属性において、就業率の上昇が確認できたが、フルタイム雇用が進んだ属性もあれば、パートタイム雇用が進んだ属性もあった。総じて、従来、女性の労働参加を抑えると考えられてきた属性（既婚、乳幼児期の子どもを持つなど）であっても、2015年調査と比較すると、労働市場に参加するようになっており、平等化が進んでいると言える。

小括

本章では、豊田市における雇用の状況の変化を確認したのち、どのような雇用上の地位の人が新型コロナウイルス問題の影響を受けているか、またどのような属性の女性が就業しているのかについて、分析を行った。明らかになったことは以下の3点である。

第一に、豊田市において、女性の労働力化、特にフルタイム雇用化が大きく進んでいる。2015年調査で指摘されていた女性の脱専業主婦傾向の低下から、さらに脱近代家族化が進み、いまや41.5%の女性がフルタイムで働いている。なお、男性については、就業形態、職業、企業規模などに関しては2015年から大きな変化はなかった。

第二に、新型コロナウイルスによる収入の変化については、職業的地位の影響が大きく影響していた。特に収入の変化の男女差については、主に就いている職業の差によるものだと考えられる。男性・フルタイムに限って、企業規模や勤務先産業別に収入の増減を見たが、これらは有意な効果を持たなかった一方で、ブルーカラー職で減少を経験した人の割合が高く、勤務時間の調整によって、収入が変化していることが示唆される。

第三に、女性の労働供給を抑制していると考えられてきた属性であっても、2015年調査と比較すると、労働参加するようになっている傾向が見られた。また、豊田市では、非大卒女性は労働供給を控える傾向にあったが、非大卒であっても、労働市場に参入するようになり、高学歴女性との差が小さくなっていた。女性の労働参加については、全体として平等化が進んでいると言える。

文献

山口博史・中根多恵・丹辺宣彦，2020，「豊田市の人口学的・社会的変化とまちづくり活動の停滞」丹辺宣彦・中村麻里・山口博史編『変貌する豊田——グローバル化と社会の変化に直面するクルマのまち』東信堂，26-50.

第4章 コロナ禍の下での暮らし

中村麻理

本章では、コロナ禍の下での暮らしの側面に焦点をあてる。ここで注目するのは、第1に、人間関係や仕事の成果、地域との交流、健康といった生活面での満足感、第2に、日常の困りごとや不安感、第3に、活動の種類別の意欲である。これら进行分析するには、2015年調査と比較しながら、男女別の違いを明らかにしていきたい。そのうえで、コロナ禍における感染症への不安感が、生活満足や困りごとなどどのように関連しているかを見ていきたい。今回の調査では、文化消費や健康配慮行動に関する質問も設けているので、本章で結果について考察していくこととしたい。

1 コロナ禍の生活満足と不安：男女の違いに注目して

1-1 生活満足度：2015年調査との比較

はじめに、生活満足度について男女間の比較を行ってきたい。2015年調査と比較して、男女とも全体的な生活満足度が上昇している。性別で比較すると、2015年、2022年調査とも、女性のほうが、より満足度が高いという結果になった。仕事の成果についても同様で、女性の14.9%が「満足している」、65.9%が「どちらかといえば満足」と回答し、男性の11.5%と57.3%に比べ、有意な差が見られた。女性においては、2015年調査と比較しても、満足度の高い回答が増加した。「家族との関係」については、男女間の差は見られなかった。「友人との関係」、「地域との交流」については、2015年調査時点と同じく、女性のほうが男性に比べて満足度が高い傾向を示した。

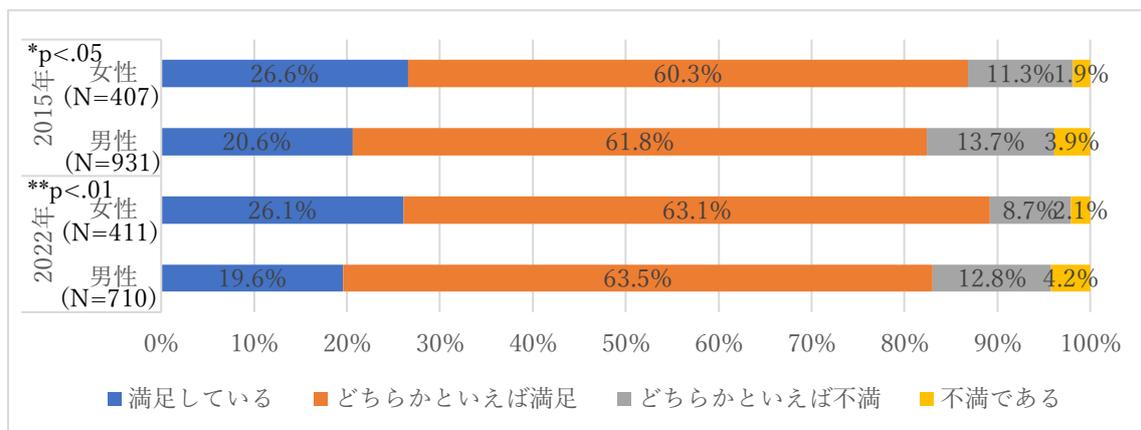
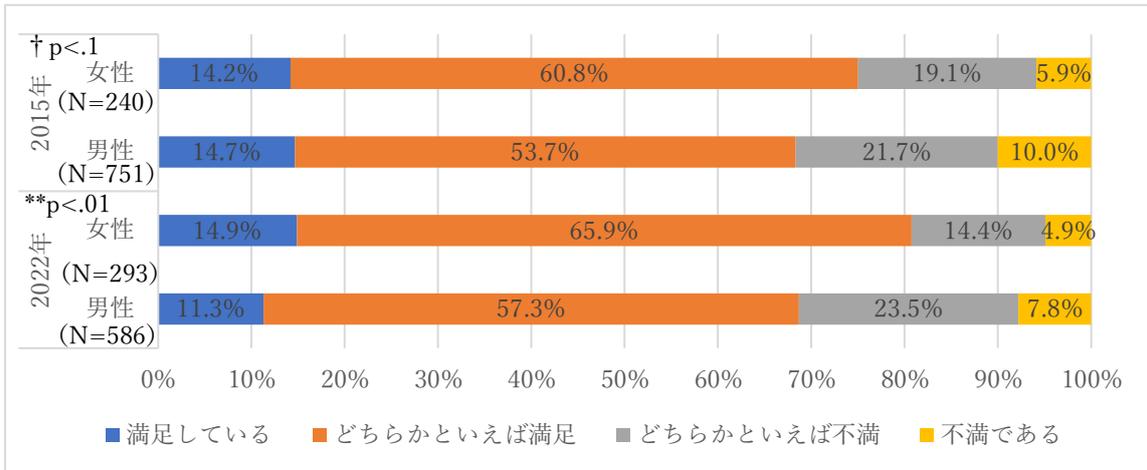


図4-1 生活満足度：全体的に



生活満足度：仕事の成果（2015年調査では「お仕事の面で」）

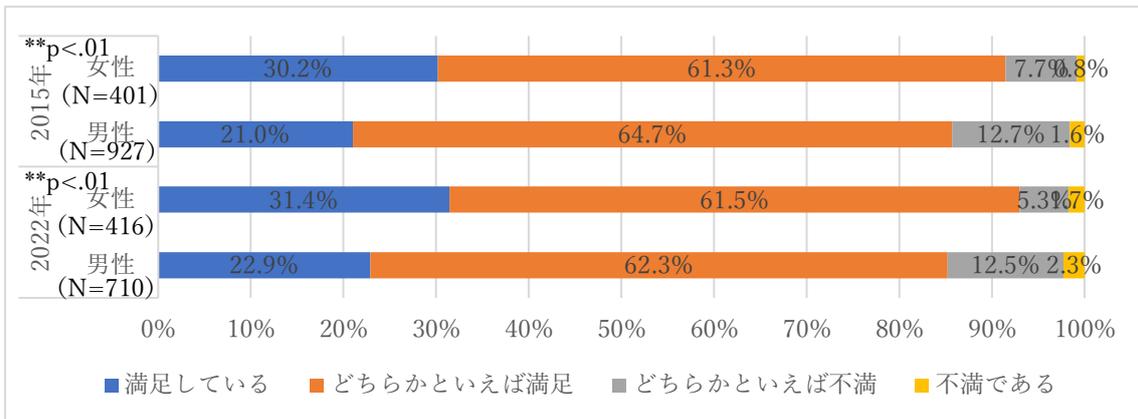


図 4-3 生活満足度：友人との関係

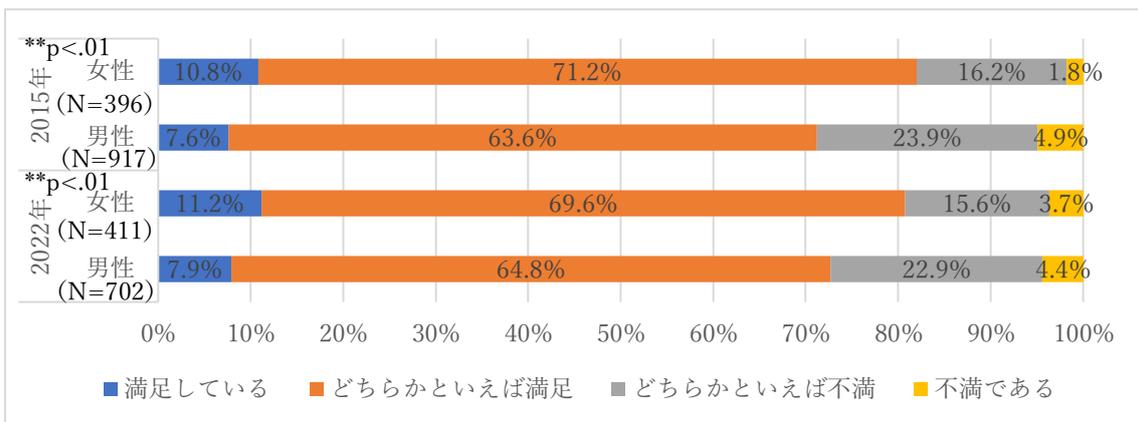


図 4-4 生活満足度：地域との交流

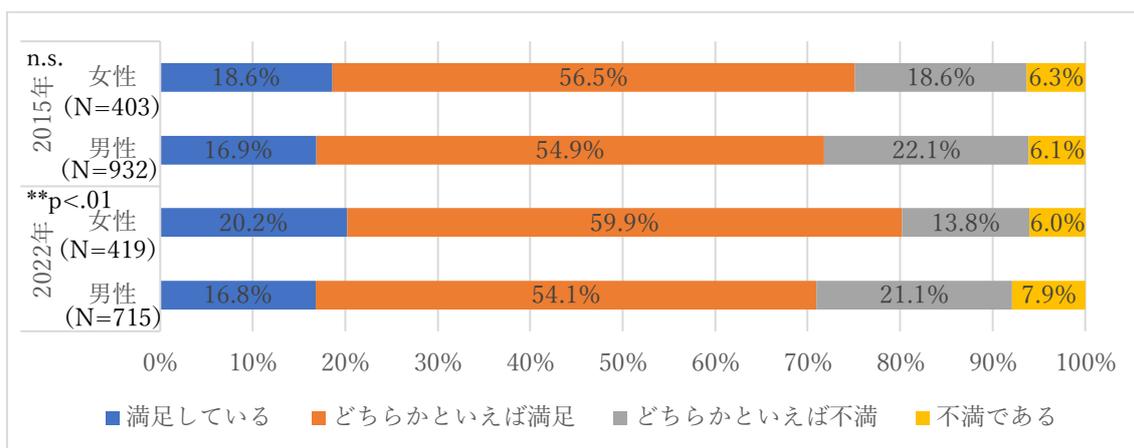


図 4-5 生活満足度：健康面で

「健康面で」は、2015年調査では男女間で差が認められなかった、2022年調査では女性のほうが、満足度が高いという結果が得られた。女性では20.2%が「満足している」、59.9%が「どちらかといえば満足」、男性では「満足している」が16.8%、「どちらかといえば満足」が54.1%であった。女性については、2015年調査に比べても満足度が高まっているようである。

1-2 暮らしの中で困っていること：性差と年次比較

次に、「現在生活するうえで具体的にお困りのことがありますか」という設問について、男女差を見ておきたい。「病気がちである」、「話し相手、相談相手が少ない」、「生活に張り合いがない」、「経済面・家計の不安」については、男女間で差は見られなかった。

「防犯上の心配」に関しては、2015年調査で男女間の差が見られたが、2022年調査では有意差が示されなかった。女性の回答を年次比較すると、女性の「はっきり感じる」、「少し感じる」という回答の割合が減少していることがわかる。

「外出がおっくうになった」と「災害時の心配」という項目は、2015年、2022年調査とも、女性のほうが「はっきり感じる」、「少し感じる」の割合が高い。

「雇用の不安」については、女性のほうが不安を示す割合が高く、6.3%が「はっきり感じる」、32.3%が「少し感じる」と回答している。男性ではそれぞれ6%、25.1%であった。

コロナ禍であるため、「感染症への不安」項目は男女とも「はっきり感じる」「少し感じる」という回答率が高く、女性で31.1%と45.6%、男性で27.6%と43.2%であった（有意差は10%水準で女性のほうがやや高い）。

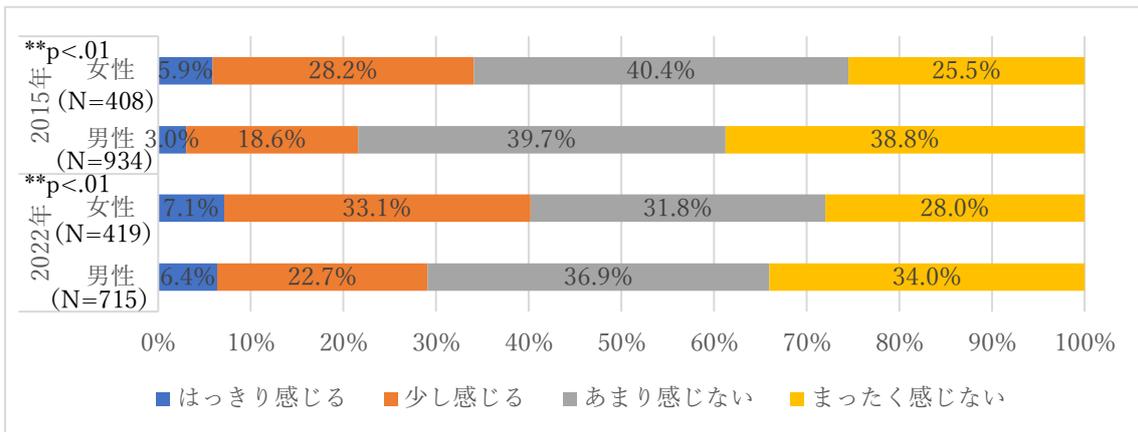


図 4-6 困りごと：外出がおっくうになった

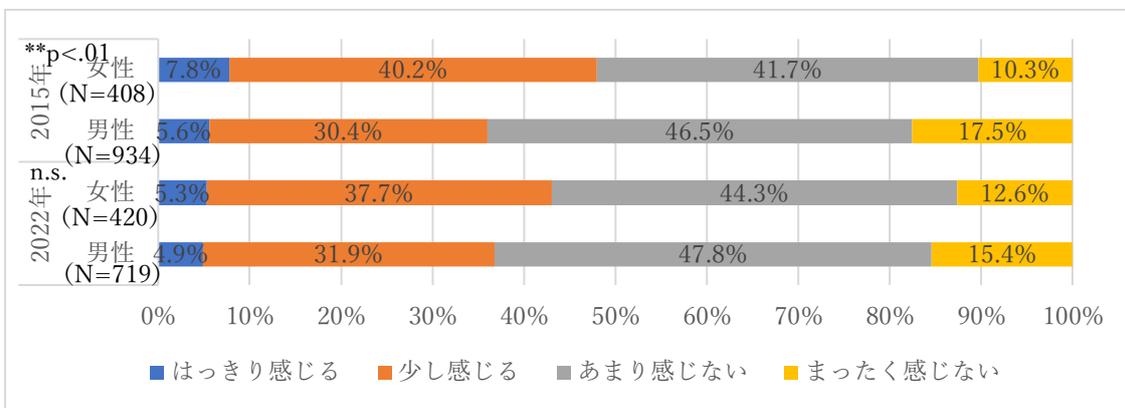


図 4-7 困りごと：防犯上の心配

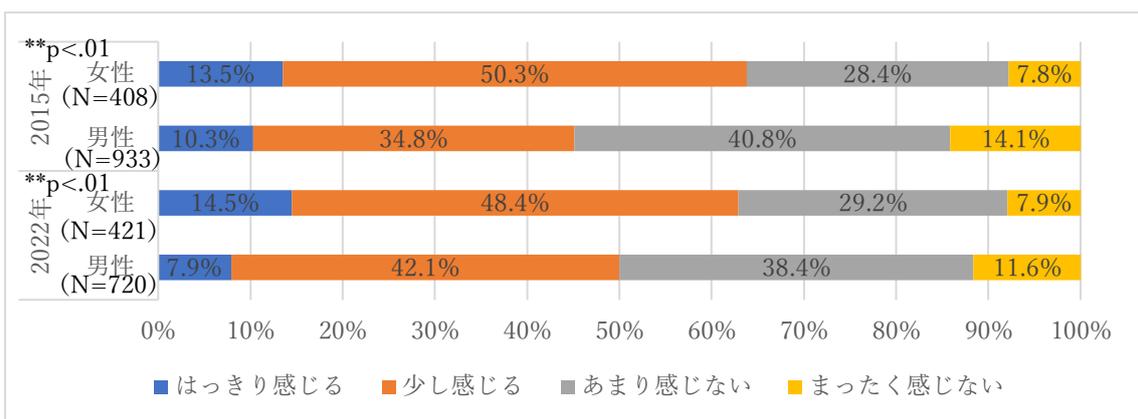


図 4-8 困りごと：災害時の心配

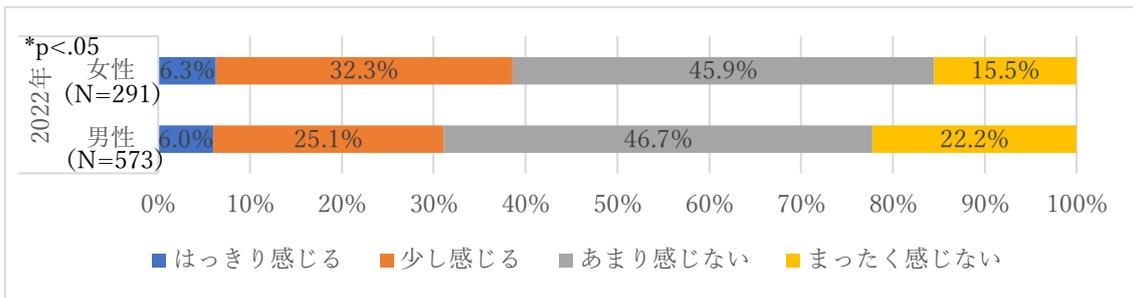


図 4-9 困りごと：雇用の不安

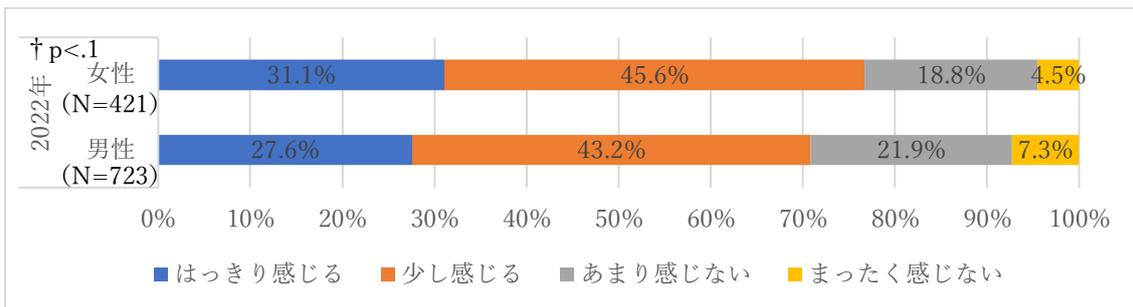


図 4-10 困りごと：感染症への不安

1-3 活動意欲：自由に使える時間が今より増えたら何をしたいか

本項では、コロナ禍の下での活動意欲に焦点をあて、男女別の志向性の違いを確認していきたい。具体的には、「自由に使える時間が今より増えたら、あなたは何をしたいと思いますか」という設問に注目する。「趣味・娯楽」は男女とも意欲が高く、「とてもしたいと思う」が男性で58.5%、女性で53.2%と、2015年より割合が高くなっている。男女間で有意差は見られなかった。

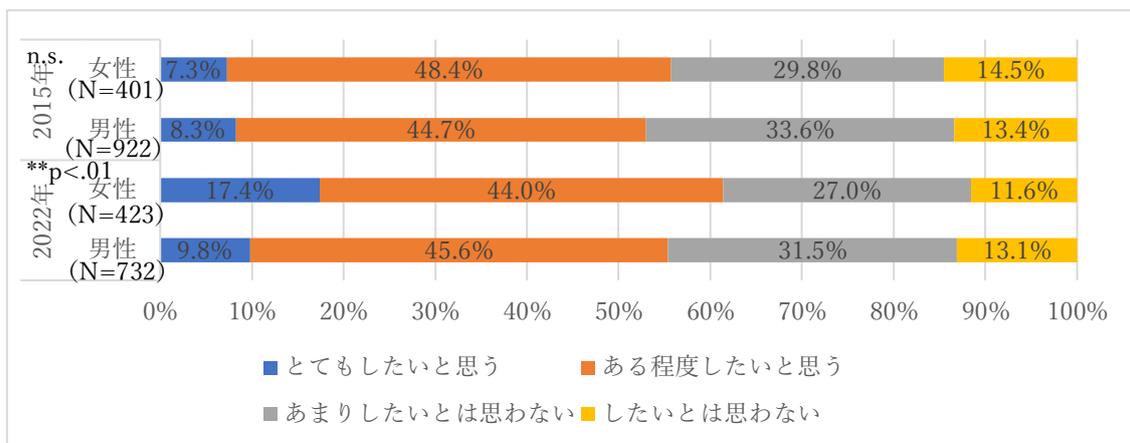


図 4-11 仕事や能力開発

「仕事や能力開発」への意欲は女性のほうが高く、女性の17.4%が「とてもしたいと思う」、44%が「ある程度したいと思う」と回答した。男性ではそれぞれ、9.8%、45.6%であった。女性については、2015年と比較して割合が上昇していることにも注目しておきたい。「家族・友人と過ごす」は男女とも意欲が高く、「とてもしたいと思う」が男性で39.5%、女性で41.9%となっており、男女間で有意差は見られなかった。

「ボランティアやNPO活動」は、2015年調査と同じく、女性のほうが高い意欲を示した。女性の4.9%が「とてもしたいと思う」、38%が「ある程度したいと思う」と回答しており、コロナ禍にもかかわらず、2015年より割合が高くなった。「地域交流や自治活動」については、男女間で有意差は見られなかった。

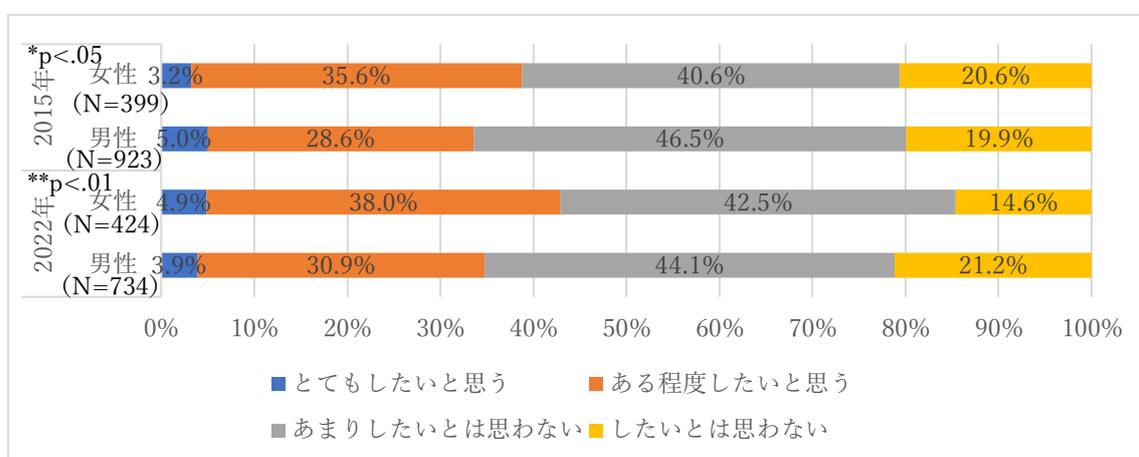


図 4-12 ボランティアやNPO活動

2 感染症への不安と暮らし

本節では、感染症への不安に注目して、生活満足や不安感について見ていきたい。感染症への不安を「はっきり感じる」「少し感じる」と回答した者を「感染症不安高群」、「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した者を「感染症不安低群」とし、生活満足と不安に関する項目とクロス表集計による分析を行った。

生活満足度に関しては、「健康面で」という項目で明確な有意差が見られた。「感染症不安高群」では、「どちらかといえば不満」が19.3%、「不満である」が8%であったのに対し、「感染症不安低群」では、「どちらかといえば不満」が13.5%、「不満である」が4.4%であった。「全体的に」という設問でも、「感染症不安低群」では、「満足している」が27.9%であったが、「感染症不安高群」では20.6%にとどまった。

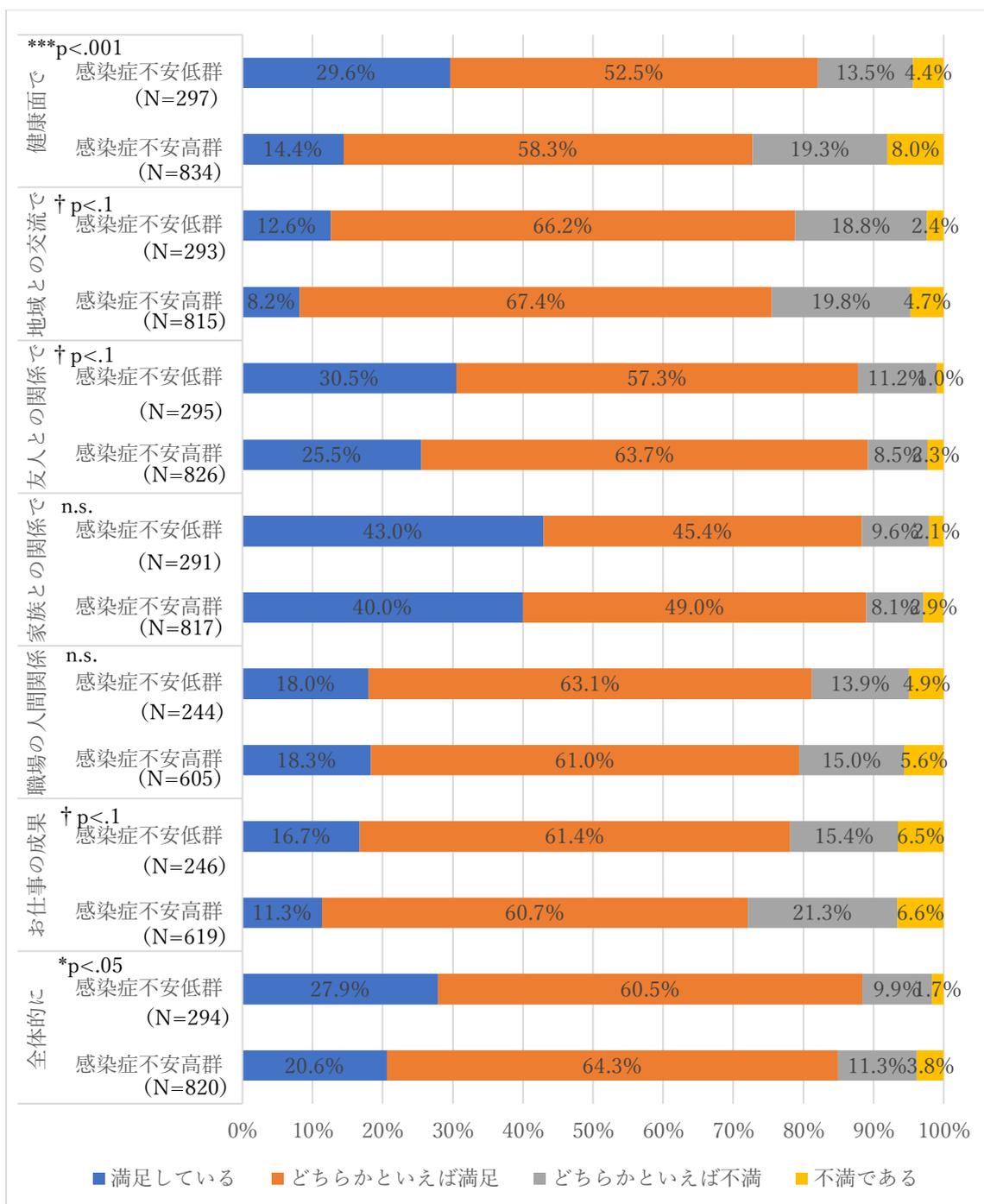


図 4-13 感染症に対する不安の度合いと生活満足度

生活における困りごとでは、「感染症不安高群」と「感染症不安低群」で違いがさらにはっきりとあらわれた。とくに差が大きかったのは、「経済面・家計の不安」、「災害時の不安」、「防犯上の心配」などである。「経済面・家計の不安」については、「感染症不安低群」で「はっきり感じる」が9.3%、「少し感じる」が25.8%であったが、「感染症不安高群」では、それぞれ21.6%、44.8%となった。

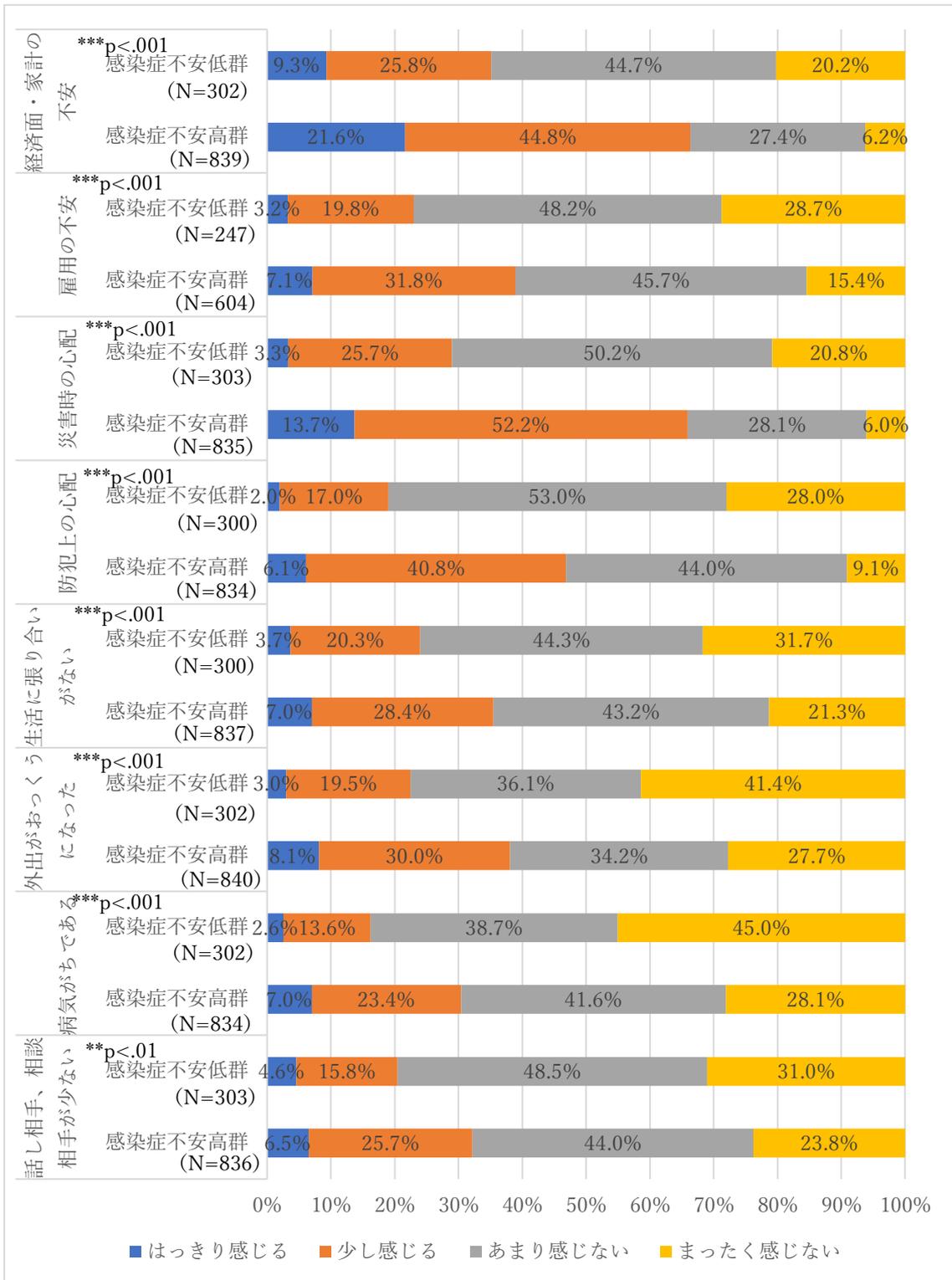


図 4-14 感染症に対する不安の度合いと生活上の困りごと

「災害時の不安」という設問では、「感染症不安低群」で「はっきり感じる」が3.3%、「少し感じる」が25.7%、「感染症不安高群」では「はっきり感じる」が13.7%、「少し感じる」が52.2%であった。「防犯上の心配」でも同様の傾向が見られた。「感染症不安低群」においては、「はっきり感じる」が2%、「少し感じる」が17%、「感染症不安高群」では「はっきり感じる」が6.1%、「少し感じる」が40.8%であった。コロナ禍における感染症に対する不安感が、生活満足度やその他の不安に影響を落としていることが今回の調査で明らかになったと言えるだろう。

3 余暇・レジャー活動と健康配慮行動について

本節では、「余暇・レジャー」と「健康維持・食生活」に関する活動に焦点をあてる。まず、「余暇やレジャーをどれくらい楽しんでおられますか。コロナ禍以前の最近の5、6年についてお答えください。」という設問を検討する。全体として経験率が高い余暇・レジャーは、「スポーツ新聞や女性週刊誌を読む」（女性で49.1%が年1回以上、9.4%が数年に1回くらい、男性で42.1%が年1回以上、5.4%が数年に1回くらい）や「小説や歴史の本を読む」（女性で40.4%が年1回以上、11.8%が数年に1回くらい、男性で34%が年1回以上、10.1%が数年に1回くらい）で、どちらも女性の経験率が有意に高くなった。「パチンコをする」や「ゴルフをする」は男性で有意に経験率が高く、反対に「クラシックの音楽会・コンサートに行く」や「美術館や博物館に行く」では女性の経験率が高くなっており、女性のハイカルチャー志向が明らかになった。「家庭菜園・市民農園菜緒で農作業する」や「カラオケをする」では性別による違いは見られなかった。

次に、「健康維持や食生活にどれくらい配慮しておられますか」という設問について見ておきたい。「栄養バランスに気を付けて食事をしている」という項目では、女性の32.2%が「あてはまる」、50.6%が「ややあてはまる」と回答しており、男性の「あてはまる」19.5%、「ややあてはまる」48.2%と比較して、有意な差を示した。「定期的に運動するようにしている」は男女間で差は見られなかった。「無農薬や有機栽培の野菜、無添加の食品を購入している」では、女性の8.3%が「あてはまる」、31.9%が「ややあてはまる」と回答しており、男性の「あてはまる」4.3%、「ややあてはまる」17.8%との有意差が見られた。「国産の野菜や肉を購入している」については、女性では30%が「あてはまる」、43.2%が「ややあてはまる」としており、国産志向の高さがうかがえる。男性では「あてはまる」16.3%、「ややあてはまる」33.9%であり、男女間の差が明らかとなった。

なお、「余暇・レジャー」と「健康維持・食生活」に関する項目では、感染症の不安感による有意差がほとんど見られなかった。ただし、定期的な運動に関してのみ、感染症不安低群で「あてはまる」が29.9%、高群で22.8%という違いが見られた（5%水準で有意差あり）。

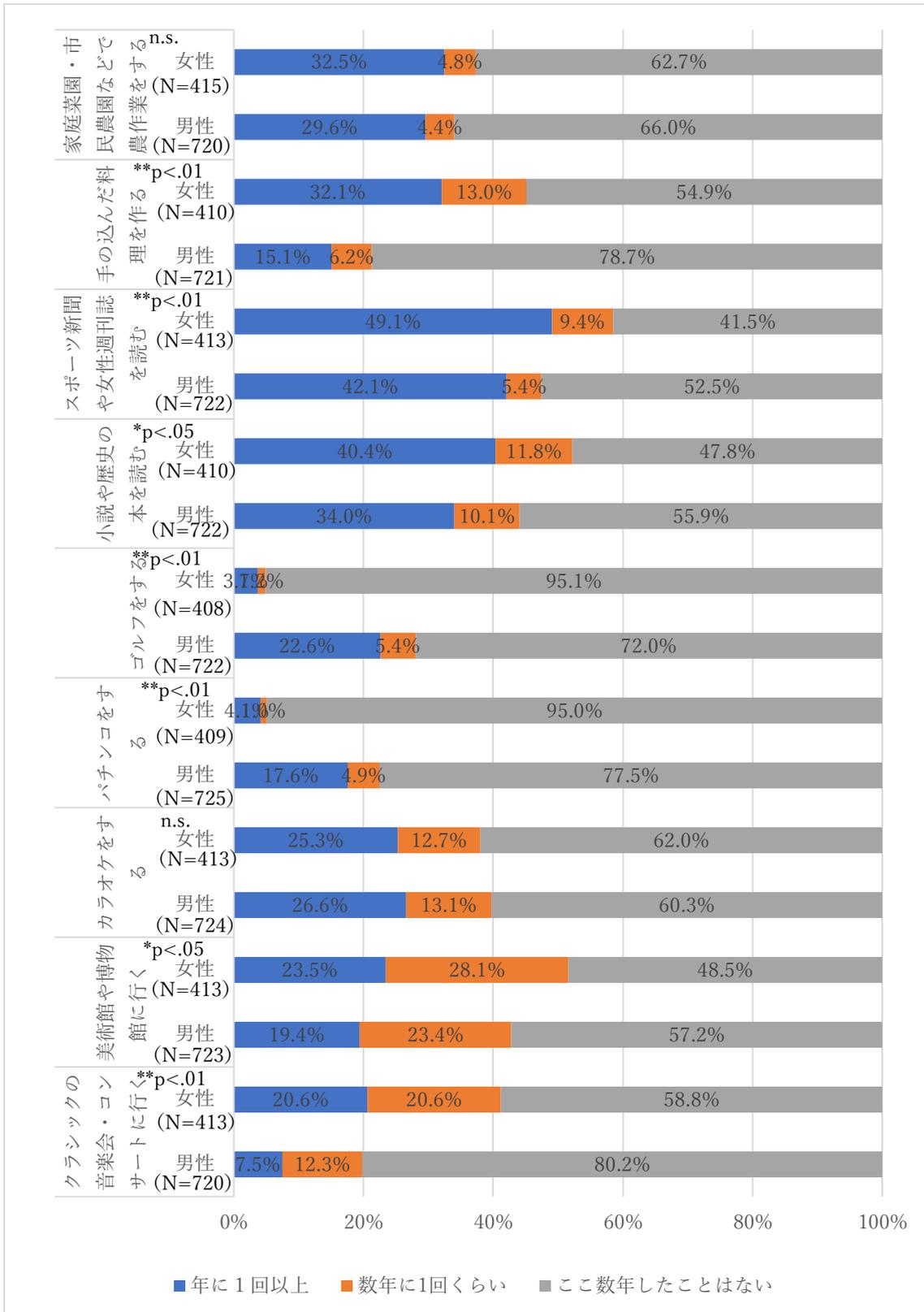


図 4-15 余暇・レジャー活動

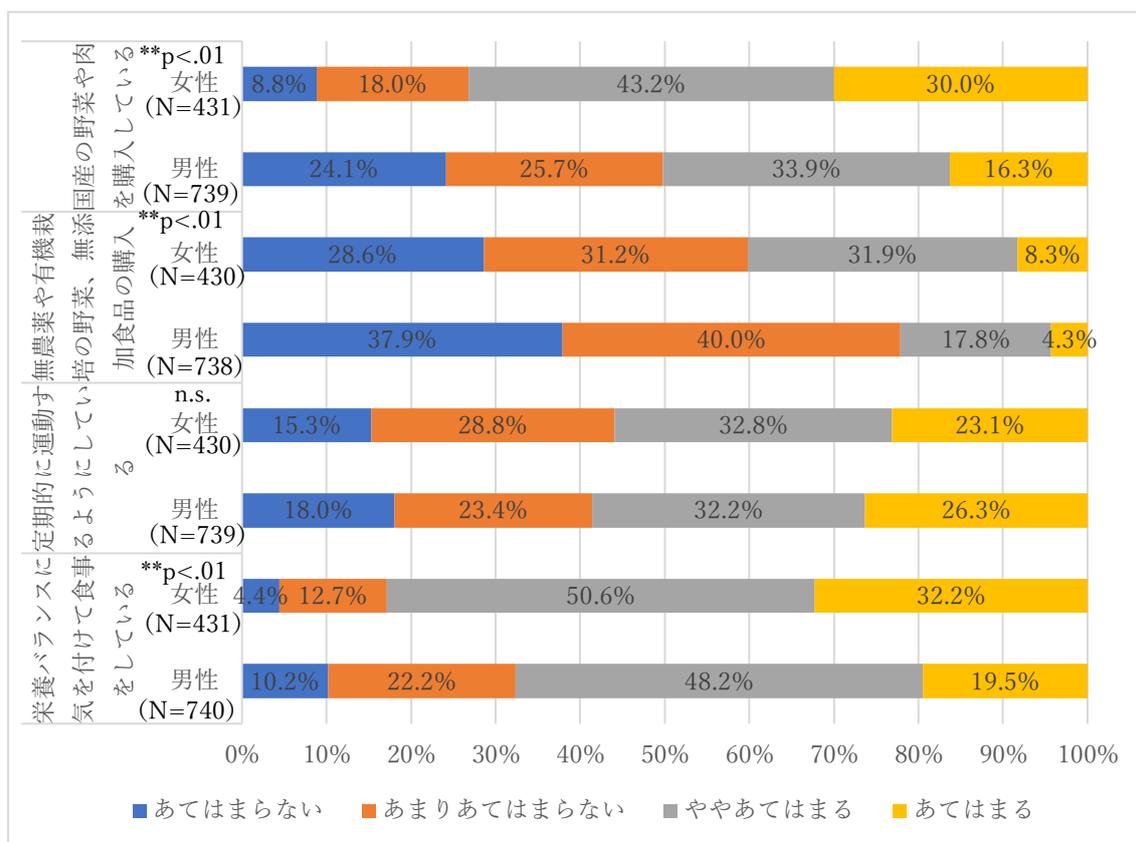


図 4-16 健康維持や食生活への配慮

小括

本章では、コロナ禍の下での暮らしの側面に焦点をあててきた。生活面での満足感に関しては、2015年調査と同様に、今回の2022年調査でも女性のほうが概して満足度が高いという結果になった。具体的には、全体的な生活満足度、仕事の成果、友人との関係、地域交流、健康といった項目で差が見られた。困りごとや不安感に関しては、外出がおっくうになった、防犯や災害の心配、雇用について等で、女性の不安感がより高いという傾向が見られた。自由に使える時間があつたら何がしたいかという設問の回答からは、仕事や能力開発、ボランティアやNPO活動で女性の意欲が高いことがわかった。

コロナ禍の感染症に対する不安感については、感染症不安高群と感染症不安低群で、生活満足感やその他の不安感の度合いが異なることが示された。たとえば、生活満足では健康面と全体的な満足度で有意差が見られた。生活上の困りごとやその他の不安感と感染症不安は明らかな関連性があり、すべての項目で明確な差があった。コロナ禍の感染症不安とその他の不安感が不可分に繋がっていることが今回の調査で明らかになったと言えるだろう。

第5章 親族関係と高齢社会

三田泰雅

1 はじめに

本章では家族・親族関係と、高齢者の社会関係を取りあげる。前回調査からの7年間に、人々を取り結ぶ関係がどのように変わったのかを考えてみたい。この間には2020年からのコロナ禍があり、その影響がどのようなようであったのかも注目したい点である。

家族や親族は時代によってその姿を変えてきた。また、高齢人口はますます増加している。こうした社会的潮流を背景にしながら、コロナ禍は人々の関係にどのような影響を与えたのだろうか。もちろん変化の原因をすべてコロナ禍に求めることはできないが、この7年間で最もインパクトの大きい出来事の一つではあるだろう。前回と今回の2時点の調査結果を比較しながら、この7年間の変化をあとづけてみたい。

結論を先にのべておくと、家族も高齢者の社会関係も、あるところは変わり、あるところは変わらないという結果であった。以下では、前半で家族構成の変化を、後半は高齢者の社会関係を検討し、何が違って何が変わらなかったのかを見てゆきたい。

2 方法

2-1 分析方法と使用する変数

本章では、前回2015年の調査と今回2022年の調査データをもちい、家族・親族関係と高齢者の社会関係を男女別に比較する。家族・親族関係は、はじめに家族に関する基礎的な変数を確認したのち、結婚や出産など家族形成に関する変数の比較を行う。

家族に関する基礎的な変数として、家族構成、家族員数、婚姻状態、子どもの有無、子ども数、中学卒業時の居住地、豊田市内の親族数を使用する。家族構成は「単身世帯」「核家族世帯」「三世帯世帯」「その他」の4カテゴリーである。中学卒業時の居住地は「現住所」「豊田市内」「愛知県内」「県外」「国外」の5カテゴリーでたずねている。豊田市内の親族数は、「親しくつきあっている」親族の数を軒数でたずねた。「1~2軒」「3~5軒」「6~9軒」「10軒以上」「なし」の5つの選択肢を示して、もっとも近いものを選んでもらっている。

つぎに家族形成に関する変数として、年齢別未婚率、就業先の規模別の子どもの有無と未婚率、そして本人と配偶者の就業状態を使用する。未婚率は「未婚」と「既婚・離死別」とに二分した変数である。就業先の規模は、従業員1,000人未満の事業所につとめる人と、従業員1,000人以上の事業所または官公庁につとめる人という2分類を行った。婚姻状態は「未婚」「既婚」「離死別」の3カテゴリーとした。本人と配偶者の就業状態は「フルタイム」「非正規」「無職」の3カテゴリーである。分析対象は2015年データが1355ケース（男性

942・女性 413)、2022 年データは 1176 ケース (男性 741・女性 435) である。

後半は 65 歳～74 歳の回答者を分析対象として高齢者の社会関係に関する分析を行う。ここでは実態と意識の両面から確認してみたい。はじめに実態面については、「近所づきあい」の各質問と、友人との交際についての 2 質問を用いて検討する。近所づきあいは「お茶や食事をいっしょにする」「趣味・娯楽をいっしょに楽しむ」「情報を交換したり相談にのる」「子どもを通したつきあい」「困ったときに助け合う」「家を訪ねあう」「外で立ち話をする程度」「とくにつきあいはない」の 8 項目である。友人との交際は「お茶や食事を楽しむ友人」の変数を使用する。

意識面での変化については、「生活満足度」に関する各質問と、「くらしの上での困りごと」に関する各質問とを用いる。生活満足度は、「全体的」「友人との関係」「家族との関係」「地域との関係」の 5 項目を、くらしの上でのこまりごとは、「話し相手、相談相手が少ない」「病気がちである」「外出がおっくうになった」「生活に張り合いがない」「防犯上の心配」「災害時の心配」「経済面・家計の不安」の 7 項目を、いずれも 4 件法でたずねたものである。分析対象は 2015 年が 358 ケース (男性 263・女性 95)、2022 年が 314 ケース (男性 196・女性 118) である。

3 変わらない家族

3-1 家族構成

図 5-1 では家族構成を比較している。男女とも、家族構成の分布は前回とほぼ同じであった。単身世帯：核家族：三世代世帯の割合はおおよそ 1：7：2 のまま変動がない。また同居する家族の人数を表 5-1 に示した。男女とも家族員数に変化はみられない。この 7 年間で家族の構成はかなり安定していたことがわかる。

3-2 婚姻状況

図 5-2 から男女別に婚姻状況をみてゆこう。各調査年で、男女別に未婚・既婚・離死別の割合を示した。男女とも前回からほとんど変化が見られない。男性ではわずかに未婚が減少して既婚が増え、女性では既婚が減って離死別が増えたようにもみえるが、統計的に有意な差ではなかった。おおまかにみて未婚・既婚・離死別の割合は男女とも 1：8：1 であった。

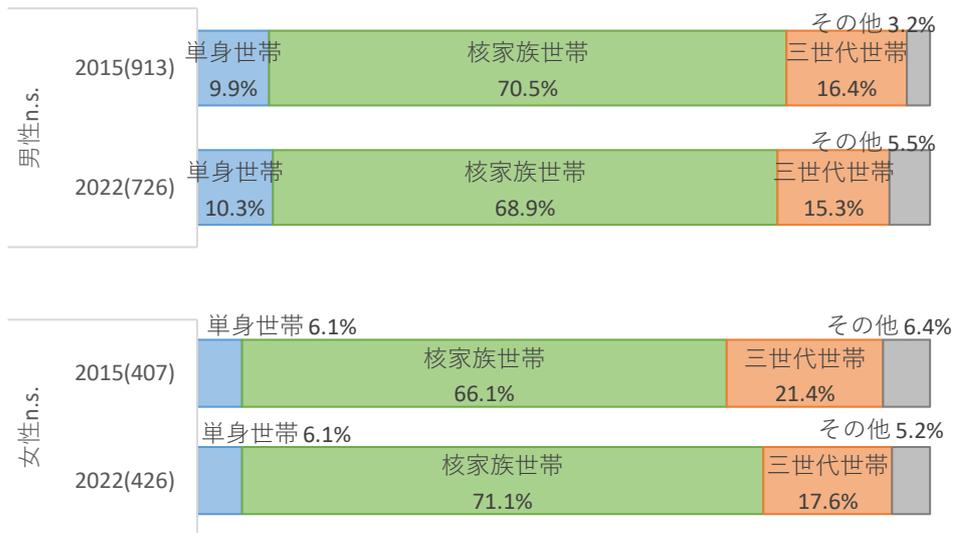


図 5-1 家族構成

表 1 家族員数

	男性		女性	
	2015	2022	2015	2022
平均値	3.2	3.1	3.4	3.3
標準偏差	1.5	1.4	1.6	1.4
度数	927	732	408	428
	n.s.		n.s.	

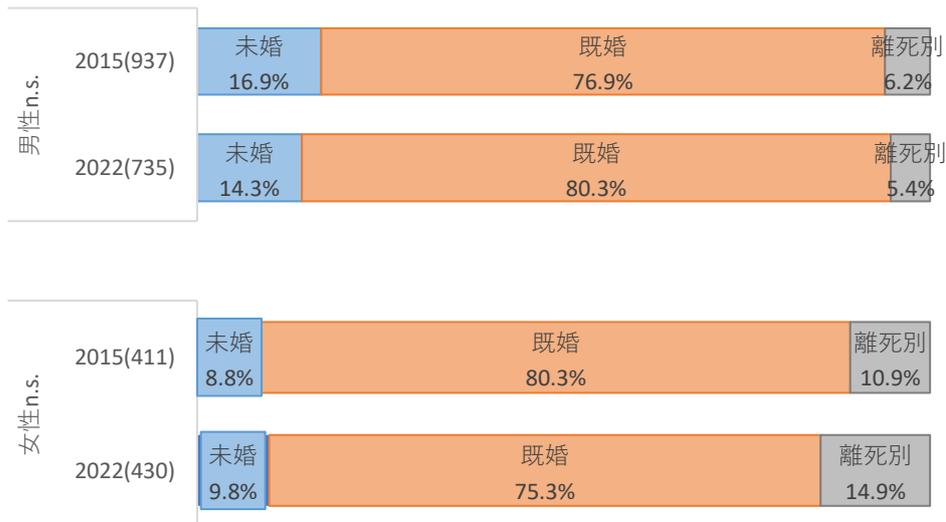


図 5-2 婚姻状態

3-3 子ども

図 5-3 に子どもの有無を、表 5-2 に子ども人数を示した。前回と同じく 8 割近くの回答者が子どもをもっており、子どものいない回答者は 2 割程度であった。子どもの人数は男性・女性ともに平均 2.1 人のまま変化がない。子どもの数に関しては、変化らしい変化はなかったとってよいであろう。

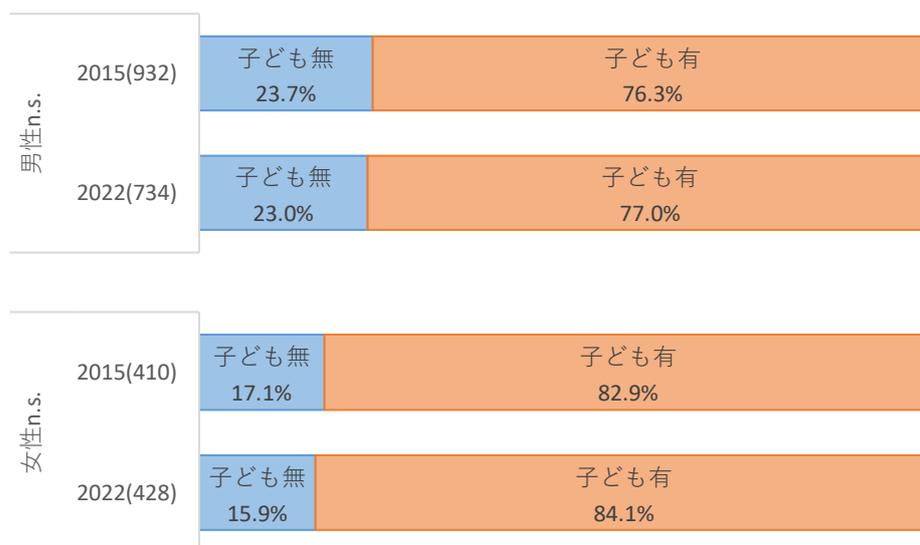


図 5-3 子どもの有無

表 5-2 子ども人数

	男性		女性	
	2015	2022	2015	2022
平均値	2.1	2.1	2.1	2.1
標準偏差	0.7	0.8	0.7	0.8
度数	709	565	340	360
	n.s.		n.s.	

3-4 出身地

図 5-4 には出身地 (中学卒業時の居住地) を比較してある。中学校卒業時に「現在の住所」「豊田市内」「愛知県内」「県外」「国外」のいずれに居住していたかをたずねたものである。男女ともわずかに国外出身者が増えたものの、他に大きな変化はみられなかった。

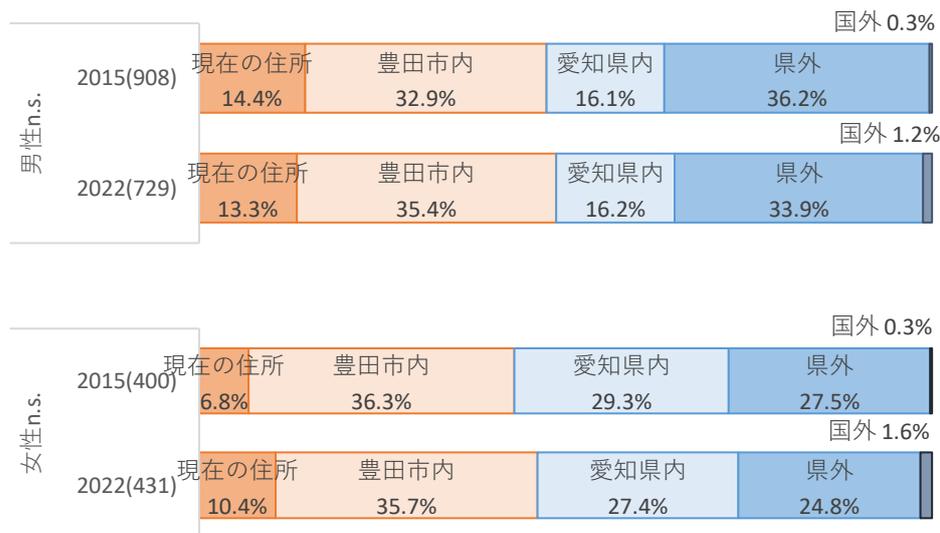


図 5-4 中学校卒業時の居住地

3-5 市内の親族数

市内の親族数を図 5-5 に示した。前回に比べると親族「なし」が減少しており、市内にルーツをもつ人の割合が高まっていることが確認できる。ただし一方で、6～9 軒や 10 軒など多くの親族とつきあっている人々の割合が減り、1～2 軒や 3～5 軒といった比較的小規模な親族関係をもつ人の割合が増えた。つまり全体としては市内の定住傾向が強まり人口の再生産が進む一方、親族関係の規模は縮小してきたと考えることができるだろう。

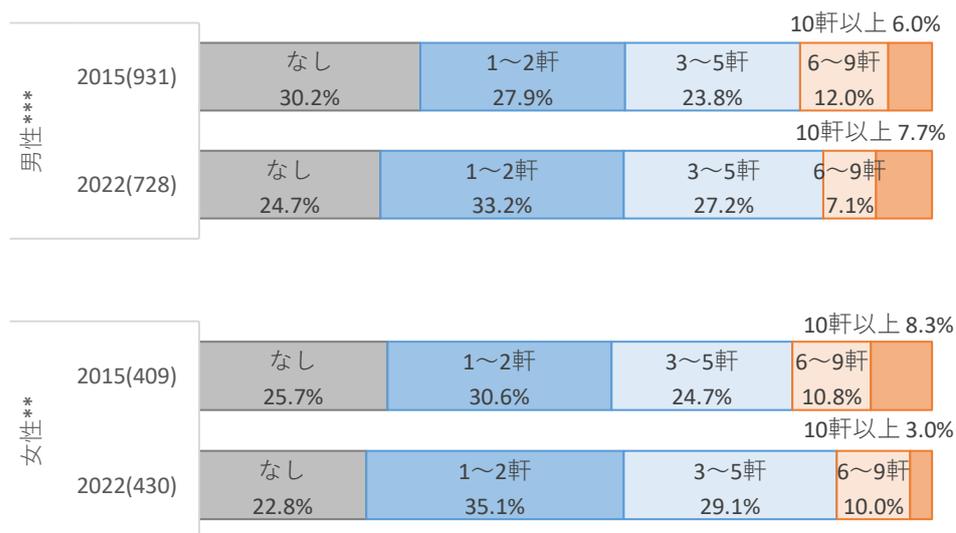


図 5-5 市内の親族（軒数）

4 変わる家族

4-1 未婚化のゆくえ

次は結婚・出産などの家族形成を検討してみよう。まずは未婚化の状況を確認するために、男女別に年齢階級ごとの未婚率を前回と今回で比較したものが図 5-6 である。若年層では男性で全体に未婚率が低下し、とくに 30 歳代前半の未婚率が大幅に下がった（結婚する人が増えた）。これに対し女性では 20 歳代後半の未婚率が大きく上昇している。また男女とも 50 歳代以上の年代では未婚者が増えた年代が多く、生涯未婚率の上昇がじわりと姿を現してきている。年代や性別によって婚姻状況の変化の方向がさまざまに異なっており、一律に未婚化や晩婚化が進んでいるというわけではなさそうだ。30～40 歳代では未婚化が小休止したようにもみえる。この結婚の動向については、後で詳しく検討したい。

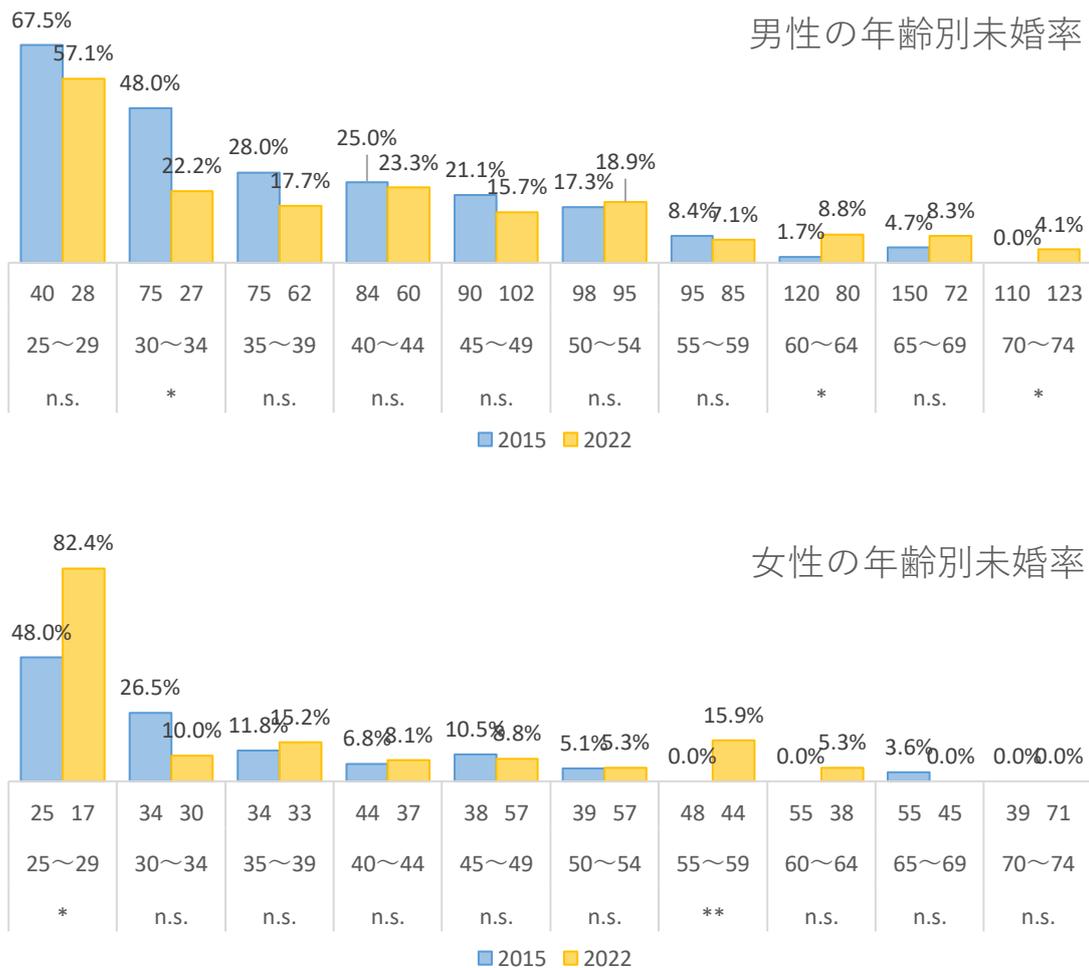


図 5-6 年齢別未婚率

4-2 子どもの有無

前回調査では勤務先の規模が子どもの有無を大きく左右していた（丹辺ほか 2020）。この傾向がその後どうなったか、就業先の規模による比較を通して確認してみよう。就業先の従業員数が1,000人未満の場合と、1,000人以上または官公庁の場合とに分けて子どもの有無を比べてみたものが図5-7である。

50歳未満の対象者について、年齢を5歳階級に分けたうえで、子どもをもつ人の割合を%で示した。図の青い棒は従業員数1000人未満の中小企業で働く人、黄色い棒は1000人以上の大企業や官公庁で働く人を表している。それぞれの棒の下の数字は実数、その下の数字は調査年である。

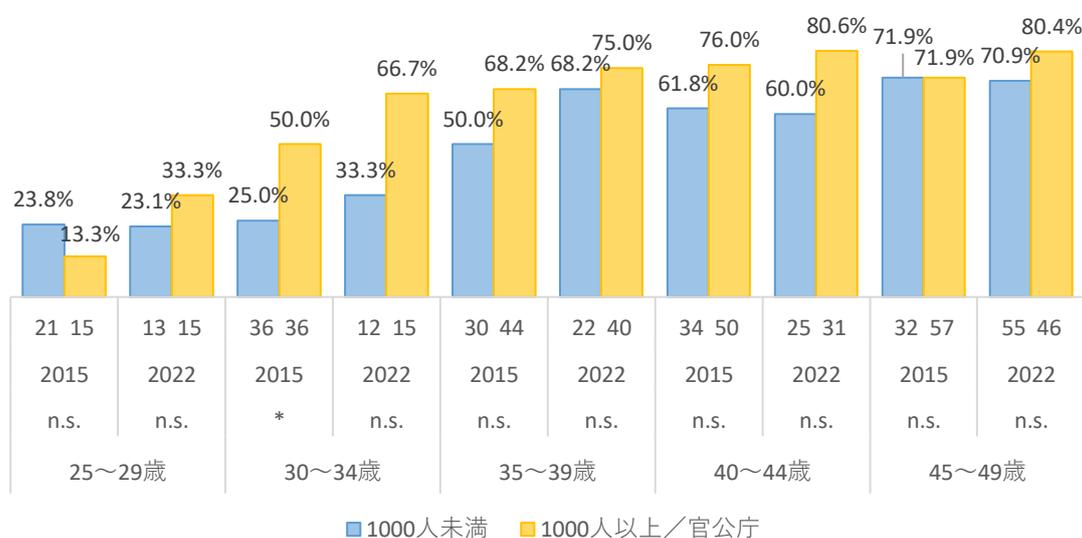


図5-7 就業先規模と子どもの有無（男性）

たとえば図の一番左にある25~29歳の男性についてみてみると、2015年には中小企業で働く人の23.8%（21人）に子どもがおり（青い棒）、大企業や官公庁に勤める人の13.3%（15人）に子どもがいた（黄色い棒）。統計的な有意差は確認できないところが多いものの、どちらの調査時も、ほとんどの年齢層で黄色い棒のほうが長い。つまり同じ年齢層ならば大企業や官公庁に勤める人のほうが子どもをもちやすい傾向にあり、就業先のもたらず経済的な安定が有利に働いていることがわかる。

とくに差が大きいのは30歳代前半である。この年代では2015年と2022年のどちらも、就業先の規模によって子どもの有無に倍近い開きがある。この差が生涯にわたって続くものなのかどうかは、同じ対象者にたずねるパネル調査ではないため今回の調査からはわからない。ただ正確な比較はできないものの、たとえば2015年に30歳だった人は2022年には37歳になっていることから、右隣の年齢階級と比べてみることで、この差が変化するのかわかるとはうかがうことはできる。

2015年の調査時に30～34歳だった男性は、中小企業に勤める人では子どもがいる割合は25%（36人）であり、大企業や官公庁の人の50%（36人）と比べると半分しか子どもをもっていないかった。さてこの年代の人々は、2022年には35～39歳と40～44歳の層にまたがる。35～39歳の層をみてみると、2022年には中小企業につとめる人の68.2%（22人）が子どもをもっており、同じく40～44歳では、中小企業につとめる人の60.0%（25人）が子どもをもっている。経済力による子どもをもつチャンスの格差は、年齢を重ねるにつれてある程度まで縮小してゆくのかかもしれない。少産化・晩産化は、高学歴化や女性の社会進出だけでなく、男性の経済的不安も要因だった可能性がある。

4-3 就業先規模と未婚率

婚外子の少ない日本では、子どもをもつかどうかは結婚しているかどうか大きく左右される。このため男性について従業先の規模と未婚率との関係を確認してみたものが図5-8である。前回調査で顕著だった、従業先の規模と未婚率との関係が2022年調査では弱まっていることがわかる。たとえば30～34歳の人に注目すると、2015年には中小企業に勤める人の63.9%が未婚だったのに対し、大企業または官公庁に勤める人で未婚の人は27.8%にすぎず、実に二倍以上の開きがあった。ところが2022年度調査ではこの差はわずか5%にまで縮小している。2022年もほとんどのカテゴリーで中小企業のほうが大企業や官公庁より未婚率が高いことから、今も従業先の規模が結婚のしやすさに結びついている傾向はうかがえるが、その結びつきは弱まったと考えてもよいであろう。

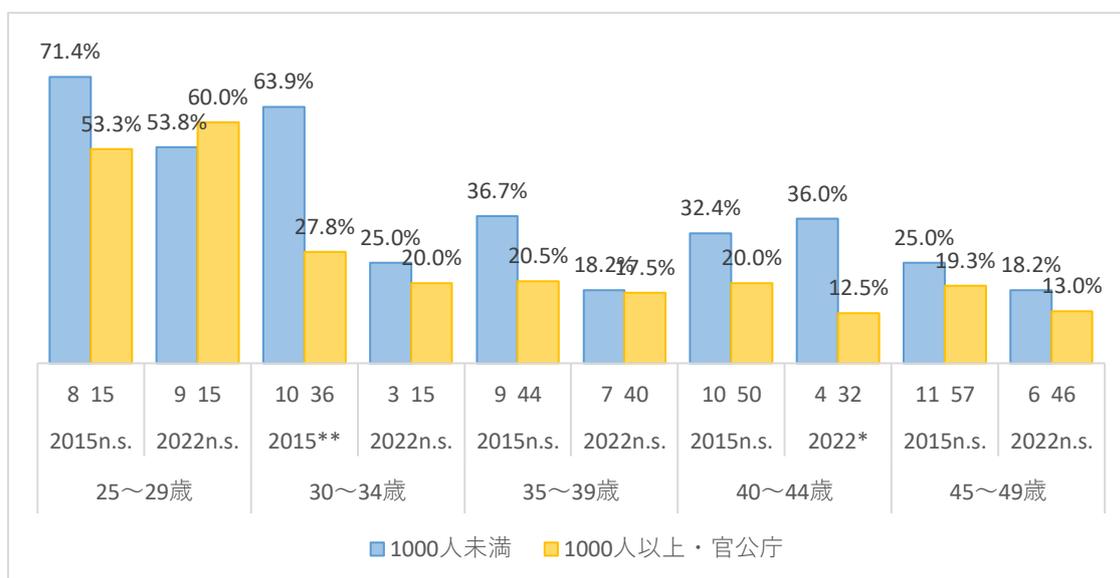


図5-8 就業先規模と未婚率（男性）

4-4 就業状態と結婚

とくに若年層において、未婚化の傾向は単純ではない動きを示していた。どのようなカッ

プルが増えたのかを検討してみよう。表 5-3 に、40 歳未満の対象者について男女別に本人と配偶者の就業状態を示した。

前回と今回で変化があったのはフルタイムの男性とその配偶者であった。フルタイム男性の場合、前回調査では 4 割が未婚であり、既婚の場合は配偶者（妻）が無職すなわち専業主婦であるケースが多かった。ところが今回は全カテゴリーにほぼ均等に四分しており、そのなかでも夫婦ともフルタイムのカップルが最大多数を占めている。おもに夫の収入が家計を支える「男性稼ぎ主モデル」は退潮しつつあるようだ。

この理由はいくつか考えられるが、一つには女性が結婚してからも仕事を続けやすい環境が整ってきたことがあるだろう。ただしもう一つ、妻が非正規雇用のケースも増加していることを考えると、男性ひとりの収入で家計を維持することが難しいという側面もあるように思われる。男性の稼ぎは大前提とされたうえで、妻も働くという選択がなされているということである。

このことを示すように、非正規や無職の男性は 2022 年調査でも結婚していない人が圧倒的多数であり、相変わらず男性はフルタイムの仕事につかない限り結婚をのぞめない状況にある。「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業のうち、「男は仕事」という男性ジェンダーの部分はびくともしていないのである。男性の給与が低迷するなかで、低賃金の職種を中心に女性のフルタイム雇用が拡大した結果、「男も女も仕事と家庭」という形で、男女とも労働市場へ参加していることが家族を形成するための要件になってきたのかもしれない。

5 小括（家族・親族関係）

これまでみてきたところでは、基本的な家族構成はこの 7 年間でほとんど変化していないようである。2015 年調査では家族の縮小が指摘されていた（丹辺ほか 2020）が、今回調査ではそのような趨勢は確認できなかった。親族関係については確かに規模が縮小していたが、一方で定住化も進んでおり、決して親族関係が衰退したわけではない。

他方、婚姻や出産など家族形成に関しては興味深い変化があった。女性の労働市場への参入、とりわけフルタイム化が進み、夫婦ともにフルタイムで働くカップルが増えた。ただし変化が見られたのはフルタイム男性の配偶者の職業だけであったことから考えても、依然として男性に経済力があることは結婚の前提となっている。

表 5-3 本人と配偶者の就業状態

			配偶者あり		配偶者なし		合計	
			フルタイム	非正規	無職			
男性	フルタイム	2015	27	23	44	61	155 *	
			17.4%	14.8%	28.4%	39.4%	100.0%	
		2022	29	26	25	28	108	
			26.9%	24.1%	23.1%	25.9%	100.0%	
		非正規	2015	1	0		9	10
				10.0%	0.0%		90.0%	100.0%
	2022	0	1		3	4		
		0.0%	25.0%		75.0%	100.0%		
	無職	2015	0		1	8	9	
			0.0%		11.1%	88.9%	100.0%	
	2022	1		0	3	4		
		25.0%		0.0%	75.0%	100.0%		
合計	2015	28	23	45	78	174		
		16.1%	13.2%	25.9%	44.8%	100.0%		
2022	30	27	25	34	116			
	25.9%	23.3%	21.6%	29.3%	100.0%			
女性	フルタイム	2015	17			13	30	
			56.7%			43.3%	100.0%	
		2022	23			19	42	
			54.8%			45.2%	100.0%	
		非正規	2015	18	1		3	22
				81.8%	4.5%		13.6%	100.0%
	2022	13	0		4	17		
		76.5%	0.0%		23.5%	100.0%		
	無職	2015	32			6	38	
			84.2%			15.8%	100.0%	
	2022	15			2	17		
		88.2%			11.8%	100.0%		
合計	2015	67	1		22	90		
		74.4%	1.1%		24.4%	100.0%		
2022	51	0		25	76			
	67.1%	0.0%		32.9%	100.0%			

6 高齢者の社会関係

つづいて、高齢者の社会関係についても確認してみよう。社会関係の変化は、実態と認知の両面から接近を試みたい。実態については近所づきあいと友人との交際から、また認知の面での主観的影響は、生活満足度とくらしの上での困りごとについての回答から検討する。

6-1 社会関係の変化① 近所づきあい

高齢者の社会関係の変化からみてゆこう。近所づきあいに変化があったかどうかを確認するため、図 5-9 は近所づきあいの程度をたずねた各項目について、男女別に 2015 年と 2022 年を比較したものである。各項目に「あてはまる」と回答した割合を示した。たとえば 2015 年には「お茶や食事をいっしょにする」の項目に「あてはまる」と回答した男性が 26.4%いたのに対し、2022 年では 15.5%であったことを示している。

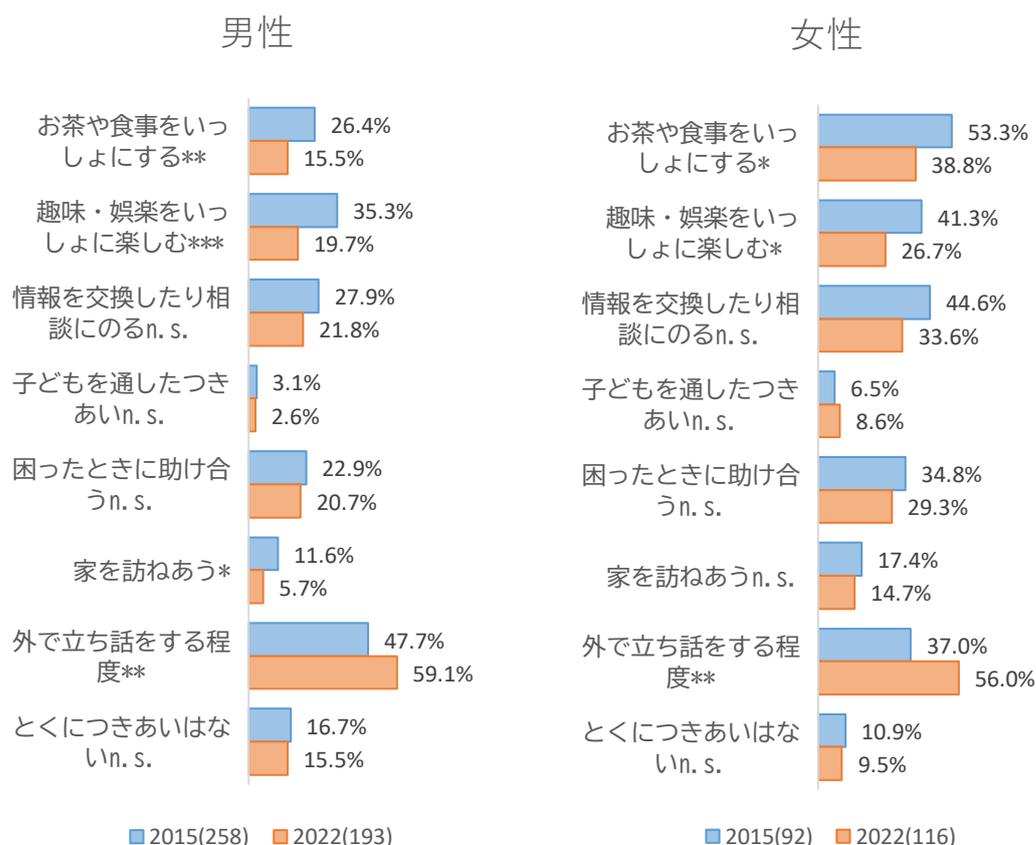


図 5-9 近所づきあい

ほとんどの項目で前回よりも数値が小さくなっていることから、近所づきあいの縮小がうかがえる。ただし統計的な有意差としては「お茶や食事をいっしょにする」「趣味・娯楽をいっしょに楽しむ」「家を訪ねあう（男性のみ）」と「外で立ち話をする程度」などであった。いわゆる同伴行動と呼ばれるつきあいが減少し、立ち話程度のコミュニケーションとなったことがわかる。これはコロナ禍の行動変容によるものであろう。

そして男女とも「情報を交換したり相談にのる」「困ったときに助け合う」など、サポート面での項目には有意な変化がみられなかった。このことから、近隣関係のあり方が脅かされるような変化ではなかったとみられる。またコロナ禍によって孤立者の増加が懸念され

ることもあったが、「とくにつきあいはない」という人の割合は前回と今回とでほとんど変わっておらず、近隣での孤立者は増えても減ってもいない。つまり高齢者の近所づきあいに関しては、質的に大きな変化はなかったと考えることができる。

6-2 社会関係の変化② 友人交際

それでは友人との交際はどうかだろうか。図 5-10 は、「お茶や食事を楽しむ友人」の数を男女別に比較したものである。

統計的に有意であったのは女性のみだが、いずれも目につくのは、友人数「10人以上」の割合が男女とも大きく減少したことだろう。男性では 12.0%から 4.7%、女性では 14.0%から 2.6%と、3分の1以下になっている。そのぶん他のカテゴリーが少しずつ増えた。また女性では友人のいない0人（いない）の割合が若干増加している。

どうやら全体的に友人交際は縮小したといえそうである。とくに多くの友人をもつ人が少なくなった。そして女性に関しては、友人をもたない人の増加が懸念される結果となった。

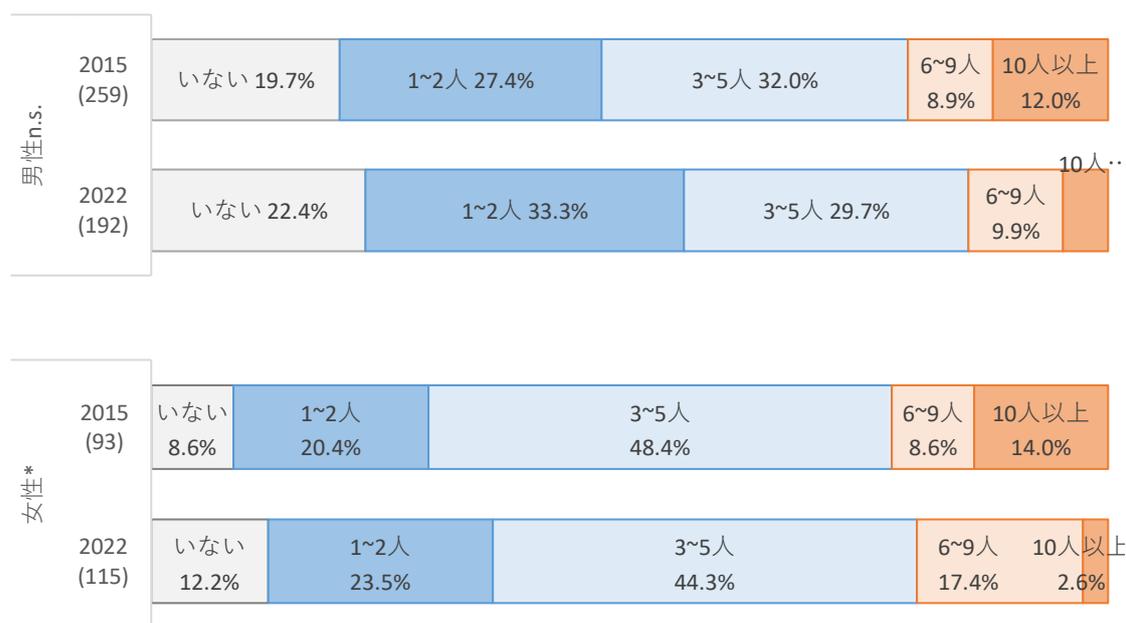


図 5-10 友人交際

6-3 主観的变化① 生活満足度

続いて主観的指標を検討する。はじめに生活満足度の各設問を比較してみよう。「全体的」「家族との関係」「友人との関係」「地域との関係」「健康面」という5つの項目について現在どのくらい満足しているかを、「満足している」から「不満である」までの4件法でたずねた質問である。

図 5-11 に生活満足度の 2 時点比較を示した。男女ともすべての項目で、2 時点間で有意な差は認められなかった。他者との関係だけでなく健康面も含めて、生活満足度は変化していないといつてよい。

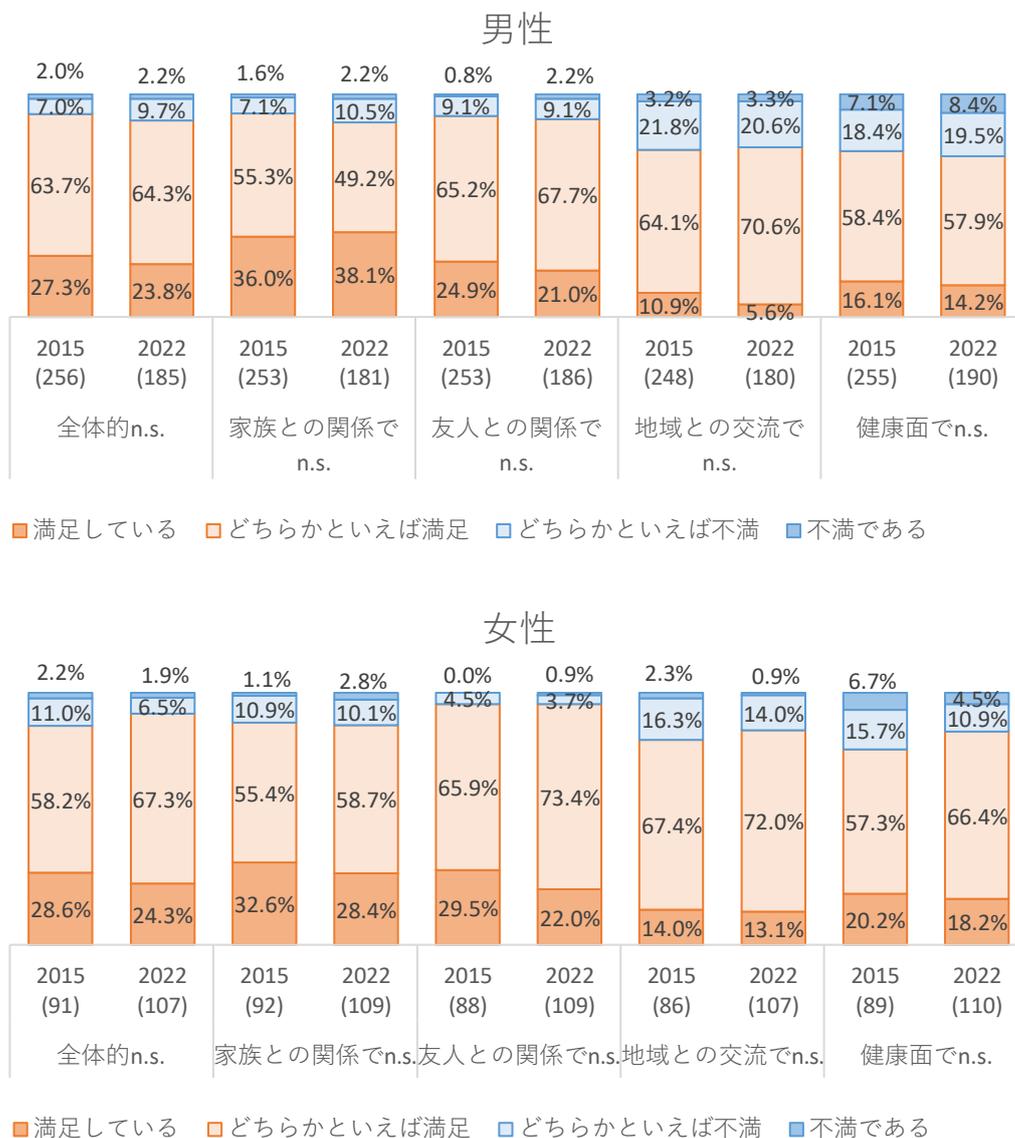


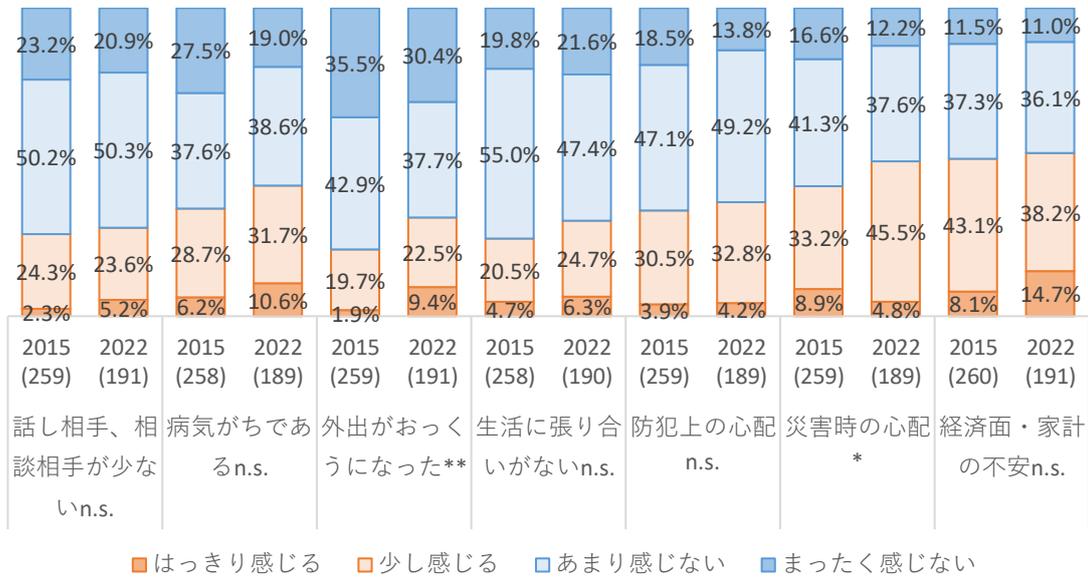
図 5-11 生活満足度

6-4 主観的变化② 暮らしの上での困りごと

最後にもう一つの主観的評価である、暮らしの上での困りごとについて確認してみたい。「話し相手、相談相手が少ない」「病気がちである」「外出がおっくうになった」「生活に張り合いがない」「防犯上の心配」「災害時の心配」「経済面・家計の不安」の 7 つの項目に、「はっきり感じる」から「まったく感じない」までの 4 件法で答えてもらった回答を、男女

別に前回調査と今回調査で比較してみる。

男性



女性

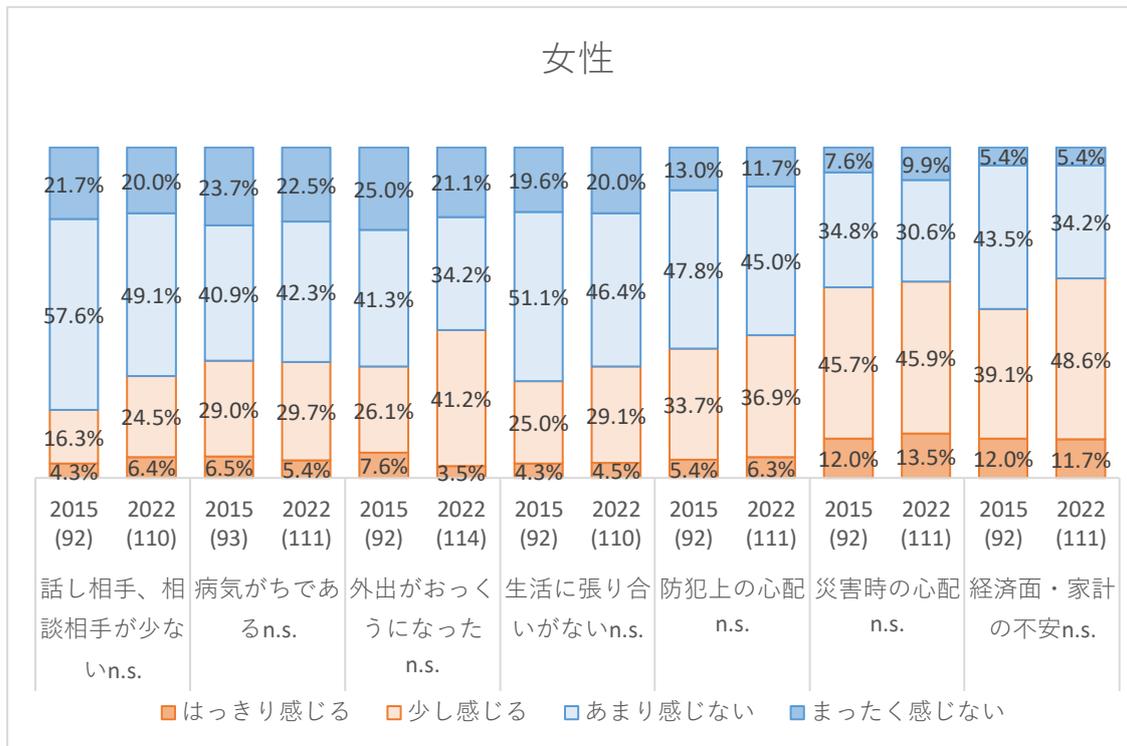


図 5-12 暮らしの上での困りごと

男性では「外出がおっくうになった」($\chi^2=14.09$)「災害時の心配」($\chi^2=8.74$)の2項目

に変化がみられた。外出については、おっくうに感じる人が増えたという変化である。さて2022年の調査では2015年調査に比べて70歳代の割合が高く、回答者の年齢層が上がったことにより外出をおっくうに感じる人の割合が増えた可能性もある。このため60歳代と70歳代とに分けて分析を行ったところ、いずれの年齢層でも外出をおっくうに感じる人の割合が増加していた。男性は外出に対する心理的障壁が高くなってしまったようである。他方、「災害時の心配」については、年代別に比較すると2時点の間で統計的に有意な差は観察されなかった。

7 小括（高齢者の社会関係）

本章の後半は高齢者の社会関係についてみてきた。実態の面で近所づきあいと友人との交際から確認してみたところ、近所づきあいではお茶や食事に出かけるなどの同伴行動が減り、近所での立ち話が増えていたが、サポート関係には変化がなかった。友人づきあいは10人以上の友人をもつ人の割合が減り、1~2人や6~9人が増えた。ただし近所づきあいや友人交際も、孤立者の割合はほとんど変わっていない。

また認知の面では、生活満足度と、くらしの上での困りごとの2面から検討を行った。生活満足度に変化はみられず、くらしの上での困りごとは、男性において「外出をおっくうに感じる」「災害時の不安」などに変化がみられた。とくに男性が外出に対する心理的ハードルを感じるようになったようだ。

総じて、2015年と2022年の7年間で、高齢者の社会関係に大きな変化は見られなかったといっていよい。ただしそのような中で、コロナ禍の影響とおもえる変化もいくつかあった。たとえば近所の人と食事に出かけたり趣味を楽しんだりするなどの同伴行動が減り、近所での立ち話が増えるという、ライトな方向への社会的接触の変化である。また男性では外出そのものをおっくうだと感じる人の割合も増加した。これらを考え合わせると、決して社会関係が変質したといえるような変化ではないものの、若干ながら社会関係の維持に消極的な人が増えてきたといえなくもない。そのような意味で引き続き注意すべき趨勢であると考えることはできよう。

8 まとめ

本章では親族関係の変化と、高齢者の社会関係の変化を検討してきた。はじめに述べたように、変わった部分と変わらなかった部分とがある。家族の形態については、定住化の傾向が強まった以外は、家族構成に大きな変化はなかった。しかし家族形成の面では、結婚に際して男性の就業先の規模がもつ影響力が弱まり、フルタイム同士のカップルが増えるなど、女性の労働力の拡大を背景とした変化がみられた。高齢社会については、社会関係が若干縮小した様子がうかがえるものの、質的な変化があったとまではないようであった。

まとめていうと、家族は「見た目は変わらず中身が変わった」という変化であり、高齢者

の社会関係は「中身は変わらず見た目が変わった」という変化だったといえよう。とくに家族形成に関する変化は、未婚化の傾向に歯止めをかけるかもしれない可能性を感じさせるものであった。この点のより詳細な確認を今後の課題としたい。

文献

丹辺宣彦・中村麻里・山口博史編，2020，『変貌する豊田—グローバル化と社会の変化に直面するクルマのまち』東信堂.

第6章 国際化・多文化共生とまちづくり

— 外国人住民との付き合いの変化に注目して—

Song Gi Jung

1 はじめに

「豊田市外国人データ集(2022)」によると豊田市の外国人人口は全人口422,330人(令和2年国政調査)のうち18,935人(4.48%)で、全国18位(法務部統計令和4年6月基準)と高い比率を示している。増加し続け、2019年は18,749人で達した外国人人口は、2020年新型コロナウイルスの影響で外国人の新規入国が制限され2021年には17,445人まで減少した。しかし、最近はまだ増加に転じ、2022年現在はコロナ直前の人口を近づいている。本章では豊田市の国際化傾向と日本人住民と外国人との関係について2015年の調査と比較しつつ、また質的調査の結果を照らし合わせながら検討していく。

2 外国人住民の概要と変化

2022年10月基準、豊田市の外国人のうち、最も多いのはブラジル(36.3%)、ベトナム(15.6%)、中国(11.8%)、フィリピン(11.7%)、韓国・朝鮮(5.4%)の順である。推移を見ると、ブラジル・ペルーなどの日系南米人は横ばい、中国と韓国・朝鮮は減少、ベトナム・インドネシアは急増していることが分かる。2015年でもベトナム・インドネシアは在留資格のうち特定活動と技能実習制度と関連し増加傾向にあったが、ベトナムの場合は2015年の575人に比べ、さらに2,876人まで急増し、豊田市の外国人人口2位まで上がっている(図6-1)。

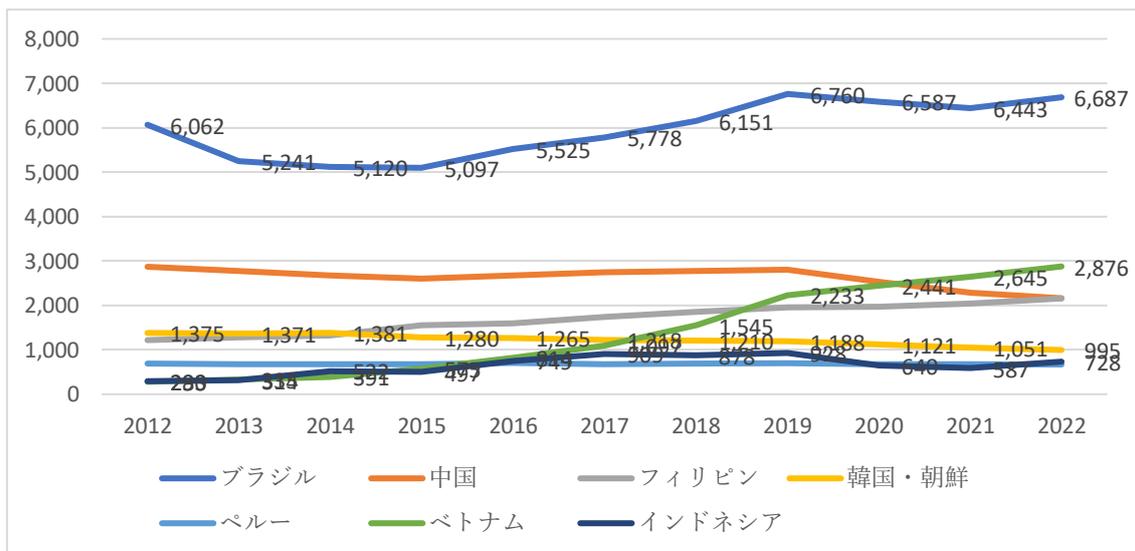


図6-1 国籍別豊田市居住外国人人口の推移

「豊田市外国人データ集」豊田市企画政策部国際課(2022)をもとに筆者作成

このような変化を在留資格の詳細から見ると（表6-1）、ブラジル、フィリピン、中国は在留資格のうち永住者（35.8%）と定住者（21.4%）の資格を主に持っており、在留資格のうちでも一番高い割合を占めている。続いて、技能実習2号ロ・1号ロをはじめとする技能実習の資格は全部足した場合1,962人（10.67%）で、その中でも2019年度に新設された特定技能1号資格も496人に達しているなど、毎年増加していることが見てとれる。人口が増加しているベトナムとインドネシアをはじめ、タイやミャンマーなどがこの資格を主に所持している。一方、特別永住者のほとんどを占めている韓国・朝鮮は2015年（9.3%）に比べて減少し、特にこの10年間の推移を見ると毎年減少している。

表6-1 国籍別・在留資格別外国人数

国籍	永住者	定住者	技術・人文・国際	日本人配偶者	家族滞在	特別永住者	技能実習2号ロ	技能実習1号ロ	特定技能1号	永住者配偶者	その他	総数
ブラジル	3,237	2,772	3	492	2	0	0	0	0	169	12	6,687
ベトナム	96	14	771	28	382	0	427	353	353	5	485	2,876
中国	1,262	112	148	118	138	0	80	12	12	62	198	2,161
フィリピン	972	714	45	181	30	0	22	12	12	62	87	2,156
韓国・朝鮮	99	3	45	18	9	814	0	0	0	0	7	995
インドネシア	77	58	45	14	38	0	68	154	55	11	208	728
ペルー	421	183	0	17	0	0	0	0	0	47	1	669
ネパール	94	24	83	18	164	0	0	3	3	29	138	553
タイ	62	9	28	28	24	0	52	22	22	4	151	415
ミャンマー	19	1	9	5	1	0	46	31	31	3	34	194
その他	251	44	143	71	160	1	17	8	8	51	209	959
総計	6,590	3,934	1,320	990	948	815	712	496	496	443	1,530	18,393

「豊田市企画政策部国際課（2022）」をもとに筆者編集

興味深いのは、ベトナム人の多くが技能実習資格を所持している一方、ベトナム人のうち26.8%は「技術・人文・国際」在留資格を持っていて、該当資格の半数以上を占めていることである。法務部の「在留外国人統計（2022）」からもこの資格を持つベトナム国籍の急増が確認されるが、これは、技能実習制度には3年または5年といった年数の制限があるため、大卒者はこの資格で来日するか、研修期間中日本語と技術を身につけた大卒者の一部は研修後に専門職に移っているためと考えられる。さらに、在留資格の日本人配偶者（5.4%）と家族滞在（5.2%）を見ても、前者はブラジル人（49.7%）、フィリピン（18.3%）が多くこれまでと変化はないが、家族滞在の場合1/3が中国人だった2015年と比べ、今は40.3%をベトナム人が占めており、技術・人文・国際在留資格を持つ人が母国から家族を呼び寄せていると考えられる。このような数値から、これまで存在した豊田市の国際化とブラジル人との強いむすびつきが、少しずつ変化していく可能性も考えられるだろう。

3 外国人との付き合い

本調査では職場関係、居住地域、親族関係とインターネットの4つの文脈で外国人の友人が何人いるかを尋ねた。そのうち外国人友人が1人以上いる比率は25.3%で2015年の22.9%より高くなっている。外国人の人口が前回より(3.5%)増加したことを考えると自然な変化だが、豊田市の外国人人口の多さを考えると依然その割合は少ないと言える。

まず、どこで外国人友人を持つかという文脈別で検討すると、職場関係(16.3%)、住んでいる地域(7.9%)、インターネット上(5.7%)、親族関係(5%)の順になっており、前回と比べて職場関係とインターネット上での割合が増加した中で、住んでいる地域では減少したことが分かる(P<.001)(図6-2)。

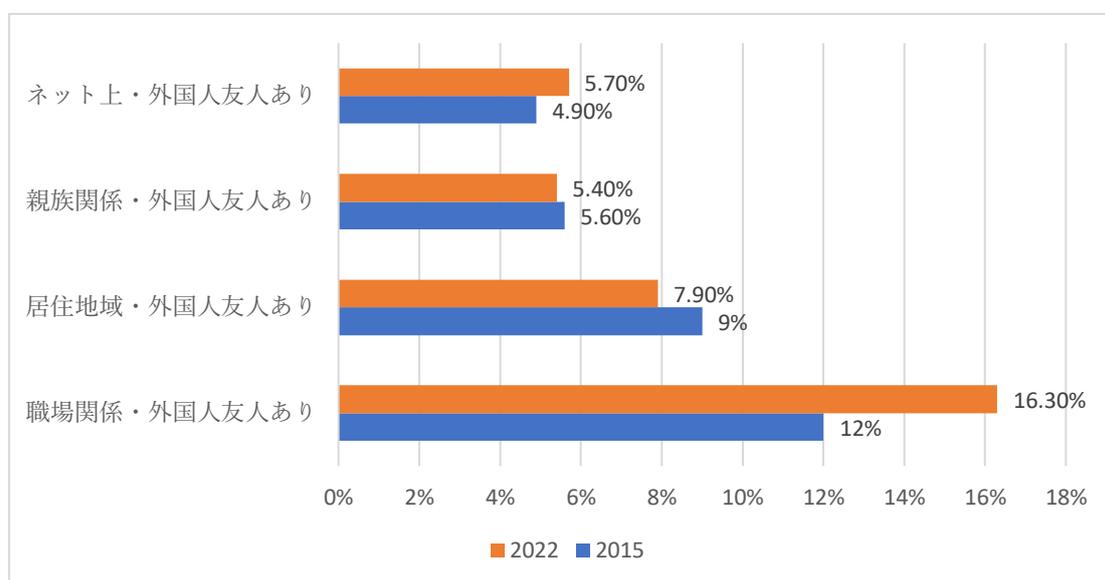


図6-2 社会的文脈別に見た外国人友人がいる比率(調査年次で比較)

続いて、外国人友人の有無と性別との関係を検討してみると(図6-3)、2015年には親族関係を除いて全ての社会的文脈で有意差があったが、今回は職場でのみ男性(18.4%)が女性(12.8%)より外国人友人を持つ割合が有意に高い(p=.005)。他方2015年の調査では住んでいる地域において女性が外国人友人を持つ割合が有意に高かったのに対して、今回はやや女性が低い有意差がなくなった(図6-4)。居住地域において女性の外国人友人が多い理由は、専業主婦として地域にいる時間が多いため自然に地域での交流が多いためと考えられるが、今回の調査では働いていない女性が29.8%と大幅に減少し、フルタイムで働いている割合が20.1%から33.0%と増加した。このような変化が住んでいる地域で女性が外国人友人を持つ割合の減少に反映されたと考えられる。

さらに、子どもの有無と外国人友人の有無の関係をみると、2015年の調査では子どもを持つことが居住地域で外国人友人を持つことを有意に増やしたが、今回の調査では有意差は

なくなり、職場関係では子どもがいない人で外国人友人を多く持つ傾向が見られた(図6-4)。全体的に地域で外国人友人を持つ割合が少なくなったこと(図6-2)や地域で女性の交流が少なくなった(図6-3)ためであろう。

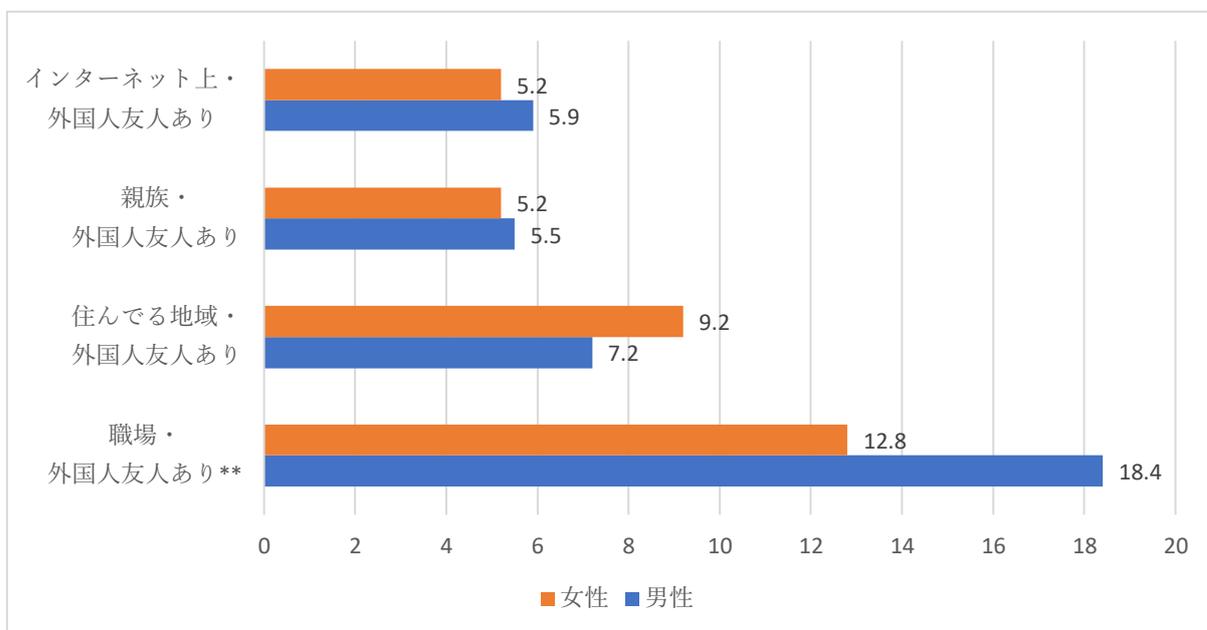


図6-3 性別・文脈別に見た外国人友人の分布

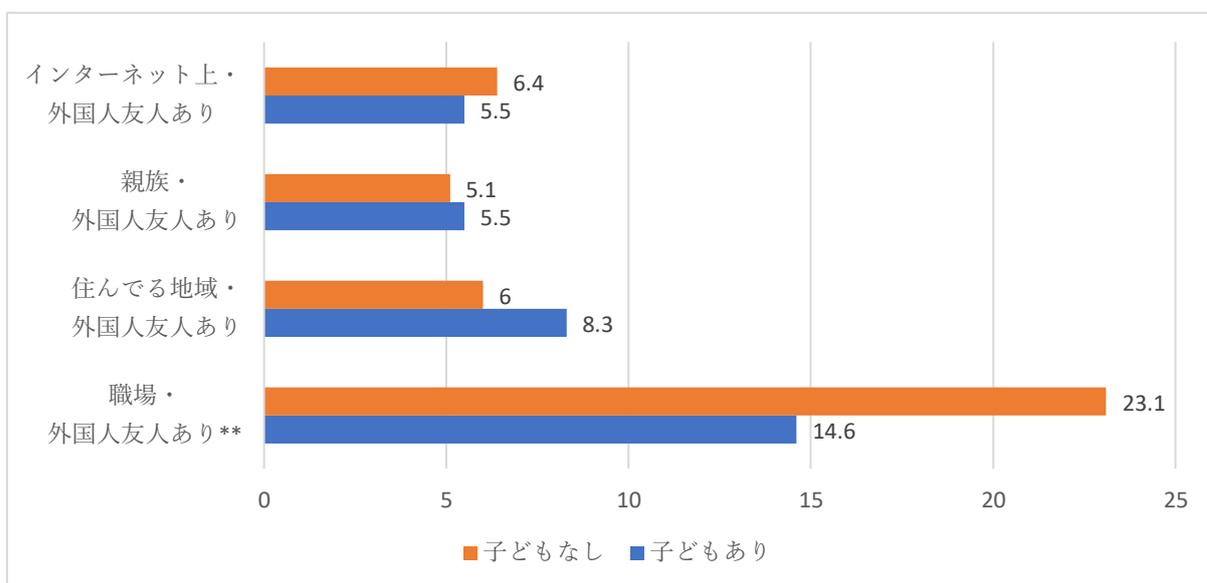


図6-4 子どもの有無による外国人友人が(一人以上)いる割合

しかし、女性の参加比率が高い子ども会・PTA参加(男性22.5%、女性53.0%、 $p < .001$)と外国人友人を持つ傾向の関係をみると、参加したことがある人が、住んでいる地域で外国人友

人を多く持つ傾向があり（図6-5）、実際参加する場合の付き合いには変わりがないように見える。

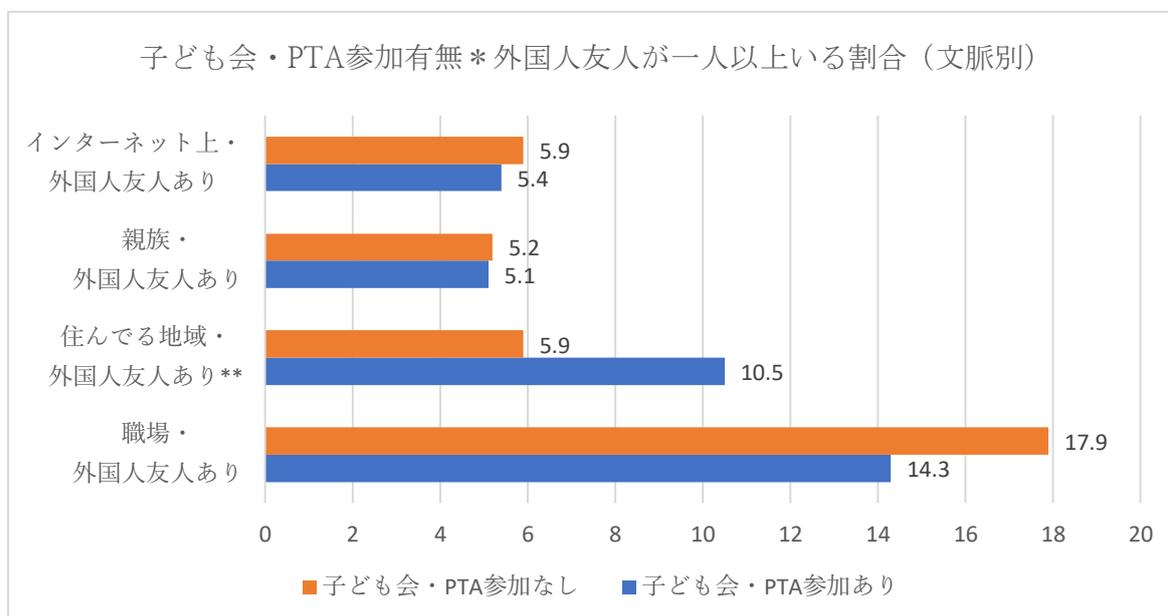


図6-5 子ども会・PTA参加の有無による外国人友人が(一人以上)いる割合

保見団地に住みながらブラジル人男性と結婚し、二人の子どもたちを日本の小学校に行かせた50代のペルー人女性Jは日本語はできないが、子どもたちが小学校の時PTAに参加し日本人の親と知り合ったことを語っていた。

子どもたちが小学校の時、PTAに参加したことがあるが、日本人の親は私が日本語ができないことが分かったと、簡単な日本語で私とコミュニケーションをとってくれた。そうやって、近所の日本人の親たちと知り合った。

（ペルー人女生 J 氏、2023 年 2 月 23 日、スペイン語翻訳）

このような数値と語りから、PTAや子ども会に参加すると外国人の親と知り合う機会が生じ、特に外国人が多くいる地域の場合はそう言えそうである。

次に、年齢別で検討すると、現役世代の方が外国人の友人を持つ傾向があることが確認できる（図6-6）。特にインターネット上と職場では統計的に有意な差があった。

保見団地に居住している22歳ブラジル人男性Mさんは、日本人の友だちとどこで付き合い合っているかという質問についてこのように語っている。

会社では頑張って日本語を喋ろうとはするけど、日本語が自由ではないから、コミュニケーションができる気がなくて、出かけるほどではなくおしゃべりするぐらい。

一人、私が毎日オンラインでゲームをするからゲームで知り合った日本人がいるが、その人はブラジル人と関わりながらポルトガル語ができるようになったと言っていた。毎日ゲームを一緒にしながらコミュニケーションし、年末には一緒に出かけた。

(ブラジル人男性 T さん、2023 年 2 月 18 日 ポルトガル語翻訳)

一方、有意差はないが住んでいる地域の場合60代の増加がみられ、親族関係にもつ人も少なくない。4節で検討するが、多文化活動・団体に参加する年齢が60代が多いことが反映されているようである。

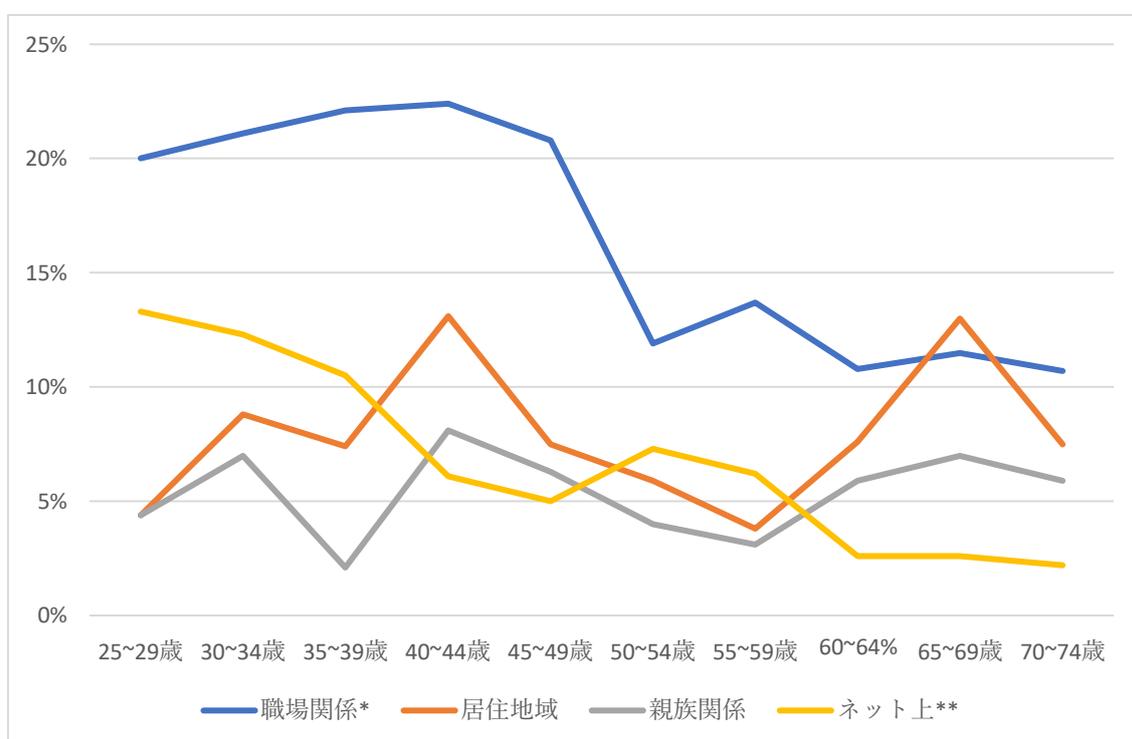


図6-6 年齢別・外国人友人が(一人以上)いる割合

次に、職場関係では、2015年と同様にフルタイムで働く人が明らかに外国人友人を持つ比率が高いが(図6-7)他の文脈では優位な違いはなかった。そして、経済的には恵まれていて(図6-8)高い学歴の人が特に職場とインターネット上で外国人友人を持つ傾向がある一方、居住地に関しては中卒が若干高いようだが(図6-9)これは図6-7でみた、高齢者が地域に外国人友人を持つ割合が若干高いのに関連しているだろう。職場においては、中卒でも外国人友人を持つ割合が比較的高く(20.6%)、大卒(21.4%)と同じ程度であったが、豊田市の外国人が製造業工場で働く比率が高いことと関連がありそうである。

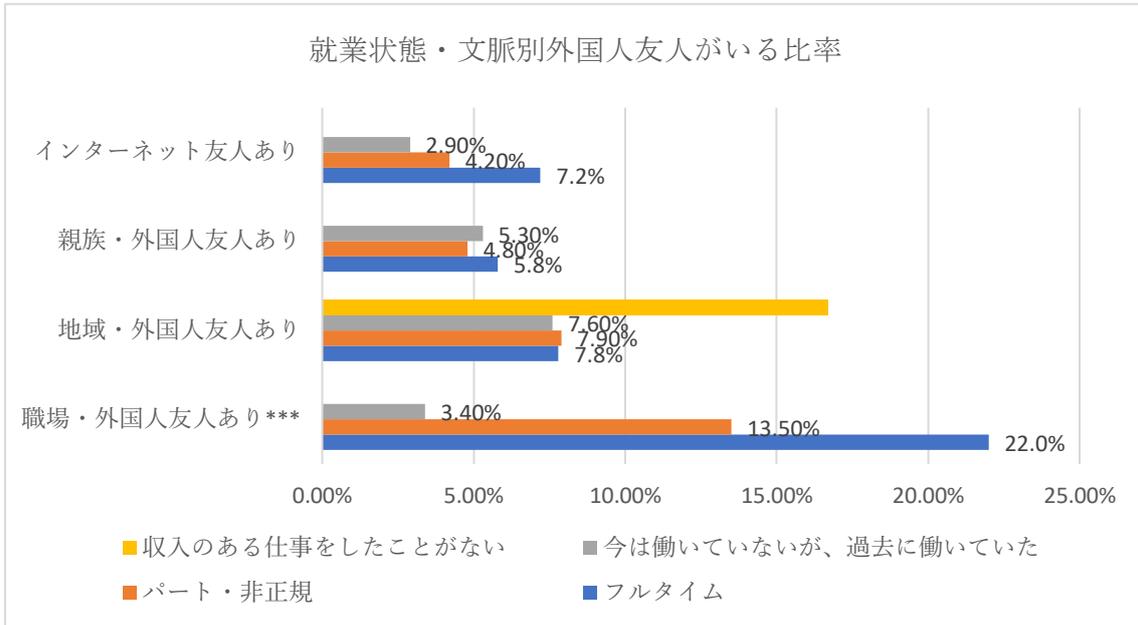


図6-7 就業状態別に見た文脈別外国人友人が(一人以上)いる割合

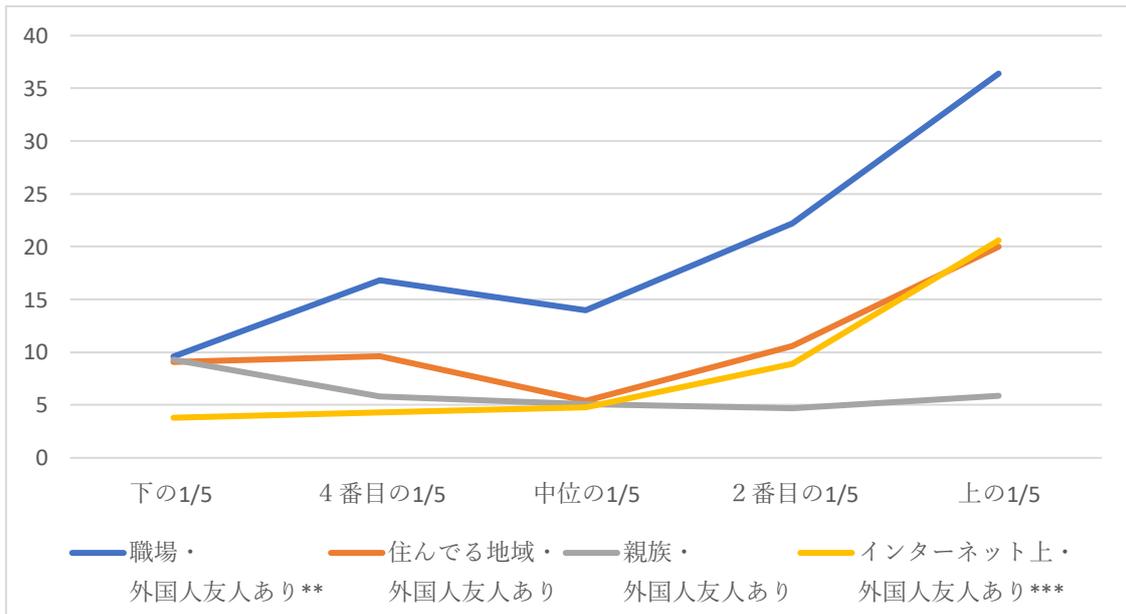


図6-8 経済的階層帰属別に見た文脈別外国人友人が(一人以上)いる割合

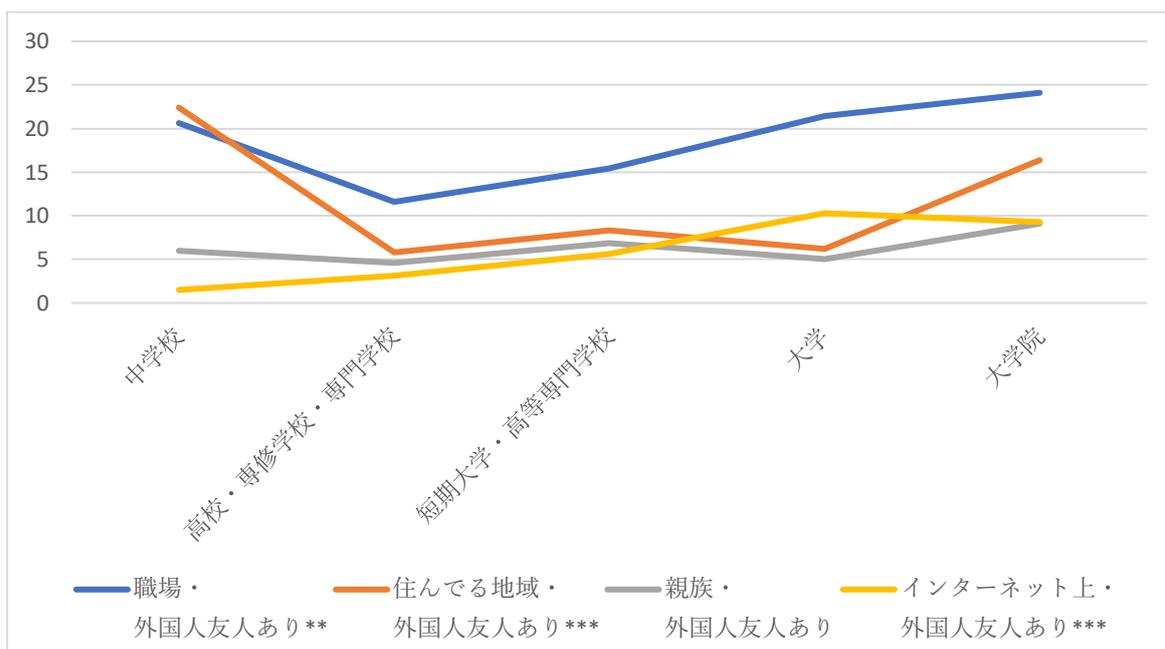


図6-9 学歴別にみた文脈別外国人友人が(一人以上)いる割合

さらに自動車産業の影響を検討してみよう。2015年の調査では、トヨタ自動車、トヨタ関連企業、その他の順で外国人の友人を持つ傾向があった。自動車関連企業が外国人友人を持つ傾向は変わらないが、今回はトヨタの関連企業の職場で特に外国人友人を持つ割合が高くなっていて(図6-10)、サプライヤーの製造現場で働く外国人が多く付き合いが生じやすいためと推測される。

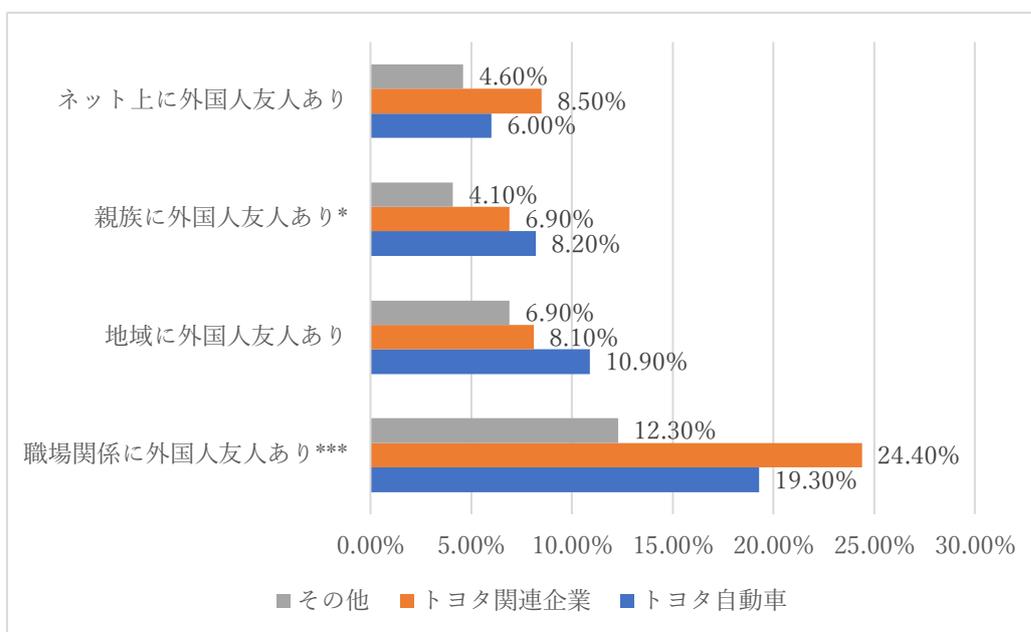


図6-10 勤め先別にみた文脈別外国人友人が(一人以上)いる割合

続いて、一番親しい外国人の国籍を検討すると（図6-11）、2015年調査時と比べてブラジル（15.7%→11.20%）・米国（13.7%→9.4%）・韓国（10.9%→5.2%）は減少、1%もいなかったベトナムが5.2%に増加し、1節でみた人口の増加が反映されている。

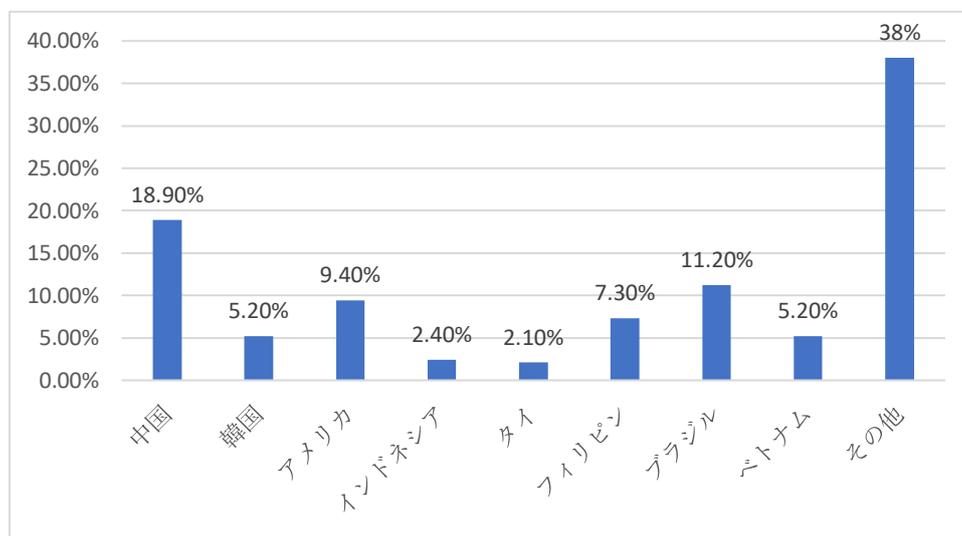


図6-11 一番親しい外国人友人の国籍

続いて外国人友人とどのように付き合っているのかたずねた質問項目をみると、2015年と同様に「情報交換・相談にのる」（46.7%）、「立ち話をする程度」（32.2%）、「お茶や食事をいっしょにする」（27.5%）が多いなかで、「困った時に助け合う」人の割合がかなり増加し、サポート・援助を伴う交流が深まっていることが分かる（図6-12）。これもコロナ禍の影響だと推測される。

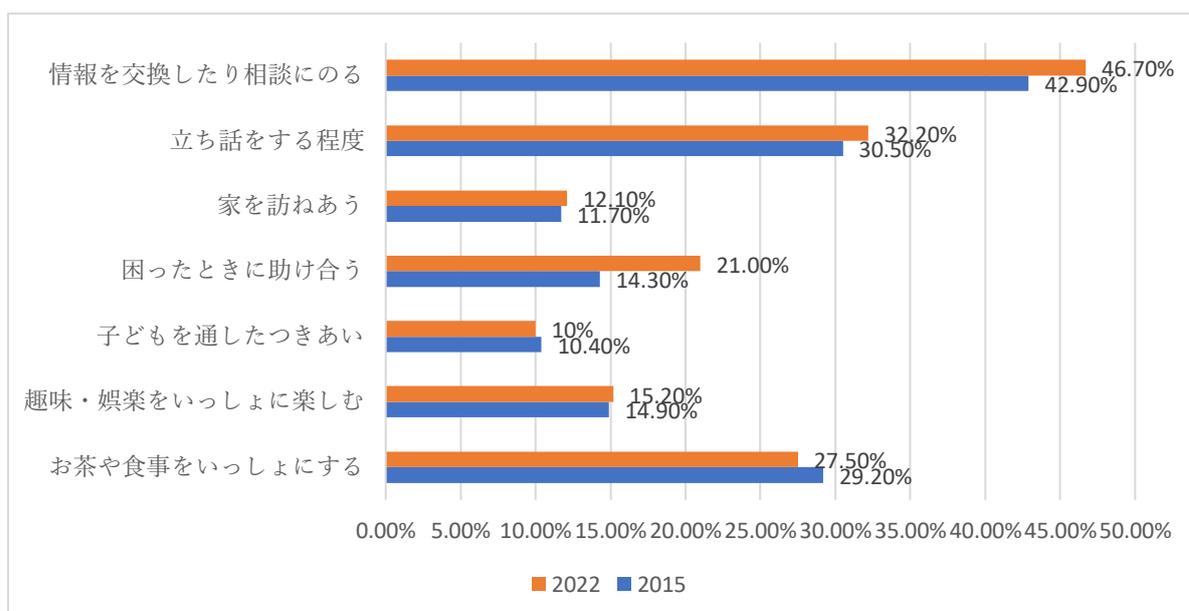


図6-12 一番親しい外国人友人とのつきあい

ここでさらに男女別に付き合いを見ると、女性の方が「子どもを通した付き合い」が有意に高い。また、「家を訪ねあう」、「お茶や食事をいっしょにする」といった比較的深く日常的なつきあいをする割合が有意に高い（図6-13）。女性は日常・親密的な付き合いが多い反面、男性では道具的な付き合いが比較的多いことが分かる。

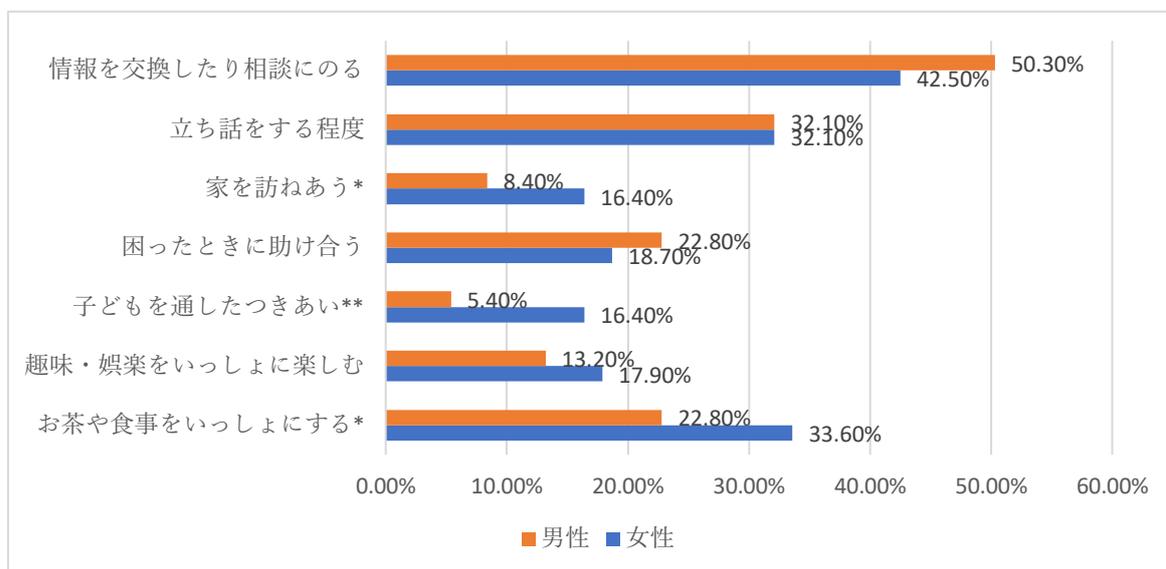


図6-13 性別でみた一番親しい外国人友人との付き合い

4 外国人に対する意識

この節では外国人が地域の文化・社会、政治、経済に参加することがどれほど重要だと思われるかについて検討する。本調査の質問紙では、「地域的な文化交流やまちづくり活動に参加すること」（以下「文化的寛容性」と略す）、「投票権を持ったり議員になったりすること」（以下「政治的寛容性」と略す）、「地域で働いたり事業を営むこと」（以下「経済的寛容性」と略す）について尋ねている。「重要ではない」を1点、「どちらともいえない」を2点、「どちらかといえば重要」を3点、「特に重要」を4点というスケールで設定した結果、文化的寛容性は2.83→2.82点、経済的寛容性は2.47→2.65点、政治的寛容性は2.08→2.21点で、文化的寛容性以外は増加している。

寛容性との関係について分析のポイントはジェンダー、文脈別外国人友人の有無、学歴、経済帰属意識などが考えられるが、男女別では有意差がなかった。しかし、外国人友人の有無をみると結果が異なる（図6-14）。政治的寛容性以外では外国人友人を持つ層がそうではない層より寛容性が高く、文化・経済的寛容度においては中間点2.5点を超えているので全体として排除よりは外国人の参加を重要と考えていることが分かる。特に職場とインターネット上に外国人友人を持つ場合は有意に高く、インターネット上に外国人友人がいると経済的寛容度が3点に達した（ $p=.000$ ）。これは職場とインターネット上に友人を持つ割合が増加したことも反映しているだろう。ただ、職場においては外国人友人を持たない層が持

つ層よりわずかではあるが政治的寛容性が有意に高くなっている。ただし、政治的寛容性は全ての文脈において中間点2.5点より低く、他に比べて排除傾向が少し高いと言えるだろう。

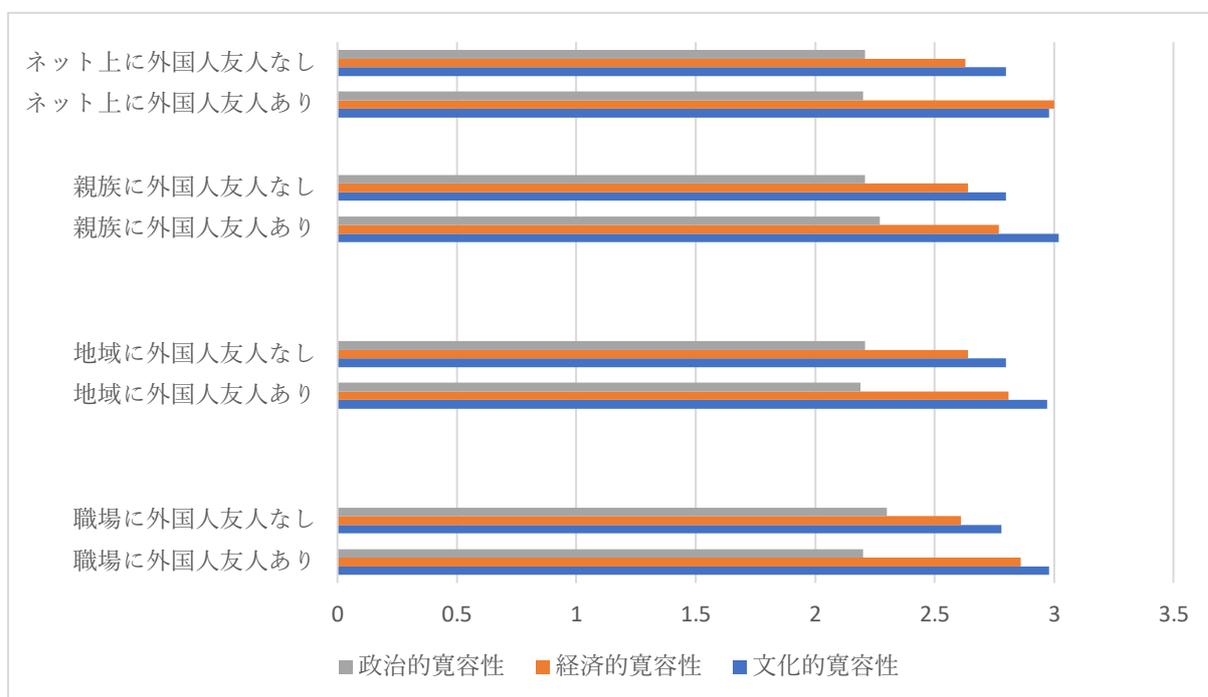


図6-14 外国人友人の有無別にみた外国人への寛容性の平均値の比較

さらに、年齢別に見ると2015年は全ての項目において年齢はマイナスの関連が見られたが、今回は経済的寛容性でのみマイナスの関連が見られる($r=-.158, p<.001$) (図6-15)。これは現役世代ほど職場関係における外国人友人をたくさん持っていることを反映しているためと考えられる。

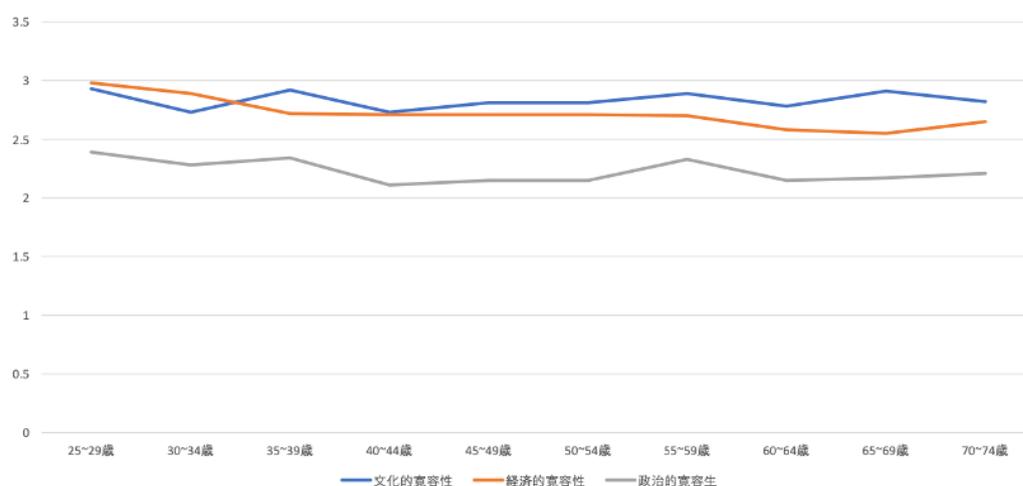


図6-15 年齢別にみた外国人への寛容性の平均値

5 多文化共生・国際交流活動への参加

多文化共生・国際交流活動に参加した経験がある回答者は7.3%(N=84)で、この一年間に参加した割合は1.0%(N=12)、活動に満足している回答者は4.3%(N=50)である。これは回答者のなかで外国人の友人を持つ層が占める比率25.3%より低い。多文化共生・国際交流活動へ参加したことがある人は前節でみた文化・経済・政治的寛容性が高くなる傾向がある(2015年には経済的寛容性に関しては有意なものではなかった)が、この1年間の活動に限った場合は有意差がみられなくなる。

年齢と活動の経験率の関係を検討すると、20代が30代より多く、50代後半と60代後半の回答者がより多くこの活動に参加する傾向が伺える。最近の一年間の参加を見ると50代は急激に下がり活動を控えていることが窺われるが、40代と60代後半では多くなっている(図6-16)。

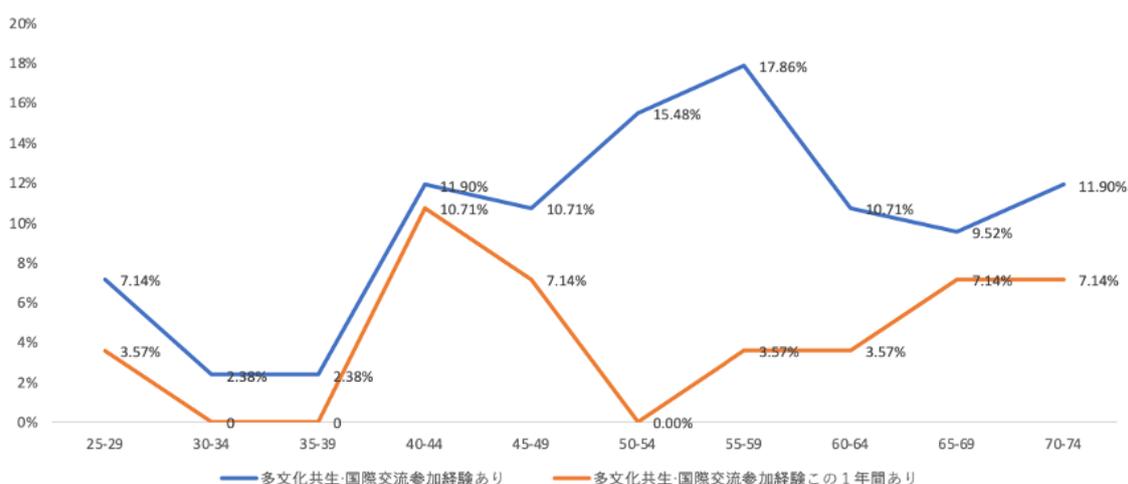


図6-16 年齢と多文化共生・国際交流活動への参加経験との関係

次に、性別・経済的階層帰属の水準でみると有意差はなかった。学歴についてみると、高い方の3カテゴリーで経験率がやや高く($p=.045$)、高卒レベルのみが低く、中卒では比較的多い(図6-17)。

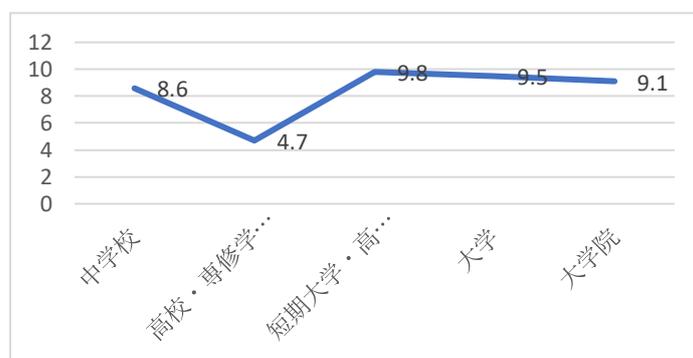


図6-17 学歴と多文化共生・国際交流活動への参加経験との関係

外国人友人を持つこととの関係を検討すると、多文化共生活動に参加経験がある7.3%の回答者のうち、49%が外国人友人を持つ。これを社会的文脈別にみると、職場に外国人友人をもつ人の12.6%、地域にもつ人の18.2%、親族では21.3%・ネット上では21.9%が経験していて、それぞれもたない人に対して大きな差がついていた（図6-18）。

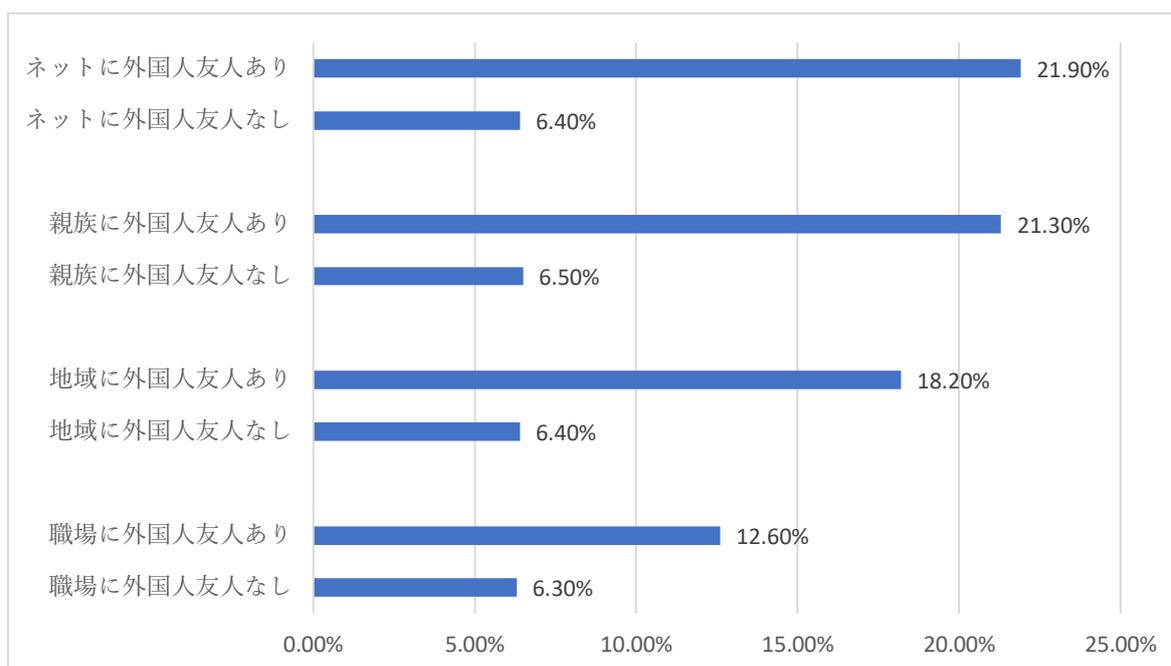


図6-18 外国人友人有無別にみた多文化共生・国際交流活動を経験した比率

2015年も同様であったが、外国人友人を持つ方がそうではないより多文化共生活動に参加する傾向が見られる。保見団地で外国人児童の学習支援を行なっている大学生の団体の事例では、ブラジル人の友人から声をかけられて活動を始めた人が、また外国人と関わらない他の友だちを誘うなど、活動を始めた時点で外国人友人がいる場合／いない場合両方のケースがみられた。

学校が保見だったから外国人の同級生が多かったです。なのでこの活動も違和感なく始めることができました。

（22歳大学生 Dさん 2022年3月）

大学を卒業すると学校の保健室で働きますが、就職先の学校に外国人の子どもが多いそうです。でも、外国人の子どもを接したことがないので、Dから話を聞いてここでボランティアをしながら経験をしてみたいと思いました。

(22 歳大学生 E さん 2022 年 3 月)

活動に参加して外国人友人ができたのか、それとも外国人友人を持つから活動に参加したかという因果関係は両方ありえて区別しにくいですが、活動をきっかけに外国人との交友関係が生まれているケースもあるようだ。

小括

本章では2015年の調査と比べながら豊田市の国際化・多文化共生の現況を検討した。その結果、職場で外国人友人を持つ割合が増加し、職場での外国人との接触が増えていることが分かった。同時に、女性が居住地域で外国人と持つ付き合いが若干少なくなっており、女性の社会進出が増えている影響も見てとれた。加えて、特に若い世代を中心にインターネット上で外国人と付き合う割合が増加していた。また前回の調査より外国人の社会参加に対する寛容度が全体的に高くなり、特に外国人友人を持つ人ほど寛容度が高いことが分かった。このような傾向は外国人人口が増加するにつれて外国人を構成員として認めていることを意味するのだろうか。コロナ禍の影響で困った時に助け合うというサポートの割合が増えたことなど、外国人住民を支援対象とし社会、集団の構成員として捉える意識・態度も存在すると考えられる。多文化共生活動へ参加において、支援の対象として知り合った外国人と友人になる事例などが具体的な事例だと言えよう。今後更なる外国人人口の増加が見込まれる今後、このような傾向に注目しながら具体的に動向を分析していく必要があるだろう。

文献

豊田市企画政策部国際課, 2022, 「豊田市外国人データ集 (2022年10月) 」, リンク先 <<https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/tokei/kan/1004694/1049411/1049412.html>> (2022年12月22日アクセス).

終章 課題と展望

—ポストコロナのまちづくりに向けて—

丹辺 宣彦

本報告書では、2022年の夏に実施した質問紙調査のデータをもとに、6つの章を通じてコロナ禍の下での豊田市の地域社会の状況について検討してきた。こうした作業によって明らかになった地域づくりの課題はどのようなもので、今後に向けてどのような展望を描けるだろうか。本章ではこの点について整理してみたい。

2009年に初めて実施した調査と比べて前回2015年の調査で明らかになった豊田市における地域課題は、以下の6点であった。1) 雇用の流動化、2) 女性の就労にともなう性別役割の変化、3) 若い世代の未婚化・少子化、と高齢化の進行、4) 地域的紐帯の弱まり、5) 自治会の動員力の低下、とくに女性の参加が消極的になっていること、6) 外国人住民の増加にともなう多文化共生の推進、(丹辺編 2016)。これらはいずれも日本の他地域でも程度の差はあれ進行している事態であり、定住層による地縁型活動が活発だった豊田のまちづくりにとって多くは抑制効果を及ぼす構造的要因であり、一過性のものではなかった。これらに加えて、今回の調査の2年余り前から対面的な活動をつよく制限してきたのがコロナ感染であり、一時は各種の地域活動がほとんど停止直前まで追い込まれてしまったことは記憶に新しいところである。今回の調査でも、活動水準が低下したまま復活していないのではと危ぶまれた。しかし1章、2章で検討したように、前回より参加率が低下しているジャンルでも減少率は2割前後にとどまり、思いのほかダメージを受けていなかったことは意外な結果であった——この程度の減少であれば、コロナ禍がなくても生じると予想できる範囲である。女性のフルタイム雇用が増える一方で定住化はいっそう進み、まちづくりを間接的に支える家族関係・近所づきあいの解体にも一定の歯止めがかかっているようである。

まちづくり参加の担い手について再度振り返ってみよう。図7-1は、過去1年間に10種のまちづくり活動のうち一つ以上に参加していた人の割合を男女別、年齢別でみたものである。かつて男性では年齢とともに高まる傾向がみられたが、ほぼ世代による差がなくなり、女性では若い世代の参加率の方が明らかに高くなっている。これは多くの団体が活動を再開し、より若い世代が中高年層の参加抑制を埋め合わせるかたちで参加するようになったためと理解される。今後のポスト・コロナ期にも続くかどうか予断を許さないが、若い世代が参入したことは、今後の担い手への継承という点で大きな期待が持てる。反対に懸念されるのは、子育て期を終えた女性世代の地域参加率が低下している点であろう。3章、2章で検討したことを考え合わせると、これはこの時期に就労する人が増え、家事と仕事の負担が重くなっていることが大きいだろう。女性の職業参加が進むこと自体は望ましいことであるが、地域参加を犠牲にするかたちになるとトレードオフになる。これまでは、子ども会やPTAで地域とのつながりをつくった女性の一部が次のステップとして地域づくりにも参加していくという流れがみられたが、変わってしまう可能性がある。

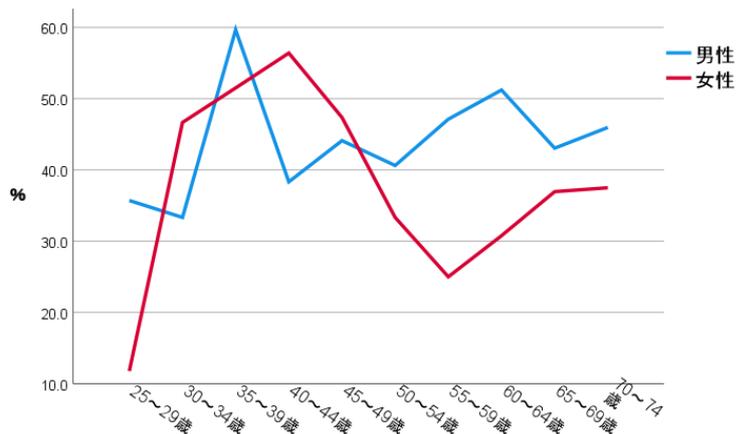
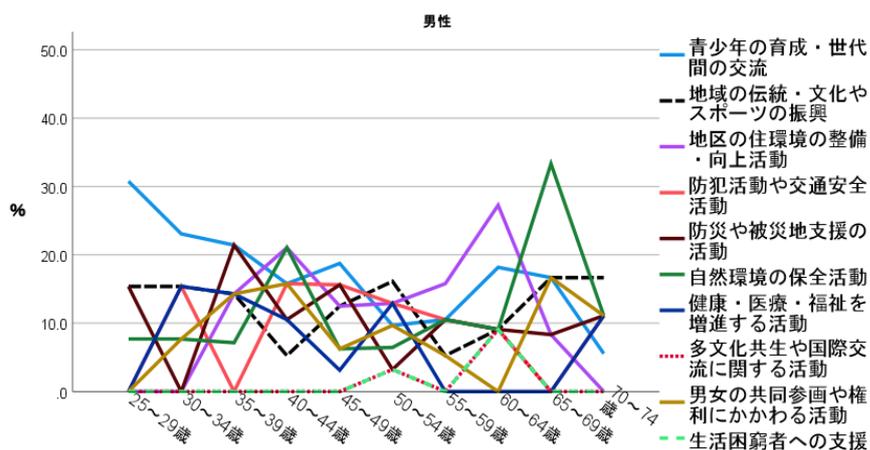


図7-1 まちづくり活動に一つ以上参加した比率(最近1年以内) (%)

ここでは最後に、まちづくりに参加していない層の潜在的意欲に注目してみよう。図7-2は、本調査の設問8の付問で、現在いずれの活動にも参加していない人に「時間があれば参加したいと思うものがあれば記入してください」とたずねた結果を男女別に示したものである(複数回答)。これをみると、やはり若い世代の参加意欲は低くないことが分かるだろう。とくに女性では若い世代で各種の活動への参加意欲が高く、「健康・医療・福祉」「男女の共同参画」「自然環境の保全」「多文化共生」のようなテーマ型活動でも参加意欲が高くなっている¹⁶。他方、老後を控え、仕事と家事に追われていると想定される50歳代女性ではここでも消極性が目につき、コントラストが非常に大きくなっている。



¹⁶ おなじ質問に対して2015年調査では「男女の共同参画」に取り組む意欲がほぼみられなかったのと比較すると大きな意識の変化がみられる。

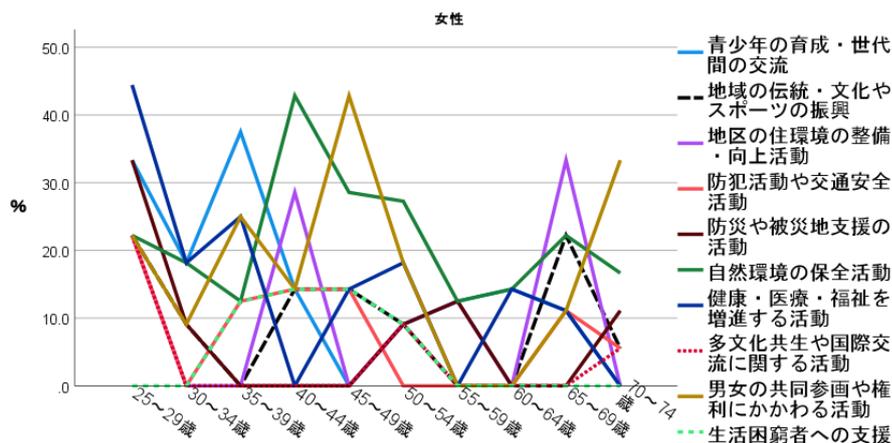


図7-2 現在はいずれも不参加だが、時間があれば参加してみたい活動(%)

以上の結果をみると、現在の不参加層は関心がないのではなく、時間の余裕ができ、参加の機会やメニュー、経路があれば、意欲が行動にむすびつく人がかなりいると期待できる。将来に希望が持てる結果であるとともに、現在は必ずしもその条件が十分整っていないということでもある。今回の調査結果を2015年調査データとあわせて見ると、女性の再就労、フルタイム雇用化が進んだことが、いまのところキャリア後半期の地域活動を抑制していて、ジェンダー間のワークライフ・バランスの調整が一つの課題となっている。また地縁型活動の制度的・組織的回路・メニューが、自治会関連の団体、企業の社会貢献活動などで従来中高年の男性を中心に運営されていて、潜在的な参加意欲がある人を、とくに女性で未然に遠ざけてしまっているといえよう。コロナ禍をきっかけに、まちづくり活動に若い世代が参加する/参加意欲をもつようになっている現在、今後のまちづくりや支援策はどのようなかたちをとればよいのだろうか。

冒頭で確認したように、今後日本の地域社会で大きな問題となるのは、少子高齢化、多文化共生、女性の社会進出、環境問題、災害・パンデミック、生活困窮支援等であり、豊田市も例外ではない。これらの課題は個人の努力や行政の施策だけで解決できる問題ではなく、また自治区のこれまでの活動の守備範囲も越えるテーマである。多くの場合、これらは特定の関心をもつ人々が、とくに都市部でNPO・ボランティアを組織して取り組む市民活動であった。しかし別のアプローチも存在するのではないだろうか。これまで数次の調査を通してみてきたように、豊田市の場合は、雇用が安定し定住性が高いため地縁・職縁が比較的つよく、地縁型の活動経験者の一定割合がテーマ型の活動にも進出し取り組んでいることがひとつの強みであった。このような強みを生かす方向で考えると、第一に、地縁・職縁と地域的愛着が強く、かつ社会的関心の高い人材を発掘・リクルートするかたちで、地域のニーズの枠内でテーマ型の活動に取り組んでいく、というのが有望な方向性になるだろう。環境問題、福祉、多文化共生、男女共同参画などは本来テーマ型活動であるが、地域の環境、地域の高齢者向け活動、といった枠組みに落とすことで、「地縁化」した活動に変換することができる。地域の多くの住民に受け入れられる、あるいは少なくとも反対されないためには、先鋭的な価値や主張は抑制せざるをえないだろうが、そうすること

で、多くの住民のニーズに応え支持される活動になりうるのである。われわれがフィールドにしてきた保見団地の例で言うと、(コロナ禍による中断を除いて)毎年開催されてきた「ほみにおいでん」は、よく知られた多文化共生のイベントとなっているが、担い手は地域に職縁・地縁をもつ日本人・ブラジル人のリーダーたちである。内容も誰にでも受け入れられる楽しいものとなっている。

もう一つは、地縁型活動の枠内で新たなニーズに応じていくやりかたである。イベントの活用、スポーツの活用、子育て支援の拡充など、慣習化した自治区の守備範囲を越えた通念的テーマを設定することで、新たな通念的活動が可能になる。おなじく調査フィールドとしてきた東山地区では、従来の夏祭り・秋祭りに加えて、桜まつり、渋谷まつり、クリスマス会、越年祭など、新しい祭りを創出することで、まちづくりを活性化している。祭りに小中学生が参加することで、両親、祖父たちも祭りを楽しみ、また祭りの運営にかかわることで、自治会のリクルートと活性化が達成されている。三重県四日市の内部地区のケースでは、地元企業OBのリーダーのアイデアで総合型スポーツクラブが健康づくり、青少年育成、まちかど博物館の運営に乗り出し、自治会と提携することで、まちづくりが活性化している。こうした事例は、通念的・地縁型の活動の枠内で職縁も生かしつつ、新たなニーズを掘り起こしていく試みとして注目される。

もちろん、市民活動の本隊であり、特定関心にもとづいてテーマ型活動をおこなっている市民団体・NPOに資金・人材・活動場所・情報提供の面で支援することも重要な意義をもつだろう。豊田市の場合はスタートアップ支援やとよた市民活動センターでの支援、つなぎすとの育成などがこれに相当するが、わくわく事業や地域課題解決事業のような地縁型活動への支援メニューに比べるとやや控えめで、拡充の余地がありそうである。

まちづくり活動・市民活動の成果は目にみえにくいもので、重要性が見逃されがちである。しかし参加者本人の生きがい、成果の受益者たちの満足度、地域活性化、地域イメージの改善などを考慮すると、物的インフラ整備などに比べても費用対効果が大きいソフトパワーである。すでに地縁型活動を中心に発展をとげてきた豊田のまちづくりであるが、大きな社会環境の変化のなか手をこまねいては自治区を中心に担い手不足や活動の形骸化が進む可能性もある。ジェンダー間のワークライフ・バランスを見直し、地縁・職縁を中心としたネットワークを生かし広げながら、まちづくりが変化に適応して活力を維持していくことを期待したい。

文献

丹辺宣彦編，2016，『「豊田市のまちづくりと市民活動に関する調査Ⅱ—変貌する豊田の市民社会—」』，科学研究費研究成果報告書(課題番号 26285110)。

豊田市のまちづくりと市民活動に関する調査 Ⅲ

—コロナ感染のもとでの暮らしと再建—

現在、名古屋大学社会学研究室では文部科学省から科学研究費（基盤研究(B):課題番号 26285110）を受け、豊田市にお住まいの方を対象に、まちづくりと市民活動に関するアンケート調査を実施しております。今回のコロナ感染問題を受け、生活やまちづくりへのダメージ、立て直しの見通しなどについて改めて調査させていただくことになりました。本調査は、豊田市にお住まいの方からくじ引きのような方法（無作為抽出）で選んでお願いしているもので、今後のまちづくりに役立てるための学術調査です（過去の調査概要については研究室ホームページ[<http://133.6.182.123/sociology/faculty>]をご覧ください）。ご回答は、すべて統計的にコンピューターで集計し、個人を特定できないようにいたしますので、皆さまの個人情報が外部に出てご迷惑をかけることは決してございません（本研究は、「日本社会学会倫理綱領・研究指針」にもとづいて行われます）。お忙しいところ誠に恐縮ですが、差し支えなければご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本アンケートに関するお問い合わせにつきましては、下記までご連絡ください。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院環境学研究科・文学部 社会学研究室

教授 ^に ^べ ^の ^び ^こ 丹辺 宣彦 TEL ×××-×××-××××（平日10:00～13:00/14:00～17:00）

【ご記入に関してのお願い】

- ① 本アンケートは、封筒のあて名に記された ご本人 にご回答をお願いいたします。
- ② 同封のボールペン、あるいは鉛筆でご回答ください。
- ③ 回答は、当てはまる項目の数字を○で囲んでいただくものが中心ですが、空欄に○を記入するもの、数字や文字を記入していただくものもございます。指示にしたがってお答えください。
- ④ 質問によっては、一部の方だけにおたずねするものもあります。この場合は、矢印(→)の指示にしたがってお進みください。
- ⑤ ご記入いただきましたら、記入もれや間違いがないか再度ご確認ください。
- ⑥ ご回答いただきました用紙は、返信用封筒にお入れいただき、8月21日(日)まで にご投函ください（匿名化するため、差出人住所・氏名は記入不要です）。



以下の問いの回答欄の数字を○で囲んでください。

問1 あなたの性別(戸籍上の)はどちらですか。

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問2 あなたの年齢はつぎのどれに当たりますか。

1. 25～29 歳	2. 30～34 歳	3. 35～39 歳	4. 40～44 歳	5. 45～49 歳
6. 50～54 歳	7. 55～59 歳	8. 60～64 歳	9. 65～69 歳	10. 70～74 歳

問3 豊田市と現在のお住まいには何年ほどお住まいですか。【数字をご記入ください】

豊田市に約 () 年 → うち現在の住まいに約 () 年

↓
 現在のお住まいに引っ越されて来た方にうかがいます。

【付問】直前にお住まいの場所はどこでしたか。また、その引越しのきっかけは何でしたか。

1. おなじ町内	2. 豊田市内	3. 愛知県内(市町村名:)
4. 県外(県名:)	5. 国外(国名:)	
1. 仕事のため	2. 結婚のため	3. 住み替えのため
4. 家族の都合で	5. その他()	

問4 あなたは、次にあげるようなことにどのくらい愛着を感じていますか。a)とb)のそれぞれについて、もっとも近い番号を選んでください。

	強い愛着がある	ある程度愛着がある	どちらともいえない	あまり愛着はない	まったく愛着はない	あてはまらない
a) 現在お住まいの地域	1	2	3	4	5	
b) 現在のお仕事	1	2	3	4	5	9

問5 自由に使える時間が今より増えたら、あなたは何をしたいと思いますか。次の a) ~ e) についてお答えください。【1~4の数字のうち一つを○で囲んでください】

	とても したいと思う	ある程度 したいと思う	あまりしたいとは思 わない	したいとは思 わない
a) 趣味や娯楽	1	2	3	4
b) 仕事や能力開発	1	2	3	4
c) 家族・友人と過ごす	1	2	3	4
d) ボランティア活動や NPO 活動	1	2	3	4
e) 地域交流や自治活動	1	2	3	4

問6 職場で仕事に取り組む際に心がけていること(いたこと)は何ですか。近いものの番号に○を付けてください【職場でお仕事をされたことのない方は次の問7へお進みください】。

A)	A)に近い	← ややA)	どちらとも 言えない	→ ややB)	B)に近い	B)
1) チームワーク や信頼関係	1	2	3	4	5	個人が自由に能力 を発揮すること
2) 職場内の人間 関係を深める	1	2	3	4	5	職場の外のネット ワークをつくる
3) 創意や工夫、変化を おそれないこと	1	2	3	4	5	慣習や前例の尊重
4) 権威の尊重・リーダ ーシップの発揮	1	2	3	4	5	オープンな話し合 いや民主的な運営
5) 目的の効率的 な達成	1	2	3	4	5	純粋なやりがい や満足
6) 男女の区別な く活躍すること	1	2	3	4	5	男女がそれぞれ得 意分野を生かす
7) 専門性を深く 追求したい	1	2	3	4	5	こなせる業務の幅 を広げたい

【お仕事のある方に】

問7 今のお仕事は新人が習熟するのに普通でおよそどれぐらい時間がかかりますか？

→ 約()年 あるいは 約()か月 あるいは 約()日

問8 あなたは、どのような種類のまちづくり活動に参加したことがありますか【 a)～j)について数字に○をしてください】。また、参加したことがある場合は、①この1年間の活動の有無、②今後の参加、についてお答えください。【あてはまる場合は空欄に○を記入してください】

	以下のまちづくり活動に参加した経験がある	①この1年間に活動したことがある	②今後(も)参加したい
【回答例】 〇〇に関する活動	1. はい <input checked="" type="checkbox"/> 2. いいえ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
a) 青少年の育成・世代間の交流(PTA・子ども会活動も含む)	1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b) 地域の伝統・文化やスポーツの振興	1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c) 地区の住環境の整備・向上活動 (美化・緑化等含む)	1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d) 防犯活動や交通安全活動	1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e) 防災や被災地支援の活動	1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f) 自然環境の保全活動	1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
g) 健康・医療・福祉を増進する活動	1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
h) 多文化共生や国際交流に関する活動	1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
i) 男女の共同参画や権利にかかわる活動	1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
j) 生活に困窮している人への支援(子ども食堂・フードバンクなど)	1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

k)その他にあれば具体的に () (次のページへ続きます)

【いままで参加経験がない方に】

【付問1】 事情が許せば今後参加してみたい活動はどれですか。【○はいくつでも】

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 青少年の育成・世代間の交流 | 2. 地域の伝統・文化やスポーツの振興 |
| 3. 地域の住環境の整備・向上 | 4. 防犯活動・交通安全活動 |
| 5. 防災活動・被災地支援 | 6. 環境の改善・保全 |
| 7. 健康・医療・福祉の増進 | 8. 多文化共生・国際交流 |
| 9. 男女の共同参画・権利関連 | 10. 生活に困窮している人への支援 |
| 11. その他 () | 12. とくになし |

問9 地域やコミュニティで活動する際に心がけていることは何ですか。近い番号に○を付けてください【活動した経験のない方は問11へお進みください】。

A)	A)に近い	← ややA)	どちらとも 言えない	→ ややB)	B)に近い	B)
1) チームワーク や信頼関係	1	2	3	4	5	個人が自由に能力 を発揮すること
2) 近隣の人間関 係を深める	1	2	3	4	5	地域外のネットワ ークをつくる
3) 創意や工夫、変化を おそれないこと	1	2	3	4	5	慣習や前例の尊重
4) 権威の尊重・リーダ ーシップの発揮	1	2	3	4	5	オープンな話し合 いや民主的な運営
5) 目的の効率的 な達成	1	2	3	4	5	純粋なやりがいや 満足
6) 男女の区別な く活躍すること	1	2	3	4	5	男女がそれぞれ得 意分野を生かす

問10 次の a) ~ i) について、メンバーとして活動に参加したことがある団体はありますか【数字に○をつけてください】。また、参加している場合、①この1年間に活動しましたか、②成果に満足していますか。【あてはまる空欄に○をおつけください】

	以下の団体の活動に参加した経験がある	①この1年間に活動したことがある	②活動を通じて新しい友人ができた
【回答例】 ○○団体	1. はい <input checked="" type="checkbox"/> →	<input type="checkbox"/>	
	2. いいえ		
a) 自治区やコミュニティ会議の会合・活動	1. はい <input type="checkbox"/> →		
	2. いいえ		
b) 子ども会の活動、PTAの役員・委員としての活動	1. はい <input type="checkbox"/> →		
	2. いいえ		
c) 地域的なまちづくり団体(上の a)・b)以外のもの)	1. はい <input type="checkbox"/> →		
	2. いいえ		
d) NPO・ボランティア団体 (地元地域の枠を超えて活動をしているもの)	1. はい <input type="checkbox"/> →		
	2. いいえ		
e) 社会運動団体 (平和運動や環境運動のように新しい価値の実現を目指す団体)	1. はい <input type="checkbox"/> →		
	2. いいえ		
f) 企業や経営団体関連の社会貢献活動	1. はい <input type="checkbox"/> →		
	2. いいえ		
g) 労働組合関連の社会貢献活動	1. はい <input type="checkbox"/> →		
	2. いいえ		
h) 生活協働組合関連の社会貢献活動	1. はい <input type="checkbox"/> →		
	2. いいえ		
i) その他 ()	1. はい <input type="checkbox"/> →		

問 11 あなたは現在の生活について、どの程度満足していますか。【数字に○を付けてください】

	満足している	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満である	該当しない
a) 全体的に	1	2	3	4	
b) お仕事の成果	1	2	3	4	9
c) 職場の人間関係	1	2	3	4	9
d) 家族との関係	1	2	3	4	9
e) 友人との関係	1	2	3	4	
f) 地域との交流	1	2	3	4	
g) 健康面で	1	2	3	4	

問 12 現在生活するうえで具体的にお困りのことがありますか。【数字に○を付けてください】

	はっきり感じる	少し感じる	あまり感じない	まったく感じない
a) 話し相手、相談相手が少ない	1	2	3	4
b) 病気がちである	1	2	3	4
c) 外出がおっくうになった	1	2	3	4
d) 生活に張り合いがない	1	2	3	4
e) 防犯上の心配	1	2	3	4
f) 災害時の心配	1	2	3	4
g) 雇用の不安【退職した方は除く】	1	2	3	4
h) 経済面・家計の不安	1	2	3	4
i) 感染症への不安	1	2	3	4

問 13 あなたは、ふだんいっしょにお茶や食事を楽しむ友人が何人くらいいますか。

1. いない	2. 1～2人	3. 3～5人
4. 6～9人	5. 10人以上	

問 14 あなたは、ご近所の親しい方とはどのようなお付き合いをされていますか。

【○はいくつでも】

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. お茶や食事をいっしょにする | 2. 趣味・娯楽をいっしょに楽しむ |
| 3. 情報を交換したり相談にのる | 4. 子どもを通したつきあい |
| 5. 困ったときに助け合う | 6. 家を訪ねあう |
| 7. 外で立ち話をする程度 | 8. とくにつきあいはない |

問 15 お住まいの地域に、職場や仕事関係で知り合った知人の方はいらっしゃいますか。

- | | | | |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. いない | 2. 1～2人いる | 3. 3～5人いる | 4. 6～9人いる |
| 5. 10人以上 | 6. 分からない | | |

問 16 困ったことが起きたときに、相談できる下のような立場の人はいますか【○はいくつでも】

- | | | |
|--------------------|------------------------|--------------|
| 1. 企業の経営者・役員 | 2. 弁護士・司法書士 | 3. 税理士・公認会計士 |
| 4. 市議・県議 | 5. 自治区区長・地域会議委員 | 6. 市役所職員 |
| 7. 医師 | 8. ケアマネージャー・社会福祉協議会の職員 | |
| 9. NPO・ボランティア団体の代表 | 10. 職場の上司・同僚 | |

問 17 さまざまな国から豊田市に來ている人が地域社会の活動に参加することについて、どれほど重要と思われますか。a) ～ c) についてお答えください。【数字の一つに○】

	とくに重要	どちらかといえは重要	どちらとも言えない	重要ではない
a) 文化的な交流や地域のまちづくり活動に参加すること	1	2	3	4
b) 投票権をもったり議員になったりすること	1	2	3	4
c) 地域で働いたり事業を經營すること	1	2	3	4

↳あなたご自身が日本国籍でない場合は国籍を教えてください→ () 国籍

問 18 外国人(日本人以外)の友人・親しい方はいらっしゃいますか。【一つに○】

	いない	1人	2~3人	数人以上いる
a) 職場関係に	1	2	3	4
b) 住んでいる地域に	1	2	3	4
c) 親族関係で	1	2	3	4
d) インターネット上で	1	2	3	4

「いる」方にうかがいます

↓

付問1 一番親しい人の国籍は()

↓

付問2 その方とはどのようなお付き合いをされていますか【○はいくつでも】

1. お茶や食事をいっしょにする	2. 趣味・娯楽をいっしょに楽しむ
3. 情報を交換したり相談にのる	4. 子どもを通したつきあい
5. 困ったときに助け合う	6. 家を訪ねあう
7. 立ち話をする程度	

問 19 お仕事で一週間以上外国の地域に出張されたことがありますか【○はいくつでも】。

1. 北米地域	2. 南米地域
3. ヨーロッパ地域	4. アジア地域
5. アフリカ地域	6. オーストラリア地域
7. 中近東地域	8. ロシア周辺地域
9. とくにない	

問 20 健康維持や食生活にどれくらい配慮しておられますか。【一つに○】

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
a) 栄養バランスに気を付けて食事をしている	1	2	3	4
b) 定期的に運動するようにしている	1	2	3	4
c) 無農薬や有機栽培の野菜、無添加の食品を購入している	1	2	3	4
d) 国産の野菜や肉を購入している	1	2	3	4

問 21 余暇やレジャーをどれくらい楽しんでおられますか。コロナ禍以前の最近の 5、6 年についてお答えください。【一つに〇】

	週 1 回 以上	月 1 回 くらい	年に 1 回か ら数回	数年に 1 度 くらい	ここ数年し たことはな い
a) クラシックの音楽会・コンサートへ行く	1	2	3	4	5
b) 美術館や博物館に行く	1	2	3	4	5
c) カラオケをする	1	2	3	4	5
d) パチンコをする	1	2	3	4	5
e) ゴルフをする	1	2	3	4	5
f) 短歌や俳句の会に参加する	1	2	3	4	5
g) 小説や歴史の本を読む	1	2	3	4	5
h) スポーツ新聞や女性週刊誌を読む	1	2	3	4	5
i) 手の込んだ料理を作る（フランス料理など）	1	2	3	4	5
j) 家庭菜園・市民農園などで農作業をする	1	2	3	4	5

最後に、あなたご自身のことについておうかがいします。

問 22 いっしょに暮らしているご家族の人数は何人ですか。

あなたを含めて () 人

↓ ご家族と同居されている方にうかがいます。

【付問】あなたの家族構成は次のうちのどれですか。

1. 核家族（父親・母親と子どもだけ）
 2. 三世同居家族（親子と祖父母）
 3. その他（どのような構成ですか？）

問 23 あなたは現在結婚されていますか。

- | |
|--|
| 1. 未婚
2. 既婚・配偶者あり(現在、夫または妻がいる)
3. 離別・死別(夫または妻と離別・死別して、現在は独身) |
|--|

【結婚したことがある方(2または3を選んだ方)】にうかがいます。

【付問】あなた方ご夫婦はどのようなきっかけで知り合いましたか。もっとも近い番号に○をつけてください(再婚の方は、最近の結婚についてお答えください)。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 家族・親族の紹介 | 2. 職場の上司の紹介 |
| 3. 友人の紹介 | 5. その他の知り合いの紹介 |
| 5. 学校が一緒 | 6. 職場やアルバイト先が一緒 |
| 7. 団体やサークルが一緒 | 8. 旅先や町中で |
| 9. 近所に住んでいた | 10. その他(具体的に) |

問 24 現在お子さんはいらっしゃいますか。(同居していない場合も含めて)

- | | |
|---------------|--------|
| 1. いる → () 人 | 2. いない |
|---------------|--------|

【お子さんがいらっしゃる方にうかがいます。】

【付問】上のお子さんから順に(3人まで)、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。年齢は数字をご記入ください。

	1番上のお子さん	2番目のお子さん	3番目のお子さん
性別	1. 男性 2. 女性	1. 男性 2. 女性	1. 男性 2. 女性
年齢	() 歳	() 歳	() 歳
現在のお住まいはどちらですか。	1. あなたと同居 2. 豊田市内 3. 愛知県内 4. 県外() 県 5. 国外	1. あなたと同居 2. 豊田市内 3. 愛知県内 4. 県外() 県 5. 国外	1. あなたと同居 2. 豊田市内 3. 愛知県内 4. 県外() 県 5. 国外
最後に卒業された学校はつぎのどれにあたりますか。	1. 中学校 2. 高校・専修・専門学校 3. 短大・高専 4. 大学・大学院 5. 当てはまらない	1. 中学校 2. 高校・専修・専門学校 3. 短大・高専 4. 大学・大学院 5. 当てはまらない	1. 中学校 2. 高校・専修・専門学校 3. 短大・高専 4. 大学・大学院 5. 当てはまらない

問 25 豊田市内にご親戚（親・子を含む）の家は何軒ほどありますか。

1. 1～2軒	2. 3～5軒	3. 6～9軒
4. 10軒以上	5. なし	

問 26 世間一般の生活水準を仮に下のよう5つに分けると、あなたはどこに入るとお考えですか。

【番号に○を】

1. 上の 1/5	2. 2番目の 1/5	3. 中位の 1/5	4. 4番目の 1/5	5. 下の 1/5
-----------	-------------	------------	-------------	-----------

問 27 つぎの a)～c) について、あてはまるものに○をつけてください。配偶者のいない方は「あなた」の欄だけお答えください。【それぞれの欄の数字に一つ○をつけてください】

	あなた	配偶者
a) 中学校を卒業されたときはどこにお住まいでしたか。	1. 現在の住所 2. 豊田市内 3. 愛知県内 4. 県外（ 県） 5. 国外	1. 現在の住所 2. 豊田市内 3. 愛知県内 4. 県外（ 県） 5. 国外
b) 最後に卒業された学校はつぎのどれにあたりますか。	1. 中学校 2. 高校・専修学校・専門学校 3. 短期大学・高等専門学校 4. 大学 5. 大学院	1. 中学校 2. 高校・専修学校・専門学校 3. 短期大学・高等専門学校 4. 大学 5. 大学院
c) 学校を卒業後に、 <u>最初</u> についてのお仕事はなんでしたか。	1. フルタイム（正規就業） 2. 派遣社員・契約社員・パート・アルバイトなど 3. 自営業・家族従業者 4. 仕事に就かなかった	1. フルタイム（正規就業） 2. 派遣社員・契約社員・パート・アルバイトなど 3. 自営業・家族従業者 4. 仕事に就かなかった
d) ご両親はどちらに住んでいますか（別々の場合は近い方をお答えください）。	1. 同居している 2. 豊田市内 3. 愛知県内 4. 県外（海外含む） 5. 両親ともいない	1. 同居している 2. 豊田市内 3. 愛知県内 4. 県外（海外含む） 5. 両親ともいない

問 28 現在、または以前にどのようなお仕事をなさっていますか。配偶者のいない方は「あなた」の欄だけお答えください【それぞれの欄の数字に一つ○をつけてください】

	あなた	配偶者
<p>a) 現在、収入をとまなう仕事をしていいますか。</p> <p>以下は右で <u>1~3</u> を選ばれた方にうかがいます</p> <p>↓</p>	<p>1. フルタイム(正規就業)で働いている</p> <p>↳約()年勤めた</p> <p>2. パートや非常勤・嘱託で働いている</p> <p>3. 今は働いていないが、過去には働いていた</p> <p>4. 収入のある仕事をしたことはない</p> <p>↳以下の欄は記入不要です</p>	<p>1. フルタイム(正規就業)で働いている</p> <p>2. パートや非常勤・嘱託で働いている</p> <p>3. 今は働いていないが、過去には働いていた</p> <p>4. 収入のある仕事をしたことはない</p> <p>↳以下の欄は記入不要です</p>
<p>e) そのお仕事の種類は、どれに当たりますか。</p> <p>(現在お仕事をしておられない方は、これまでに一番長く勤めた仕事について○をつけてください。)</p> <p>↓</p>	<p>1. 専門職・技術職 (教員・技術者・看護師など)</p> <p>2. 管理職 (企業や役所の課長以上)</p> <p>3. 事務 (営業事務もふくみます)</p> <p>4. 販売・セールス (販売店員・商店主など)</p> <p>5. サービス・保安職 (美容師・飲食店員・警備員など)</p> <p>6. 生産工程 (工場・建設作業など)</p> <p>7. 運輸・通信 (運転手・配達など)</p> <p>8. 農林漁業など</p> <p>9. その他()</p>	<p>1. 専門職・技術職 (教員・技術者・看護師など)</p> <p>2. 管理職 (企業や役所の課長以上)</p> <p>3. 事務 (営業事務もふくみます)</p> <p>4. 販売・セールス (販売店員・商店主など)</p> <p>5. サービス・保安職 (美容師・飲食店員・警備員など)</p> <p>6. 生産工程 (工場・建設作業など)</p> <p>7. 運輸・通信 (運転手・配達など)</p> <p>8. 農林漁業など</p> <p>9. その他()</p>
<p>f) 雇用関係</p> <p>↓</p>	<p>1. 雇用されている(いた)</p> <p>2. 人を雇っている(いた)</p> <p>3. 自営・家族経営</p>	<p>1. 雇用されている(いた)</p> <p>2. 人を雇っている(いた)</p> <p>3. 自営・家族経営</p>
<p>g) お勤め先の規模</p> <p>↓</p>	<p>1. 1~29名</p> <p>2. 30~299名</p> <p>3. 300~999名</p> <p>4. 1000名以上</p> <p>5. 官公庁・公立学校</p>	<p>1. 1~29名</p> <p>2. 30~299名</p> <p>3. 300~999名</p> <p>4. 1000名以上</p> <p>5. 官公庁・公立学校</p>
<p>e) トヨタ自動車関連の会社ですか</p> <p>↓</p>	<p>1. トヨタ自動車</p> <p>2. トヨタ関連のメーカー・販売会社など</p> <p>3. その他</p>	<p>1. トヨタ自動車</p> <p>2. トヨタ関連のメーカー・販売会社など</p> <p>3. その他</p>

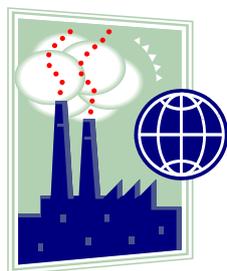
↓	あなた	配偶者
f) お勤め先の場所 ↓	1. 豊田市内 2. 名古屋市内 3. それ以外 ()	1. 豊田市内 2. 名古屋市内 3. それ以外 ()
g) 通勤時間	1. 約 () 分 2. 自宅・テレワーク	1. 約 () 分 2. 自宅・テレワーク
h) コロナ問題発生前に比べて現在の収入は変わりましたか	約 () % { 1. 減った 2. 増えた 3. 変わらない	

問 29 現在のお住まいは、どのような種類のものですか。

1. 一戸建て（持ち家）	2. 一戸建て（賃貸）	3. 民間集合住宅（持ち家）
4. 民間集合住宅（賃貸）	5. 公営住宅	6. 社宅・寮など

問 30 現在は、どの地区にお住まいですか。

1. 挙母地区	2. 上郷地区	3. 猿投地区	4. 高岡地区
5. 高橋地区	6. 松平地区	7. その他の地区()	



質問は以上です。お答えいただき大変ありがとうございました。
本アンケートについてお気づきの点やご意見などございましたら自由にご記入ください。今後の参考にさせていただきます。
なお、1 時間程度のインタビューにご協力いただける場合はメール・アドレスをご記入ください。お願いする場合は後日連絡させていただきます。

執筆者一覽

中村 麻理 名古屋文理大学健康生活学部 教授 (研究分担者:4 章担当)

丹辺 宣彦 名古屋大学大学院環境学研究科・文学部 教授 (研究代表者:1 章/2 章/終章担当)

三田 泰雅 四日市大学総合政策学部 教授 (研究分担者:5 章担当)

Song Gi Jung 名古屋大学大学院環境学研究科 博士課程 (1 章/6 章担当)

鈴木 健一郎 名古屋大学大学院環境学研究科 博士課程 (3 章担当)

「豊田市のまちづくりと市民活動に関する調査Ⅲ」
報告書

科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書
(課題番号：18H00925)
研究代表者：丹辺 宣彦

2023年3月15日

印刷 名古屋大学消費生活協同組合印刷部

表表紙写真：再開された東山地区・秋祭りの様子

